044451-K1

株式会社　日立製作所
ITプラットフォーム事業本部
ソフト技術部

取　扱　説　明　書　０４４４５１－Ｋ１

Ｐ－２４１Ｚ－１１１１

ＩＴ　Ｒｅｐｏｒｔ　Ｕｔｉｌｉｔｙ　０２－０１

IT Report Utility (Windows版) の機能

再生紙を使用しています。

この取扱説明書で説明する機能は，下表に示す変更履歴を持っています。

取扱説明書番号	変　更　内　容	変更区分 (*1)	提供システム バージョン・リビジョン
038887	初版	－	システム情報採取ツール 01-00 (Windows版)
038887-K1	次のOSに対応しました。 ・ Microsoft®Windows Server® 2003 R2, Standard Edition,SP2 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition,SP2 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition,SP2 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition,SP2 日本語版	S	システム情報採取ツール 01-00 (Windows版)
039933	次のOSに対応しました。 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-bit 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 日本語版 (x64版) ・ Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版 (x64版)	A	システム情報採取ツール 01-01 (Windows版)
039933-K1	次のOSに対応しました。 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-bit,SP2 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit,SP2 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 Standard,SP2 日本語版 (x64版) ・ Microsoft® Windows Server® 2008	S	システム情報採取ツール 01-01 (Windows版)

取扱説明書番号	変　更　内　容	変更区分 (*1)	提供システム バージョン・リビジョン
	Enterprise,SP2 日本語版 (x64版) ・ Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版		
039933-K1	「６．５．２　systoru コマンド実行中のトラブル」に，Windows 2003 環境で，アプリケーションログにイベントが記録される現象と対処方法を追記しました。	S	システム情報採取ツール 01-01 (Windows版)
040710	次のOSに対応しました。 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation 日本語版	S	システム情報採取ツール 01-02 (Windows版)
	HA8000 サーバにバンドルされる「ハードウェア保守エージェント」と連携し，ハードウェアに関する資料を採取するための機能を追加しました。	A	
040710-K1	「３．７　インストール状態の確認」の手順を改訂しました。	C	システム情報採取ツール 01-02 (Windows版)
	「３．４　更新インストール」「３．５　修復インストール」「３．６　アンインストール」「３．８　バージョンの確認方法」の操作は，このツールをインストールした Administrator 権限のユーザが行う旨を追記しました。	C	
	「４．５．１　systoru コマンドの構文」「４．５．２　各種オプションとその機能」に各オプションの引数に定義されていない値を指定した場合の動作を追記しました。	S	
042830	次のOSに対応しました。 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Foundation 日本語版	S	システム情報採取ツール 01-03 (Windows版)

取扱説明書番号	変　更　内　容	変更区分 (*1)	提供システム バージョン・リビジョン
	・ Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Standard 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Enterprise 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Datacenter 日本語版		
	「付録 B. メッセージ一覧」に新設したメッセージ KAIS159-W の説明を追記しました。	A	
042830	採取する資料について追記しました。詳細は「付録 A. 採取資料一覧」「付録 E. 01-02 から 01-03 の間で追加／変更になった資料」を参照ください。	C	システム情報採取ツール 01-03 (Windows版)
043030	このツールの名称を「システム情報採取ツール」から「IT Report Utility」に変更しました。	C	IT Report Utility 02-00 (Windows版)
	日立オープンミドルウェアの IT Report Utility と連携し，日立オープンミドルウェアに関する資料を採取するための機能を追加しました。採取資料などの詳細は，各日立オープンミドルウェアの IT Report Utility の Readme ファイルをご参照ください。	A	
	「４．３　システム情報の採取方法」に，systoru.exe ファイルがあるディレクトリに移動する手順を追記しました。	S	
	「４．５．２　各種オプションとその機能」にデータディレクトリの最大長を追記しました。 また，「５．２．２　構成定義ファイルに設定できる値」の制御変数 SYSTORU_DATA_DIRECTORY の最大長を 260 文字から 70 文字に変更しました。	C	
	「４．５．６　systoru コマンド実行中の注意事項」に，システム負荷が高騰する可能性のある資料採取を，システム稼動状況に応じ	C	

取扱説明書番号	変　更　内　容	変更区分 (*1)	提供システム バージョン・リビジョン
	て選択する必要があることを追記しました。		
	「６．５．２　systoru コマンド実行中のトラブル」に，データディレクトリに指定する絶対パスの長さが 70 文字を超えていた場合に発生する可能性のある現象と対処方法を追記しました。 「付録 B. メッセージ一覧」のメッセージ KAIS113-E と KAIS140-W の対処方法にデータディレクトリに指定する絶対パスの長さを 70 文字以下とすることを追記しました。	S	
043030	採取に伴いシステム負荷が高騰する可能性のある資料を採取対象に含めるかを，ユーザが選択できるようにするための，問診機能および-m オプションの説明を追加しました。	A C	IT Report Utility 02-00 (Windows版)
043932	採取する資料を追加しました。詳細は「付録 A.採取資料一覧」「付録 F.02-00 から 02-00-/A の間で追加になった資料」を参照ください。	C	IT Report Utility 02-00-/A (Windows版)
044451	次のOSに対応しました。 ・ Microsoft® Windows Server® 2012 Foundation 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2012 Standard 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter,SP2 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-bit 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-bit,SP2 日本語版	S	IT Report Utility 02-01 (Windows版)
	採取する資料について追記しました。詳細は「付録A. 採取資料一覧」「付録G. 02-00-/A	C	

取扱説明書番号	変　更　内　容	変更区分 (*1)	提供システム バージョン・リビジョン
	から02-01の間で追加／変更になった資料」を参照ください。		
044451-K1	次のOSに対応しました。 ・ Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Foundation 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard 日本語版 ・ Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter 日本語版	S	IT Report Utility 02-01 (Windows版)

なお，単なる誤字・脱字などは，お断りなく訂正しました。

（注）＊１　変更区分Ｃ：機能を変更（変更又は削除）します。既存のユーザは，使い方を変更する必要があります。

変更区分Ａ：既存のユーザには影響ありません。新機能を使用する場合だけ，使い方を変更する必要があります。

変更区分Ｓ：機能の変更はありません。説明の追加・変更があります。

はじめに

■ 本書について

本書は「Ｐ－２４１Ｚ－１１１１　ＩＴ　Ｒｅｐｏｒｔ　Ｕｔｉｌｉｔｙ（Windows 版）　０２－０１」の機能と操作方法について説明するものです。

■ 対象読者

本書は，IT Report Utilityを使って，次の作業をする方を対象としています。

- IT Report Utilityを利用して資料採取を実施する方，または手順書提示などによって実施依頼する方
- IT Report Utilityを利用して採取した資料を扱う方

また，本書は，Windows について，システム管理者相当の知識を有していることを前提としています。

■ 本書の構成

本書は，次に示す章と付録から構成されています。

1章　概要

IT Report Utility の概要について説明しています。

2章　ご使用になる前に

IT Report Utility を使用する前に知っておく必要がある事項について説明しています。**初めて IT Report Utility をご利用される場合は，必ずこの章をご一読ください。**

3章　インストール，アンインストール，および IT Report Utility の情報の確認

IT Report Utility のインストール方法，アンインストール方法，および IT Report Utility の情報の確認方法について説明しています。

4章　機能と操作方法

IT Report Utility の機能と基本的な操作方法について説明しています。**初めて IT Report Utility をご利用される場合は，必ずこの章をご一読ください。**

5章　既定（デフォルト）動作の設定，変更方法

既定値（デフォルト値）の設定方法について説明しています。

6章　トラブルの対処方法

トラブル発生時の対処方法について説明しています。

付録Ａ　採取資料一覧

IT Report Utility で採取できる資料について説明しています。

付録Ｂ　メッセージ一覧

systoru コマンドが出力するメッセージについて説明しています。

付録Ｃ　実行時間とファイルサイズの目安

systoru コマンドの実行時間および systoru コマンドが出力する採取資料のファイルサイズについて説明しています。

付録Ｄ　ファイル一覧

IT Report Utility のインストールファイル，および，IT Report Utility が作成するファイルについて説明しています。

付録Ｅ　01-02 から 01-03 の間で追加／変更になった資料

IT Report Utility が採取する資料のバージョン間の変更内容を説明しています。

付録Ｆ　02-00 から 02-00-/A の間で追加になった資料

IT Report Utility が採取する資料のバージョン間の変更内容を説明しています。

付録Ｇ　02-00-/A から 02-01 の間で追加になった資料

IT Report Utility が採取する資料のバージョン間の変更内容を説明しています。

■　**本書で使用している用語**

用語	意味
IT Report Utility	システムの構成確認に必要な情報，および障害の一時切り分けや調査，解析に必要な情報を，効率的に採取するツールです。 バージョン 02-00 より「システム情報採取ツール」から変更しました。
systoru	IT Report Utility のコマンド名です。 SYStem TOtal Reporting Utility の略です。
UAC	ユーザー・アカウント制御 (User Account Control) の略で，Windows 2008，Windows Vista で追加されたセキュリティ機能です。administrator 以外の administrators グループのアカウントがデスクトップ上でアプリケーションを起動する際に，管理者権限が制限されます。
オプション，引数	systoru コマンドの説明で使用するオプション，引数を次のとおり定義します。 # systoru **-t** ***config*** **-t** = オプション，***config*** = 引数
クリーンアップ	IT Report Utility の機能の 1 つです。 systoru コマンドが生成した一時ファイルや中間ファイルの削除などが含まれます。systoru コマンド終了直前の最終処理です。

用語	意味
更新インストール	IT Report Utility がインストール済みのシステムで，新しいバージョンをインストール（バージョンアップ）するためのインストール方法のことです。
構成定義ファイル	IT Report Utility の動作を定義できる設定ファイルのことです。データディレクトリ，クリーンアップ方針，およびファイルサイズの上限値を設定できます。
コンピュータ名	Windows システムで，hostname コマンドの実行結果として表示される OS 上のマシン名称のことです。
採取ツール	IT Report Utility が資料を採取する際に起動するツールです。起動するツールは採取パターン定義ファイルに定義されていて，主に OS のコマンドと IT Report Utility に付属する専用のコマンドから成ります。
採取パターン定義ファイル	IT Report Utility が資料を採取する際に起動するツールや収集するファイルなどを定義したファイルです。このファイルは編集できません。
システム情報採取ツール	IT Report Utility の旧名称です。バージョン 02-00 から「IT Report Utility」に変更しました。
実行履歴ログ	IT Report Utility が出力するログファイルの 1 つです。実行履歴ログ（systoru_hist.log）は，systoru コマンドの実行履歴を記録するログで，1 回の実行で数行出力されます。サイズで制限され，systoru_hist_old.log と 2 世代がシステム上に残ります。
実行ログ	IT Report Utility が出力するログファイルの 1 つです。実行ログ（systoru.log）は，直前の systoru コマンドの処理をトレースし，出力するもので，systoru_old.log と 2 世代がシステム上に残ります。
修復インストール	IT Report Utility がインストールされているシステムで，ファイルの修復を目的に，同一バージョンをインストールするインストール方法のことです。
中間ファイル	IT Report Utility が資料を採取する過程で，一時的に作成するファイル（アーカイブ前のファイル，ディレクトリや圧縮前のアーカイブファイル）のことです。
データディレクトリ	採取資料を一時的に 1 か所に収集するための作業ディレクトリのことです。
ハードウェア保守エージェント	ハードウェア障害調査に必要な情報を採取する日立製サーバ付属のソフトウェアのことです。

■ **輸出時の注意**

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上，必要な手続きをお取りください。

なお，ご不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■ マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

■ KB（キロバイト）などの単位表記について

本書で使用する容量単位の各接頭語表記（K, M, G）の計算値は次のとおりです。

・1KB（キロバイト）＝1,024 バイトです。
・1MB（メガバイト）＝$1,024^2$ バイトの計算値です。（1,048,576 バイト）
・1GB（ギガバイト）＝$1,024^3$ バイトの計算値です。（1,073,741,824 バイト）

■ 商標類

・Intel Xeonは，アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
・Microsoft および Windows Server は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・Active Directory は，米国 Microsoft Corporation の，米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・Internet Explorer は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・Microsoft Exchange Server は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
・Windows PowerShell は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■ 本書での表記

本書では，次の OS 名称を省略して表記します。

Microsoft® Windows Server® 2003 R2,Standard Edition 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2003 R2,Standard Edition,SP2 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2003 R2,Enterprise Edition 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2003 R2,Enterprise Edition,SP2 日本語版
（以下 Windows Server 2003 R2 x86 版，Windows x86 版，Windows 2003 版または Windows）

Microsoft® Windows Server® 2003 R2,Standard x64 Edition 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2003 R2,Standard x64 Edition,SP2 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2003 R2,Enterprise x64 Edition 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2003 R2,Enterprise x64 Edition,SP2 日本語版
（以下 Windows Server 2003 R2 x64 版，Windows x64 版，Windows 2003 版または Windows）

Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-bit 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-bit,SP2 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit,SP2 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-bit 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-bit,SP2 日本語版
（以下 Windows Server 2008 x86 版，Windows x86 版，Windows 2008 版または Windows）

Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 日本語版 （x64 版）
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard,SP2 日本語版 （x64 版）

Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版 (x64 版)
Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise,SP2 日本語版 (x64 版)
Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 日本語版 (x64 版)
Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter,SP2 日本語版 (x64 版)
(以下 Windows Server 2008 x64 版, Windows x64 版, Windows 2008 版または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Foundation 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Standard 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Enterprise 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2, Windows x64 版, Windows 2008 版または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2012 Foundation 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2012 Standard 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2012, Windows x64 版, Windows 2012 版または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Foundation 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2012 R2, Windows x64 版, Windows 2012 版または Windows)

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2008, 2012, Hitachi, Ltd.

目　　次

１．　概要 1
１．１　IT Report Utility とは 1
１．２　IT Report Utility の特長 2
２．　ご使用になる前に 3
２．１　障害発生時の対応について 3
２．２　資料の再採取について 3
３．　インストール，アンインストール，および IT Report Utility の情報の確認 4
３．１　この章で説明する内容 4
３．２　インストールの前に 4
３．３　新規インストール 5
３．４　更新インストール 7
３．５　修復インストール 10
３．５．１　不足しているファイルを補う修復インストール 10
３．５．２　すべてのファイルを上書きする修復インストール 13
３．６　アンインストール 16
３．７　インストール状態の確認 19
３．８　バージョンの確認方法 20
３．８．１　systoru コマンドで確認する方法 20
３．８．２　ログファイルで確認する方法 20
３．８．３　OS の機能で確認する方法 21
４．　機能と操作方法 24
４．１　この章で説明する内容 24
４．２　IT Report Utility を実行する前に 25
４．３　システム情報の採取方法 26
４．３．１　システムの構成を把握するための情報 26
４．３．２　障害の初期切り分けのための情報 27
４．４　採取資料の参照方法 28
４．５　systoru コマンドの機能 32
４．５．１　systoru コマンドの構文 32
４．５．２　各種オプションとその機能 32
４．５．３　実行状況の画面表示 36
４．５．４　終了コード（戻り値） 37
４．５．５　systoru コマンドの出力ファイル（採取資料） 37
４．５．６　systoru コマンド実行中の注意事項 39
５．　既定（デフォルト）動作の設定，変更方法 42
５．１　既定（デフォルト）動作を設定，変更する方法 42
５．２　構成定義ファイル 42
５．２．１　構成定義ファイルの既定値（デフォルト値）と動作内容 43

５．２．２ 構成定義ファイルに設定できる値 43
５．３ 既定動作の設定例 44
５．３．１ データディレクトリを設定，変更する方法 44
５．３．２ 採取資料の出力先およびファイル名を設定，変更する方法 45
５．３．３ クリーンアップ方針を設定，変更する方法 45
５．３．４ 資料採取で消費するディスク容量の上限値を設定する方法 46
５．３．５ 利用者が作成した構成定義ファイルを利用する方法 46
５．４ 既定値設定の考え方 46
５．４．１ データディレクトリ（SYSTORU_DATA_DIRECTORY） 47
５．４．２ クリーンアップ方針（SYSTORU_CLEANUP） 47
５．４．３ 資料採取で消費するディスク容量の上限値（SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE） 47
６． トラブルの対処方法 48
６．１ トラブル対処時の留意点 48
６．２ ログファイルの種類と場所 48
６．２．１ 実行ログファイル 48
６．２．２ 実行履歴ログファイル 48
６．３ トラブルシュートに必要な資料 49
６．４ インストール，アンインストール時のトラブルシューティング 49
６．５ systoru コマンド実行時のトラブルシューティング 52
６．５．１ systoru コマンド起動直後のトラブル 52
６．５．２ systoru コマンド実行中のトラブル 54
６．５．３ 出力ファイル（採取資料）に関するトラブル 59
６．６ その他のトラブルシューティング 60
付録 A. 採取資料一覧 62
付録 B. メッセージ一覧 73
付録 C. 実行時間，ファイルサイズ，CPU 使用率とメモリ使用量の目安 84
付録 D. ファイル一覧 86
付録 E. 01-02 から 01-03 の間で追加／変更になった資料 90
付録 F. 02-00 から 02-00-/A の間で追加になった資料 91
付録 G. 02-00-/A から 02-01 の間で追加／変更になった資料 92

１．概要

１．１ IT Report Utilityとは

「IT Report Utility」は，システムの構成確認に必要な情報，および，障害の一次切り分けや調査／解析に必要な情報を，効率的に採取するためのツールです。

IT Report Utility の活用例を次に示します。

（例１）システム構成の把握

【利用状況】

・システム導入時，環境構築／テスト実施時および本番稼働開始直前のシステム構成を確認したり記録したりします。

・ハードウェア構成変更やソフトウェアのバージョンアップなど，システム変更前後の構成を確認したり記録したりします。

【期待する効果】

・お客様システムの構成を正確に把握できます。

・お客様システムの構成管理に対する作業負荷を低減できます。

（例２）障害の初期切り分け

【利用状況】

・システムに障害が発生した際に，障害の一次切り分けや調査／解析に必要となる資料を採取します。

【期待する効果】

・障害調査に必要な初期切り分け資料を採取する作業負荷を低減できます。

・初期切り分け資料の採取漏れに伴う障害対応の長期化を防止できます。

IT Report Utility の利用イメージを次の図に示します。

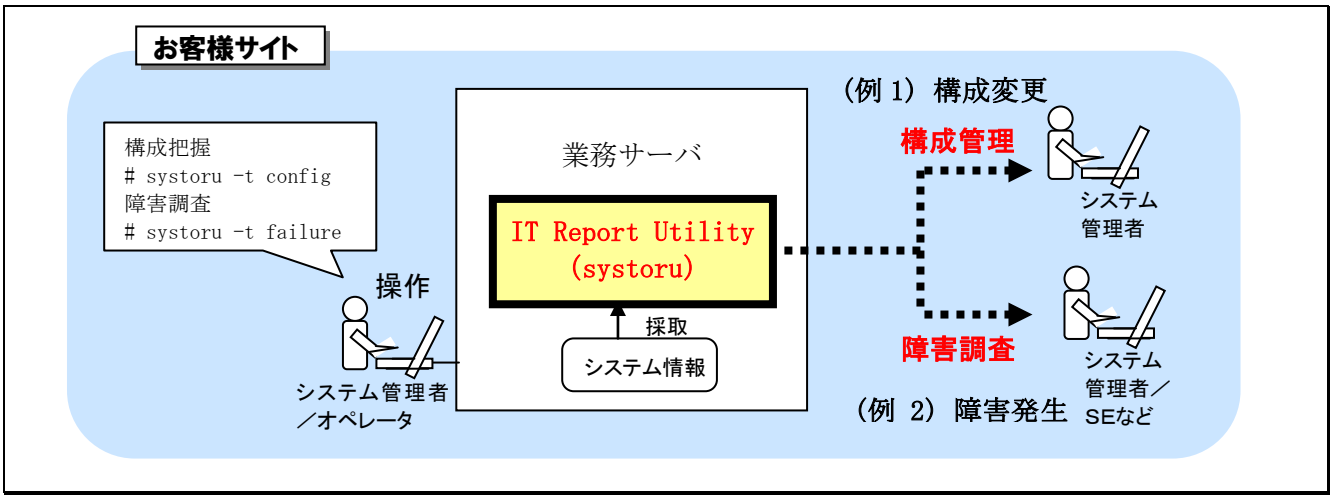


図 1-1 IT Report Utility の活用イメージ

１．２ IT Report Utilityの特長

IT Report Utilityの特長を次に示します。

- OSの違いや各資料の採取手順，方法を意識しないで資料の採取ができます。
- 複数の資料を1つのファイルとしてシステム上に出力できます。
- OSやハードウェア※，ミドルウェア（一部）などのログを資料として一括採取できます。
- システムの構成変更時や障害発生時など，状況に応じた資料が採取できます。

注※　HA8000サーバにバンドルされるハードウェア保守エージェントと連携することで，ハードウェアの障害調査に必要な情報をより多く採取できます。ハードウェア保守エージェントが採取する情報については，ハードウェア保守エージェントのマニュアルを参照してください。

２．ご使用になる前に

IT Report Utilityを利用する前に，知っておく必要がある事項について説明します。

IT Report Utility を初めて利用する場合は，必ずこの章の内容をご一読ください。

２．１ 障害発生時の対応について

システムに障害が発生している場合，IT Report Utilityの実行でエラーが発生して，資料採取に失敗することがあります。その場合は，IT Report Utilityとは別の方法で資料採取を実施するなどして，システムで発生している障害の復旧および原因究明を優先して実施してください。

障害発生時の対応例を次の図に示します。

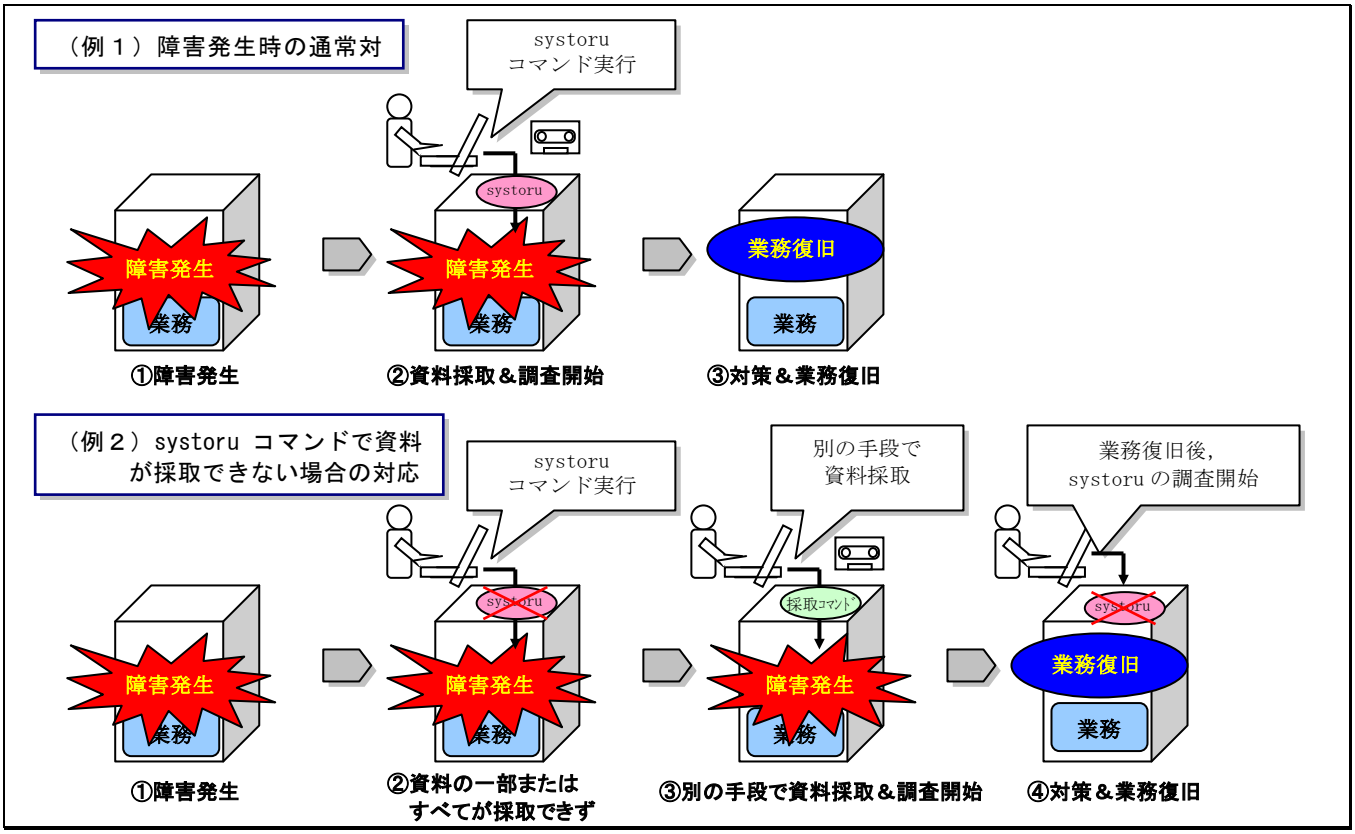


図 ２－１ 障害発生時の資料採取の対応

２．２ 資料の再採取について

IT Report Utility は，どのような状況や場面でも，すべての資料を漏れなく採取できることを保証するものではありません。そのため，システムの状態によっては，再度 IT Report Utility の実行，または別の手段での資料採取の実施が必要になる場合があります。また，IT Report Utility を障害時に使用する場合，障害のさらなる調査のために，追加で資料の採取が必要となることがあります。

３．インストール，アンインストール，およびIT Report Utilityの情報の確認

この章では，IT Report Utility のインストール方法，アンインストール方法，および IT Report Utility の情報の確認方法について説明します。

３．１ この章で説明する内容

利用者が実施する内容と，この章での参照先を次の表に示します。

表 ３-１　インストール，アンインストールに関する参照先

#	利用者が実施したい内容	この章での参照先
1	IT Report Utility を新規にインストールしたい	３．３　新規インストール
2	IT Report Utility をバージョンアップしたい	３．４　更新インストール
3	削除してしまったファイルを補い修復したい すべてのファイルを上書きして修復したい	３．５　修復インストール
4	IT Report Utility をアンインストールしたい （完全に削除したい）	３．６　アンインストール
5	IT Report Utility のインストール状況を確認したい	３．７　インストール状態の確認
6	IT Report Utility のバージョンを知りたい	３．８　バージョンの確認方法

この章で説明している手順は，すべて Administrator 権限のユーザで実施してください。

なお，IT Report Utility のインストールおよびアンインストールを実行するに当たり，この取扱説明書に記載されている手順を実施する限りは，サービスの再起動やサーバの再起動などは必要ありません。また，使用する画面は，特に断りがない限り，Windows 2003 版のものになります。

３．２ インストールの前に

ここでは,IT Report Utility をインストールする前に知っておく必要があることについて説明します。

（１）インストール前に，次の事項を Readme ファイルで確認してください。
- 適用 OS
- 適用機種
- 前提プログラム
- メモリ所要量
- ディスク占有量

また，ディスクの空き容量を十分に確認してください。

（２）複数のコマンドプロンプトから同時にインストール操作またはアンインストール操作を実施しないでください。

（３）IT Report Utility がインストールされたあとに作成されるディレクトリおよびファイルのうち，利用者がカスタマイズできるのは構成定義ファイルだけです。それ以外のファイルおよびディレクトリは，ファイルの内容だけでなく，属性も含めて**絶対に変更しないでください**。

（４）Windows 2008 版以降では，インストール操作中に UAC 機能による権限のチェックが表示されることがあります。この場合は「許可(A)」を選択して続行してください。

（5）IT Report Utility をインストールするためには，次のファイルを使用します。

表 3-2 IT Report Utility をインストールするためのファイル

#	ファイル名	説明
1	setup.bat	インストール時に実行するバッチファイル。インストールパッケージを自動判定してインストーラを起動する。
2	setup_32.msi	Windows x86 版インストールパッケージ。
3	setup_64.msi	Windows x64 版インストールパッケージ。

この章の説明では，CD-ROM に収録されたバッチファイルからインストールする方法を示しています。

これらのファイルをシステムにコピーしてインストールを実行することもできます。その場合は，必ず表 3-2 に示すファイルをすべて同じディレクトリに置いた状態で，setup.bat ファイルを実行してください。

3．3 新規インストール

IT Report Utility をシステムに新規にインストールする手順を説明します。

ここでは，CD-ROM に収録されたバッチファイルからインストールする方法を示します。

なお，表 3-2 に示すファイルをシステムにコピーしてインストールを実行することもできます。その場合は，必ず表 3-2 に示すファイルをすべて同じディレクトリに置いた状態で，setup.bat ファイルを実行してください。

① Administrator 権限を持つ任意のユーザでログオンします。

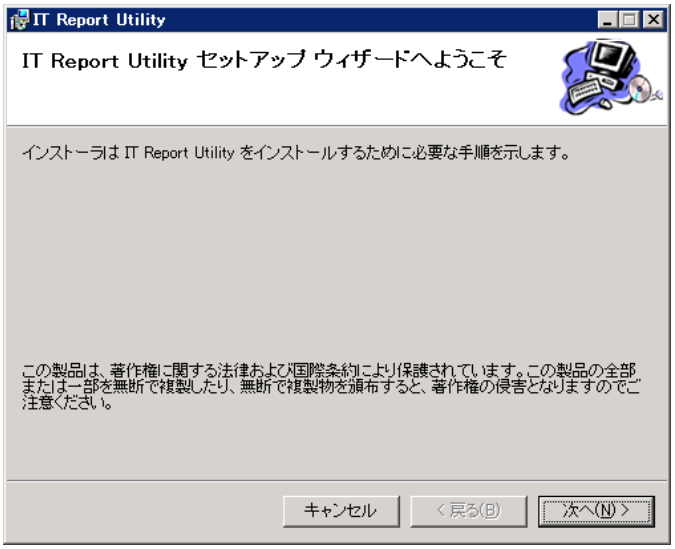
② CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。

③ エクスプローラで CD-ROM 上のディレクトリを表示し，setup.bat をダブルクリックします。

注意

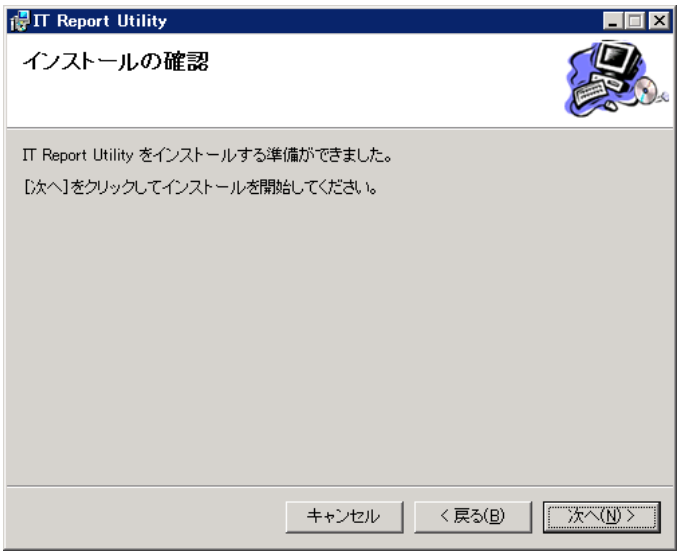
- setup.bat アイコンを誤って複数回ダブルクリックしてしまった場合，セットアップウィザードが複数画面に表示されます。その場合は，1 つを残してそれ以外のすべてのセットアップウィザードを［キャンセル］ボタンで閉じてください。複数のセットアップウィザードを同時に操作することは避けてください。
- Windows 2008 版以降の場合，インストール中に次のダイアログが表示されることがあります。この場合には「続行(C)」を選択して続行させてください。

④　セットアップウィザードの画面に従ってインストールを実施します。



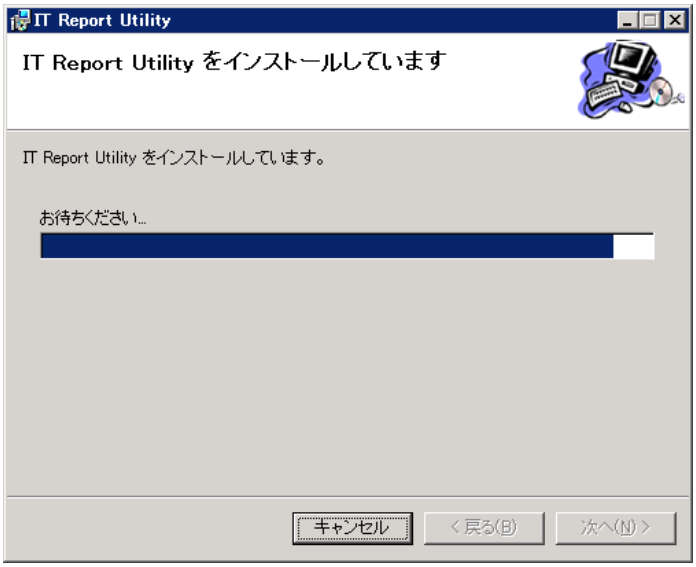
［次へ］を選択します。

▽



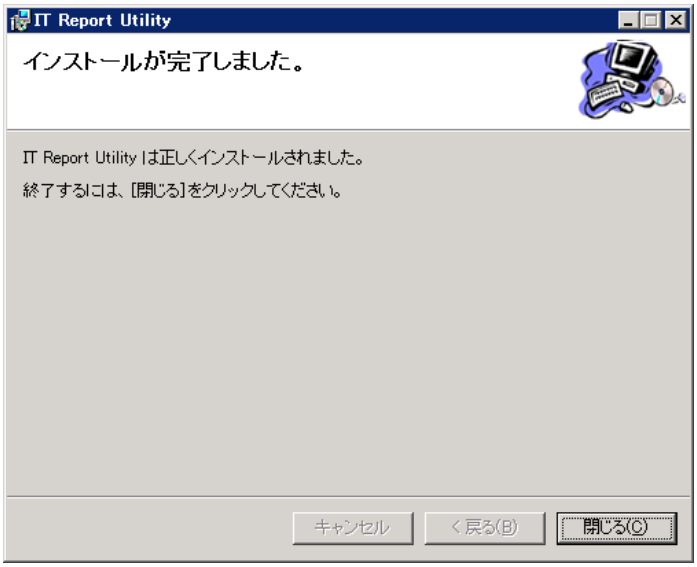
［次へ］を選択します。

▽



この画面が終了するまで，しばらくお待ちください。

▽



［閉じる］を選択して，インストールを終了してください。

注意

- インストール中は[キャンセル]ボタンを押さないでください。もし誤って押してしまった場合は，インストールの手順を③からやり直してください。
- すでに IT Report Utility がインストールされている場合，修復インストールまたはアンインストールを実施するセットアップウィザードが表示されます。もし誤ってインストールを開始してしまった場合は，［キャンセル］ボタンを選択してセットアップウィザードを終了してください。

⑤　インストールしたツールのバージョンを確認してください。
バージョンの確認方法については，「３．８　バージョンの確認方法」を参照してください。

３．４ 更新インストール

すでに IT Report Utility がインストールされていて，新しいバージョンをインストール（バージョンアップ）する場合の手順を説明します。ここでは，CD-ROM に収録されたバッチファイルからインストールする方法を示します。
なお，表 ３-２に示すファイルをシステムにコピーしてインストールを実行することもできます。その場合は,必ず表 ３-２に示すファイルを同じディレクトリに置き,setup.bat ファイルを実行してください。

①　Administrator 権限を持つ任意のユーザでログオンします。
②　IT Report Utility のバージョン 01-00，01-01，01-02，または 01-03 がインストールされている場合は，前もってインストール済みの IT Report Utility をアンインストールします。
アンインストール手順については，「３．６　アンインストール」を参照してください。
③　IT Report Utility が動作していないことを確認します。
IT Report Utility の稼働状況は，Windows タスクマネージャのプロセス画面で確認できます。Windows タスクマネージャを開くには,キーボードの「Ctrl(コントロール)」,「Shift(シフト)」,「Esc(エスケープ)」キーを同時に押します。Windows タスクマネージャの画面上で「systoru.exe」が表示されていないことを確認してください。
④　IT Report Utility の新しいバージョンが収録された CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。

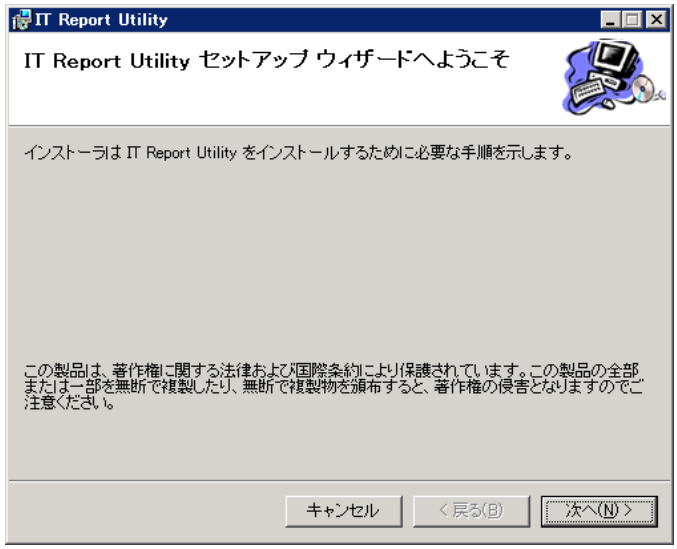
⑤　setup.bat をダブルクリックします。

注意

・setup.bat アイコンを誤って複数回ダブルクリックしてしまった場合，セットアップウィザードが複数画面に表示されます。その場合は，1 つを残してそれ以外のすべてのセットアップウィザードを［キャンセル］ボタンで閉じてください。複数のセットアップウィザードを同時に操作することは避けてください。

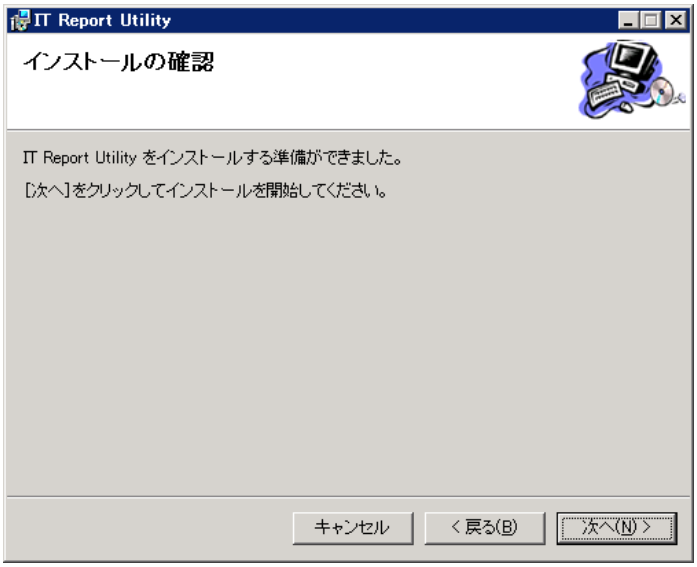
・Windows 2008 版以降の場合，インストール中に次のダイアログが表示されることがあります。この場合には「続行(C)」を選択して続行させてください。

⑥　セットアップウィザードの画面に従ってインストールを実施します。



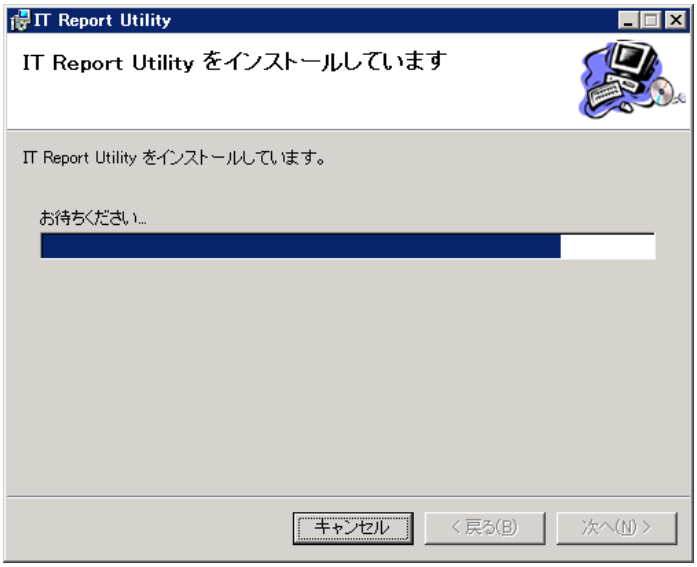
［次へ］を選択します。

▽



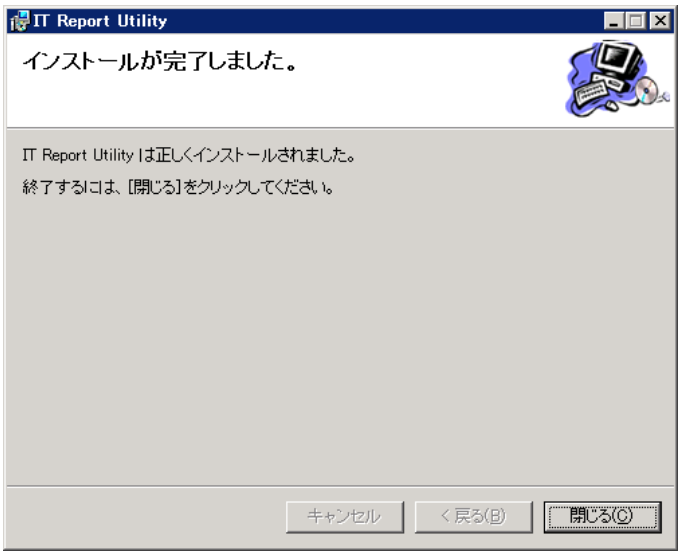
［次へ］を選択します。

▽



この画面が終了するまで，しばらくお待ちください。

▽



［閉じる］を選択して，インストールを終了してください。

⑦　インストールしたツールのバージョンを確認してください。

バージョンの確認方法については，「３．８　バージョンの確認方法」を参照してください。

■更新インストール時の注意事項

（１）「システム情報採取ツール」がインストールされている状態から「IT Report Utility」を更新インストールした場合，「プログラムの追加と削除」（Windows 2003 版），または「プログラムと機能」（Windows 2008 版）に「システム情報採取ツール」と「IT Report Utility」の両方が表示されることがあります。その場合は，「システム情報採取ツール」をアンインストールした後に更新インストールした「IT Report Utility」を不足しているファイルを補う方法で修復インストールする必要があります。修復インストールについては，「３．５．１　不足しているファイルを補う修復インストール」を参照してください。

（２）更新インストールの場合，次のファイルの内容が引き継がれます。

・既定の格納先に出力された採取資料

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data 下のファイル（%ProgramFiles%は，Windows 上のシステム環境変数を表します）

・実行ログファイルおよび実行履歴ログファイル

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log 下のファイル

（３）更新インストールでは，次に示す構成定義ファイルが上書きされることがあります。

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config¥systoru_conf

カスタマイズした構成定義ファイルを，更新インストール後も引き続き利用したい場合は，構成定義ファイルを IT Report Utility が作成するディレクリ以外の場所に退避し，更新インストール完了後に元のディレクトリにコピーしてください。

３．５ 修復インストール

修復インストールとは，すでに IT Report Utility がインストールされていて，ファイルの復旧などを目的に同一バージョンをインストールすることをいいます。修復インストールには，次の 2 つの方法があります。

・ IT Report Utility が提供するファイルのうち，不足しているファイルを補う方法
・ IT Report Utility が提供するファイルをすべて上書きする方法

それぞれについて，手順を次に示します。

３．５．１ 不足しているファイルを補う修復インストール

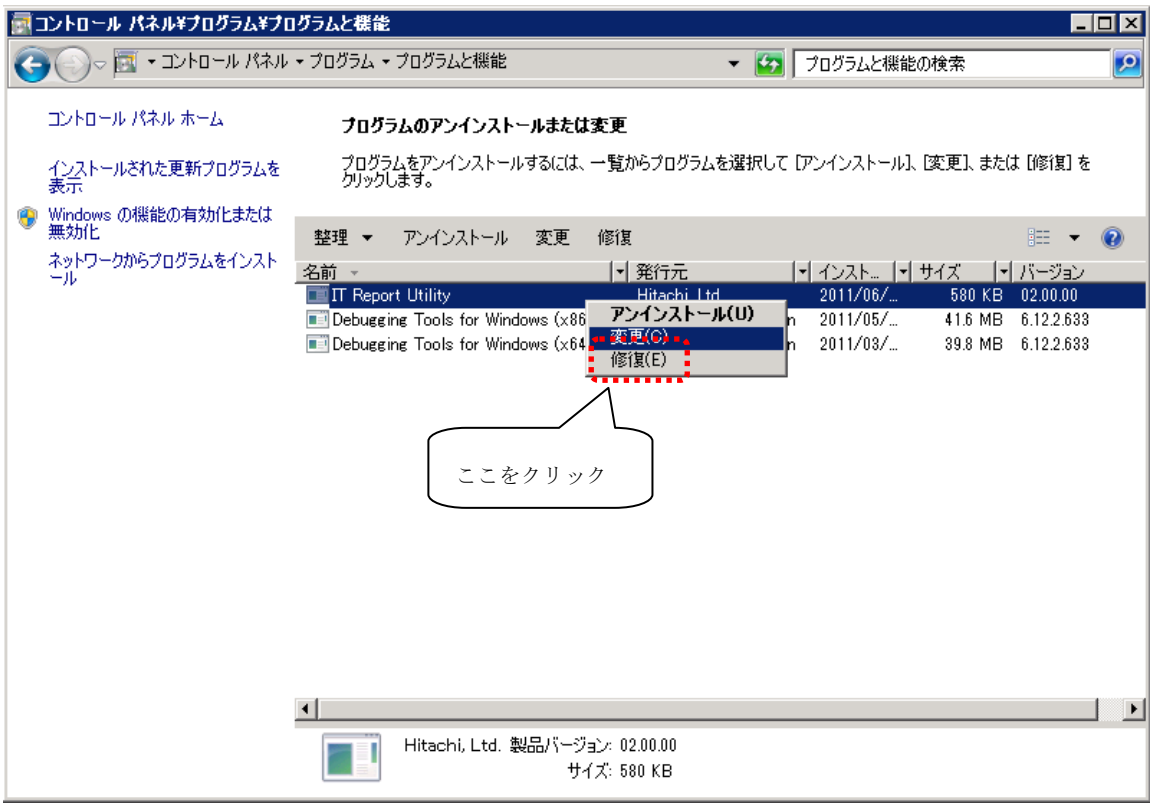
IT Report Utility が提供するファイルのうち，不足しているものを補う方法を示します。この操作は，IT Report Utility がインストールしたファイルを削除してしまった場合に実施してください。

① Administrator 権限を持つ任意のユーザでログオンします。

②「スタート」メニューから「コントロールパネル」－「プログラムの追加と削除」（Windows 2008 以降では「プログラムと機能」）を選択します。

「現在インストールされているプログラム一覧」が表示されます。

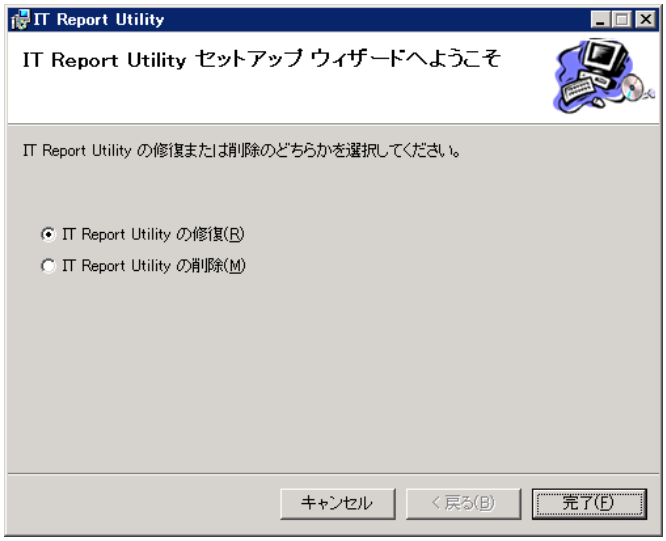
③ 「IT Report Utility」の［変更］ボタン（Windows 2008 以降では右クリックして［修復］メニュー）をクリックします。



注意

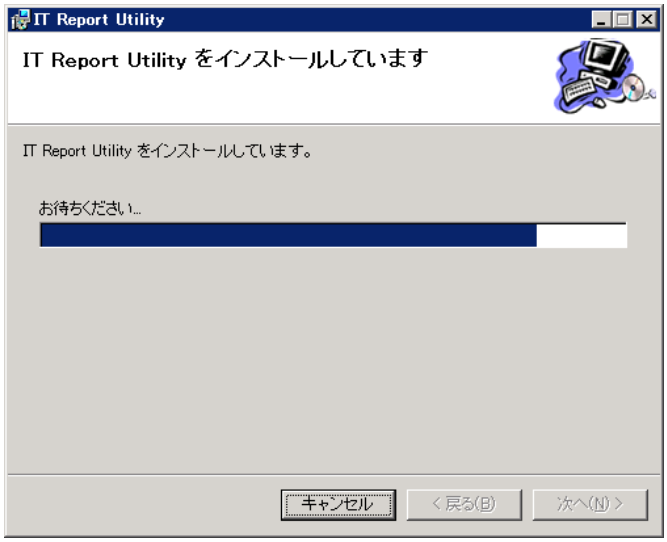
・Windows 2008 版以降の場合，修復インストール中に次のダイアログが表示されることがあります。この場合には「続行(C)」を選択して続行させてください。

④ 画面に従って修復インストールを実施します。



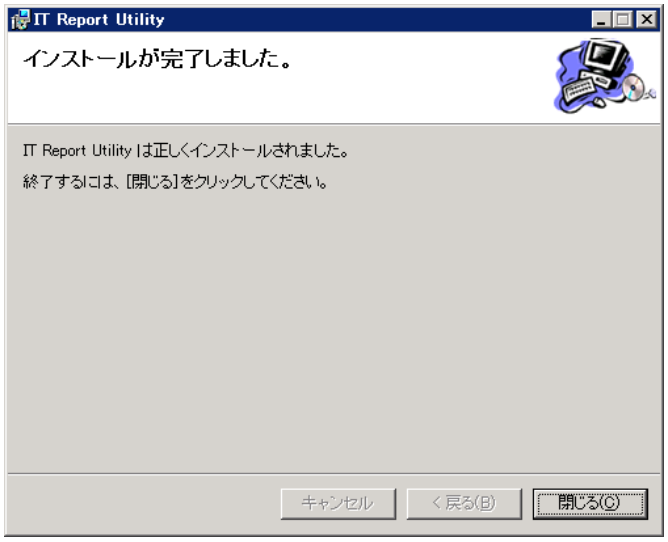
「IT Report Utility の修復(R)」のラジオボタンを選択し，［完了］を選択して修復インストールを開始します。

▽



この画面が終了するまで，しばらくお待ちください。

▽



［閉じる］を選択してインストールを終了してください。

注意

・Windows 2008 版以降の場合，「IT Report Utility の修復(R)」のラジオボタンを選択する画面が表示されません。次のダイアログが表示されます。

・修復インストール完了後，修復インストールが完了したことを示す画面は表示されません。修復インストール中は［キャンセル］ボタンを押さないでください。もし誤って押してしまった場合は，修復インストールの手順を②からやり直してください。

⑤ 誤って削除してしまった不足していたファイルが，修復インストールによってインストールされていることを確認します。

■不足しているファイルを補う修復インストール時の注意事項

（1）修復インストールの場合，次のファイルの内容が引き継がれます。

修復インストールでは，次に示す構成定義ファイルが上書きされることがあります。

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config¥systoru_conf

構成定義ファイルをカスタマイズしており，修復インストール後も引き続き利用する場合には，構成定義ファイルを IT Report Utility が作成するディレクリ以外の場所に退避し，修復インストール完了後に復元してください。

３．５．２ すべてのファイルを上書きする修復インストール

ここでは，すでに IT Report Utility がインストールされているシステムに，IT Report Utility が提供するファイルをすべて上書きする方法を示します。この操作は，IT Report Utility が提供するファイルを誤って編集してしまった場合に実施してください。

ここでは，CD-ROM に収録されたバッチファイルからインストールする方法を示します。

なお，表 3-2に示すファイルをシステムにコピーしてインストールを実行することもできます。その場合は，必ず表 3-2に示すファイルを同じディレクトリに置き，setup.bat ファイルを実行してください。

① Administrator 権限を持つ任意のユーザでログオンします。
② IT Report Utility が動作していないことを確認します。
IT Report Utility の稼働状況は，Windows タスクマネージャのプロセス画面で確認できます。Windows タスクマネージャを開くには，キーボードの「Ctrl(コントロール)」，「Shift(シフト)」，「Esc(エスケープ)」キーを同時に押します。Windows タスクマネージャの画面上で「systoru.exe」が表示されないことを確認してください。
③ 「スタート」メニューから「コントロールパネル」－「プログラムの追加と削除」（Windows 2008 以降では「プログラムと機能」）を選択して「現在インストールされているプログラム一覧」を表示し，システムにインストールされている IT Report Utility のバージョンが手元の CD-ROM と同じバージョンであることを確認します。
④ CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
⑤ 「スタート」メニューから「コマンドプロンプト」を起動します。
⑥ コマンドプロンプトで setup.bat ファイルがあるディレクトリに移動します。
⑦ 次のコマンドを実行します。
次の例は CD-ROM ドライブが D ドライブの場合の例です。

```
D:¥>setup.bat /faum
```

注意

・Windows 2008 版以降の場合，修復インストール中に次のダイアログが表示されることがあります。この場合には「続行(C)」を選択して続行させてください。

■すべてのファイルを上書きする修復インストール時の注意事項

（1）すべてのファイルを上書きする修復インストールでは，次に示す構成定義ファイルもすべて上書きされます。

・構成定義ファイル

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config¥systoru_conf

カスタマイズした構成定義ファイルを引き続き利用したい場合は，構成定義ファイルを IT Report Utility が作成するディレクリ以外の場所に一時的に退避し，修復インストール完了後に，元のディレクトリにコピーしてください。

（2）すべてのファイルを上書きする修復インストールでは，IT Report Utility の実行で作成されるファイルはそのまま引き継がれます。

・既定の格納先に出力された採取資料

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data 下のファイル

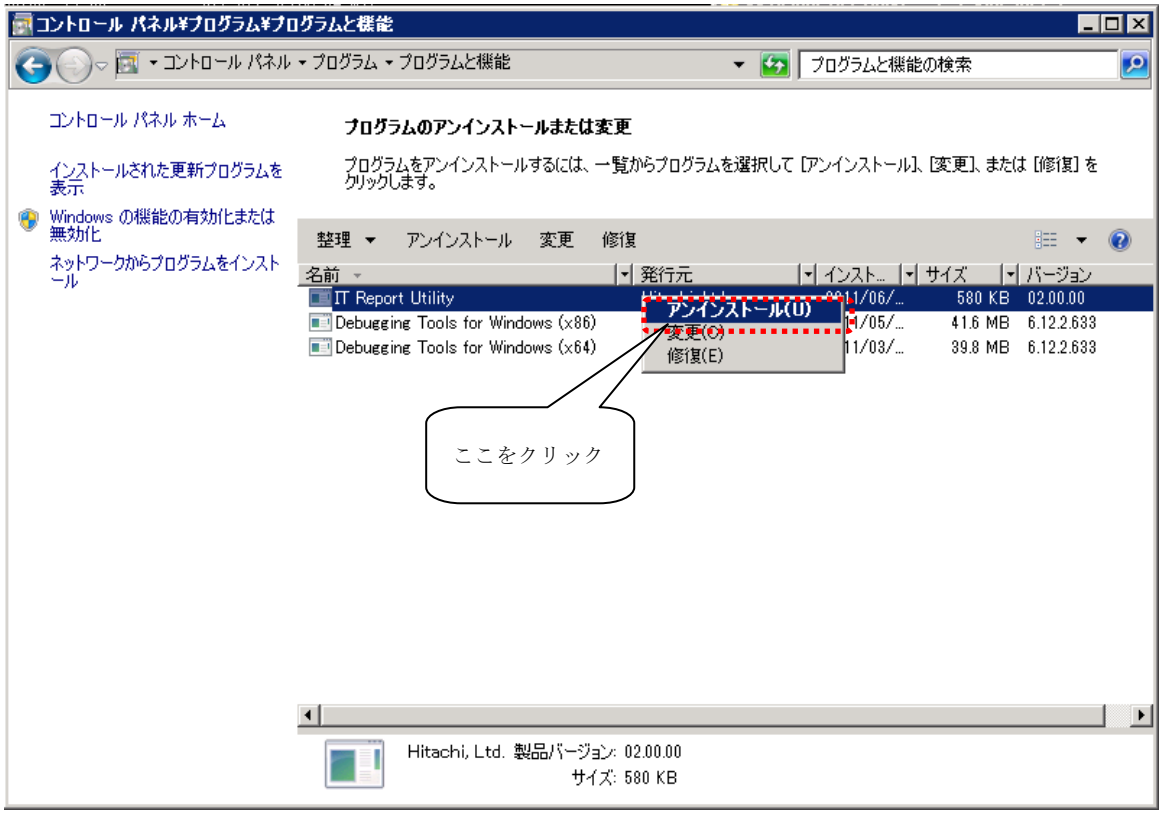
・実行ログファイルおよび実行履歴ログファイル

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log 下のファイル

３．６ アンインストール

IT Report Utilityをシステムからアンインストールする手順を次に示します。

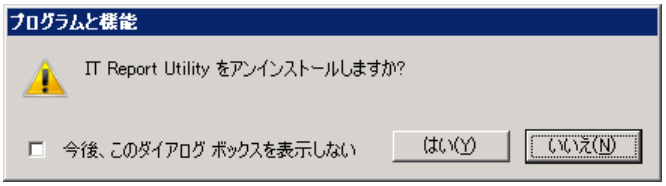
① Administrator 権限を持つ任意のユーザでログオンします。
② IT Report Utility が動作していないことを確認します。
③ IT Report Utility の稼働状況は，Windows タスクマネージャのプロセス画面で確認できます。Windows タスクマネージャを開くには，キーボードの「Ctrl(コントロール)」，「Shift(シフト)」，「Esc(エスケープ)」キーを同時に押します。Windows タスクマネージャの画面上で「systoru.exe」が表示されないことを確認してください。
④ 「スタート」メニューから「コントロールパネル」－「プログラムの追加と削除」（Windows 2008 以降では「プログラムと機能」）を選択して「現在インストールされているプログラム一覧」を表示します。
⑤ 「IT Report Utility」の［削除］ボタン（Windows 2008 以降では右クリックして［アンインストール］メニュー）をクリックします。



注意

・Windows 2008 版以降の場合，修復インストール中に次のダイアログが表示されることがあります。この場合には「続行(C)」を選択して続行させてください。

⑥ 画面に従ってアンインストールを実施します。



［はい］を選択してアンインストールを開始します。

▽

アンインストールが完了するまでしばらくお待ちください。アンインストールが終了するとこの画面が終了します。

注意

・アンインストール完了後，アンインストールが完了したことを示す画面は表示されません。アンインストール中は［キャンセル］ボタンを押さないでください。もし誤って押してしまった場合は，アンインストールの手順を④からやり直してください。

⑦ 「プログラムの追加と削除」（Windows 2008 以降では「プログラムと機能」）でインストール状態を確認します。

③の手順でプログラムの一覧を参照し，IT Report Utilityが削除されたことを確認してください。

■アンインストール時の注意事項

（1）IT Report Utility のアンインストールでは，次のディレクトリおよびファイルは削除されません。

・既定の格納先に出力された採取資料

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data下のファイル

・実行ログファイルおよび実行履歴ログファイル

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log 下のファイル

・構成定義ファイル

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config¥systoru_conf

・日立自己展開型アーカイバ用ファイル

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥ARCFILE.INI（Windows 2003版の場合）

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥ARCFILE2.INI（Windows 2008版以降の場合）

IT Report UtilityおよびIT Report Utilityで取得した資料を完全に削除したい場合は，手動で削除してください。

（2）IT Report Utility のアンインストールでは，次のディレクトリは削除されない場合があります。

・定義ファイルの格納先

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥pattern

%ProgramFiles(x86)%¥Hitachi¥systoru¥pattern

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool

%ProgramFiles(x86)%¥Hitachi¥systoru¥tool

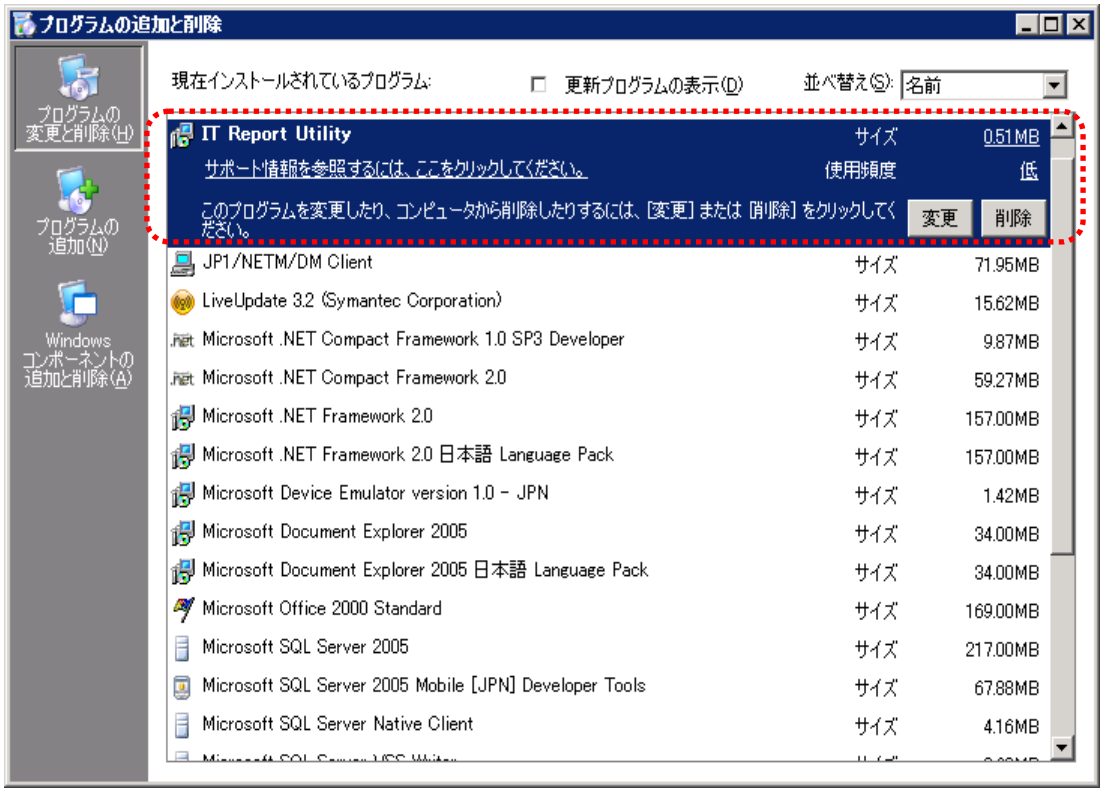
上記ディレクトリが空の場合だけ，手動でディレクトリを削除してください。

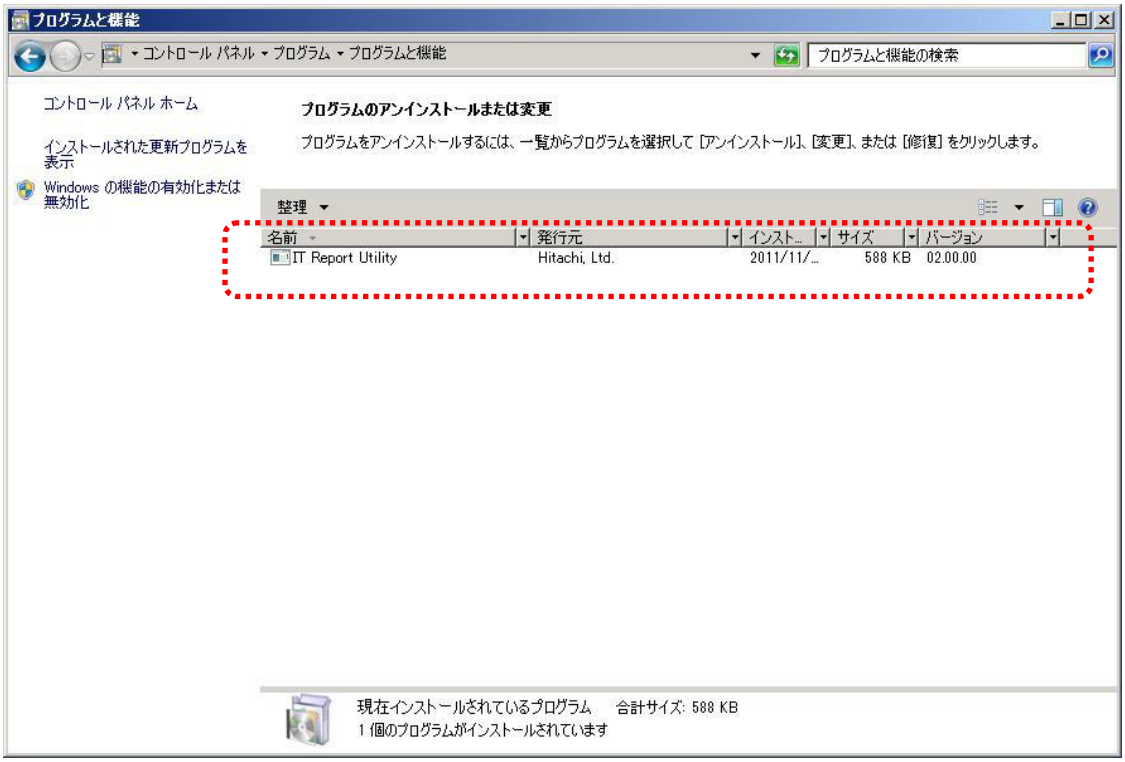
３．７ インストール状態の確認

IT Report Utilityがシステムにインストールされているかどうかを確認する手順を次に示します。

① 「スタート」メニューから「コントロールパネル」－「プログラムの追加と削除」（Windows 2008 以降では「プログラムと機能」）を選択して，「現在インストールされているプログラム一覧」（Windows 2008 以降では「プログラムのアンインストールまたは変更」）を表示します。

② 「IT Report Utility」が表示されていることを確認します。





３．８ バージョンの確認方法

IT Report Utilityのバージョンを確認するには，次の方法があります。どの方法もAdministrator権限のユーザで行う必要があります。

- systoruコマンドで確認する方法
- ログファイルで確認する方法
- OSの機能で確認する方法

３．８．１ systoruコマンドで確認する方法

systoruコマンドの-hオプションでバージョン情報を確認できます。

-hオプションを指定してsystoruコマンドを実行すると，次のようにusageと一緒にバージョン情報が表示されます。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin>systoru -h
systoru [Ver. 02-01]

usage:  systoru { -g pp_group | -t target } ...
                [ -c configfile ] [ -d directory ] [-m mode]
                [ -o output_file ]
        systoru -h
```

３．８．２ ログファイルで確認する方法

実行ログファイルのヘッダ部分でバージョン情報を確認できます。

実行ログファイルは採取資料にも含まれますので，採取資料からもバージョンを特定できます。

（1）ログファイルの場所

- システム上の実行ログファイルの場所

  %ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥systoru.log

- 採取資料を展開した後のログファイルの場所

  %ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data¥<コンピュータ名_YYMMDDhhmmss>¥systoru.log※

  注※　%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data下にある採取資料を展開した場合

（2）ログファイルの内容

```
KAIS201-I:systoru [Ver. 02-01] started at 2012/06/04 17:00:00.
KAIS204-I:systoru argument is "-t config".
KAIS202-I:Started initializing.
                :
```

バージョン情報（02-01 の場合）

３．８．３ OSの機能で確認する方法

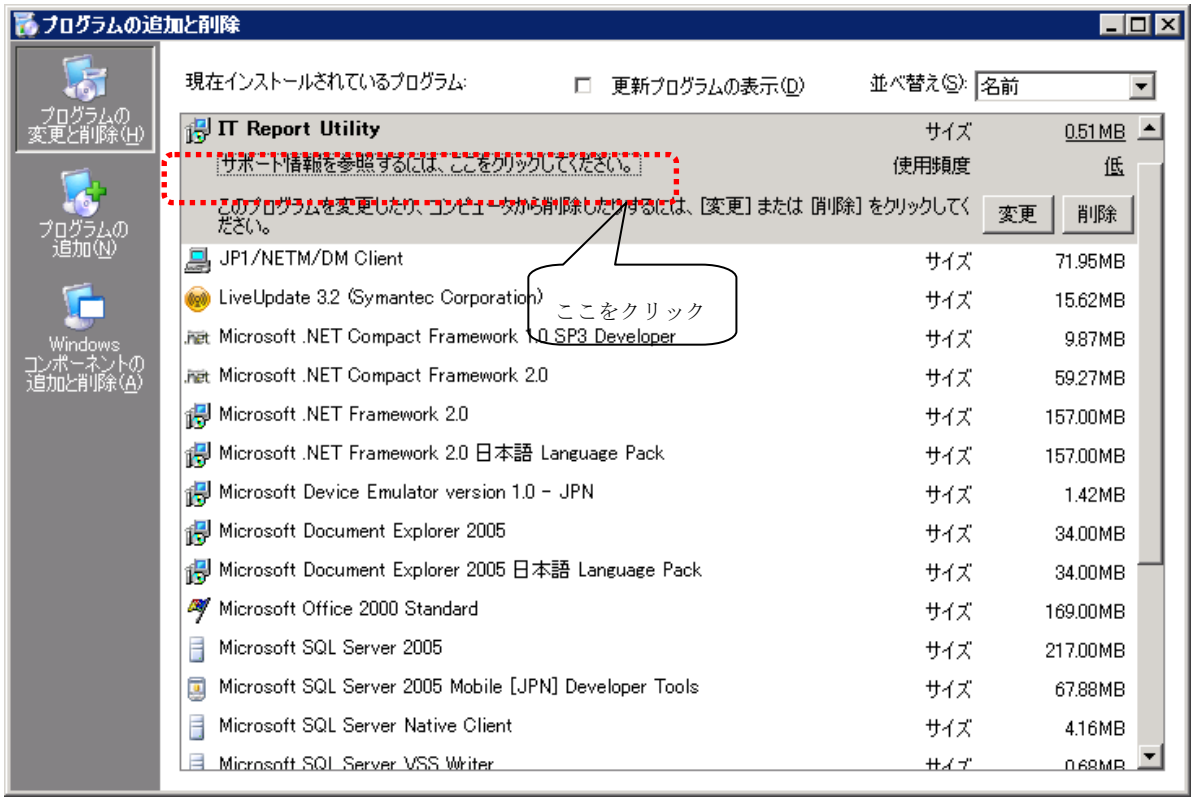
（1）Windows 2003 の場合

IT Report Utilityのバージョンは，「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」で確認できます。「プログラムの追加と削除」からバージョンを確認する方法を次に示します。

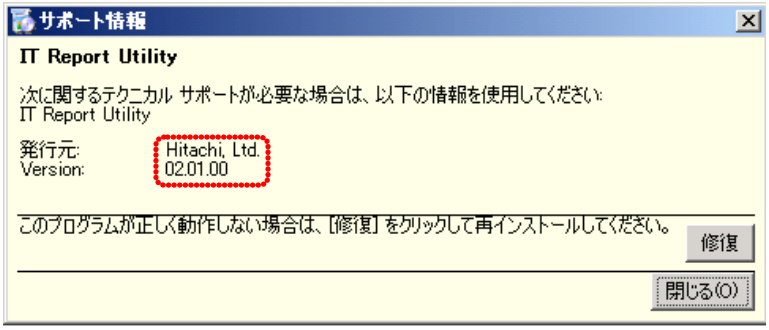
① Administrator権限を持つ任意のユーザでログオンします。

② 「スタート」メニューから「コントロールパネル」－「プログラムの追加と削除」を選択して，「現在インストールされているプログラム一覧」を表示します。

③ 「IT Report Utility」の「サポート情報を参照するには，ここをクリックしてください。」部分をクリックします。


プログラムの追加と削除
プログラムの変更と削除(H)
プログラムの追加(N)
Windows コンポーネントの追加と削除(A)
現在インストールされているプログラム:
更新プログラムの表示(D)
並べ替え(S):
名前
IT Report Utility
サイズ 0.51MB
サポート情報を参照するには、ここをクリックしてください。
使用頻度 低
このプログラムを変更したり、コンピュータから削除したりするには、[変更] または [削除] をクリックしてください。
変更
削除
ここをクリック
JP1/NETM/DM Client サイズ 71.95MB
LiveUpdate 3.2 (Symantec Corporation) サイズ 15.62MB
Microsoft .NET Compact Framework 1.0 SP3 Developer サイズ 9.87MB
Microsoft .NET Compact Framework 2.0 サイズ 59.27MB
Microsoft .NET Framework 2.0 サイズ 157.00MB
Microsoft .NET Framework 2.0 日本語 Language Pack サイズ 157.00MB
Microsoft Device Emulator version 1.0 - JPN サイズ 1.42MB
Microsoft Document Explorer 2005 サイズ 34.00MB
Microsoft Document Explorer 2005 日本語 Language Pack サイズ 34.00MB
Microsoft Office 2000 Standard サイズ 169.00MB
Microsoft SQL Server 2005 サイズ 217.00MB
Microsoft SQL Server 2005 Mobile [JPN] Developer Tools サイズ 67.88MB
Microsoft SQL Server Native Client サイズ 4.16MB
Microsoft SQL Server VSS Writer サイズ 0.69MB

④ 表示された「サポート情報」内の「Version:」部分を確認します。



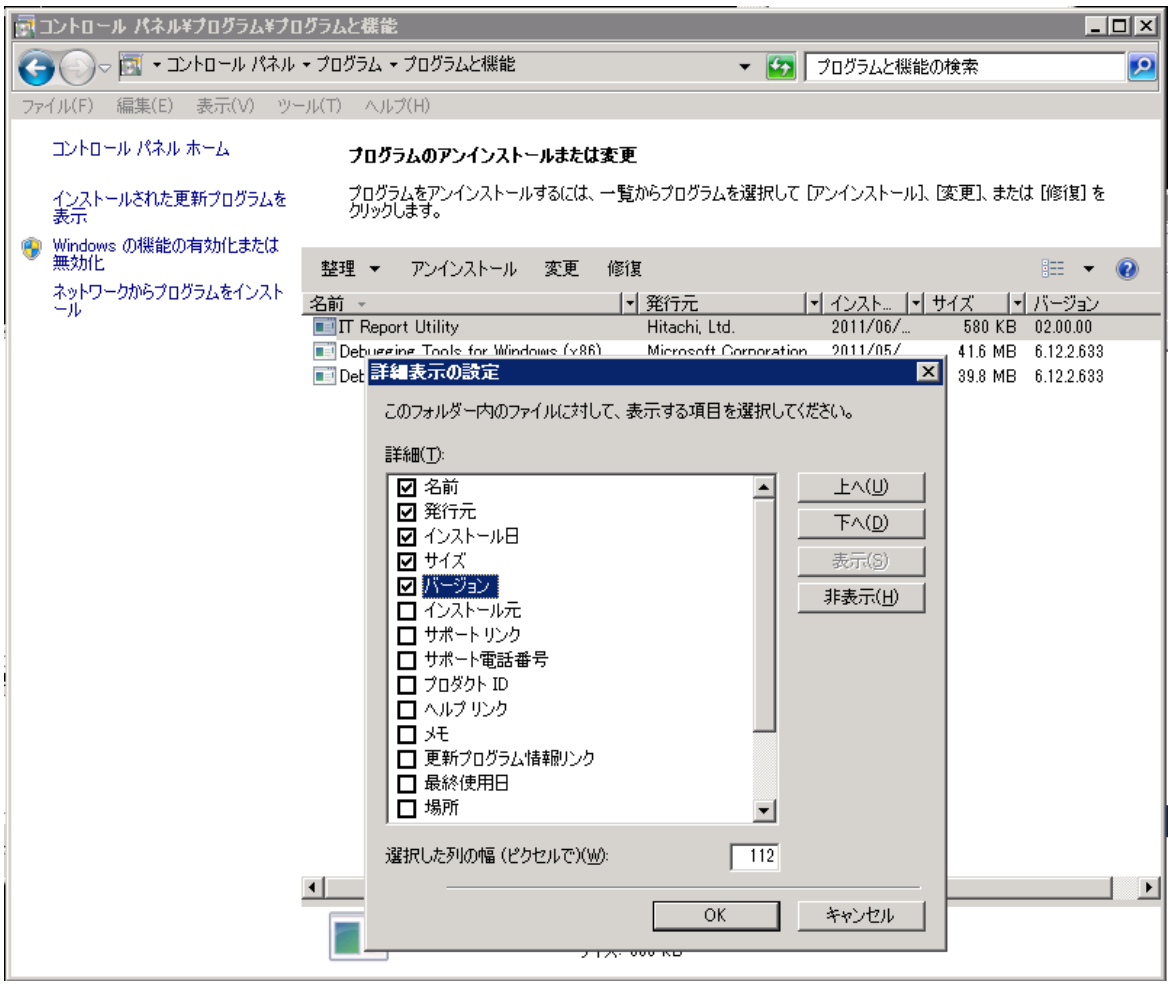
（2）Windows 2008 の場合

IT Report Utilityのバージョンは，「コントロールパネル」の「プログラムと機能」で確認することができます。「プログラムと機能」からバージョンを確認する方法を次に示します。

① Administrator権限を持つ任意のユーザでログオンします。

② 「スタート」メニューから「コントロールパネル」－「プログラムと機能」を選択します。

③ メニューバーの「表示(V)」－「詳細表示の設定」で「バージョン」を選択し，［OK］を選択します。

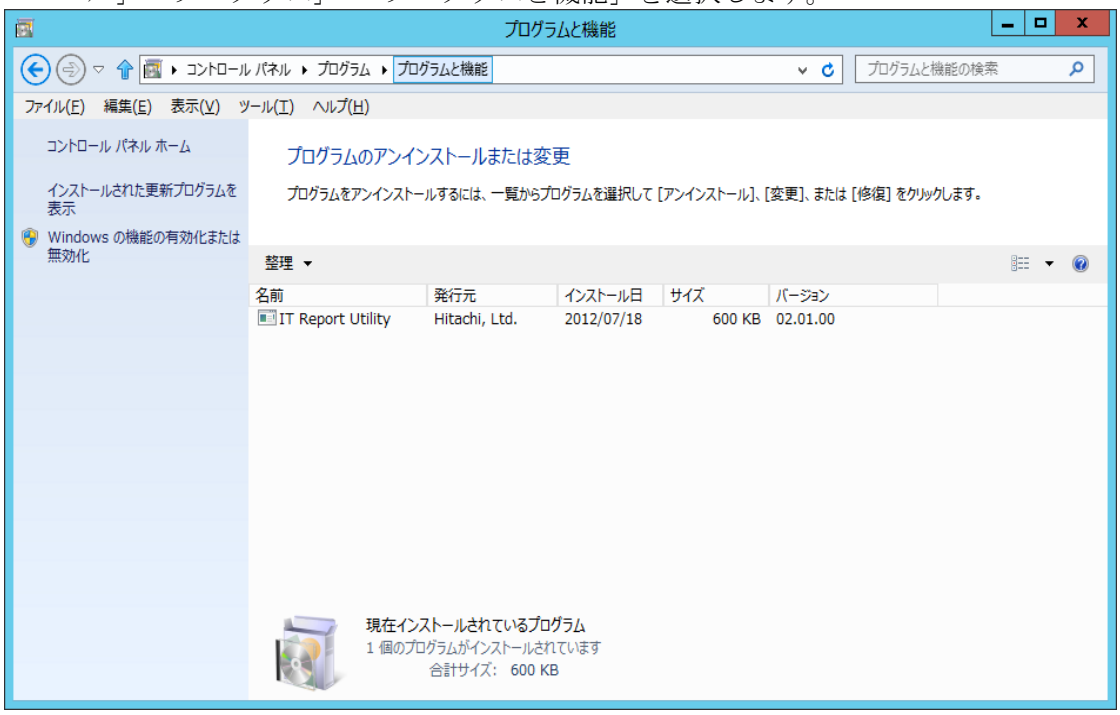


（3）Windows 2012 の場合

IT Report Utility のバージョンは，「コントロールパネル」の「プログラムと機能」で確認することができます。「プログラムと機能」からバージョンを確認する方法を次に示します。

① Administrator権限を持つ任意のユーザでログオンします。

② キーボードで「Windows+C」を押下し，画面右側のチャームから「スタート」－「コントロールパネル」－「プログラム」－「プログラムと機能」を選択します。



4．機能と操作方法

この章では，IT Report Utility の機能と操作方法について説明します。

IT Report Utility を初めて利用する場合は，必ずこの章の内容をご一読ください。

4．1 この章で説明する内容

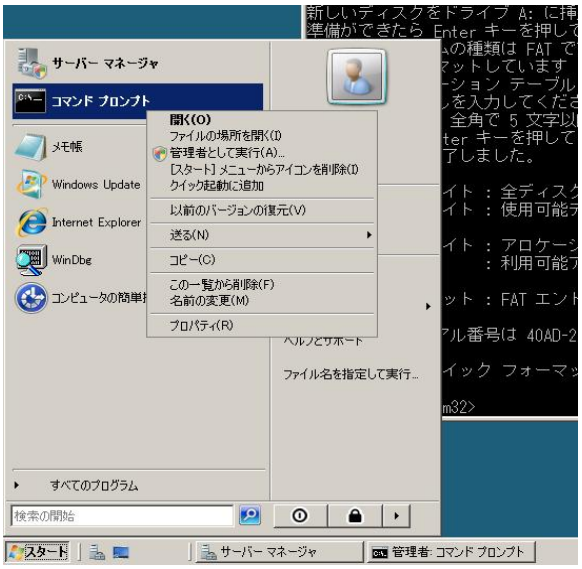
利用者が実施する内容と，この章での参照先を次の表に示します。

表 4-1 機能と操作方法に関する参照先

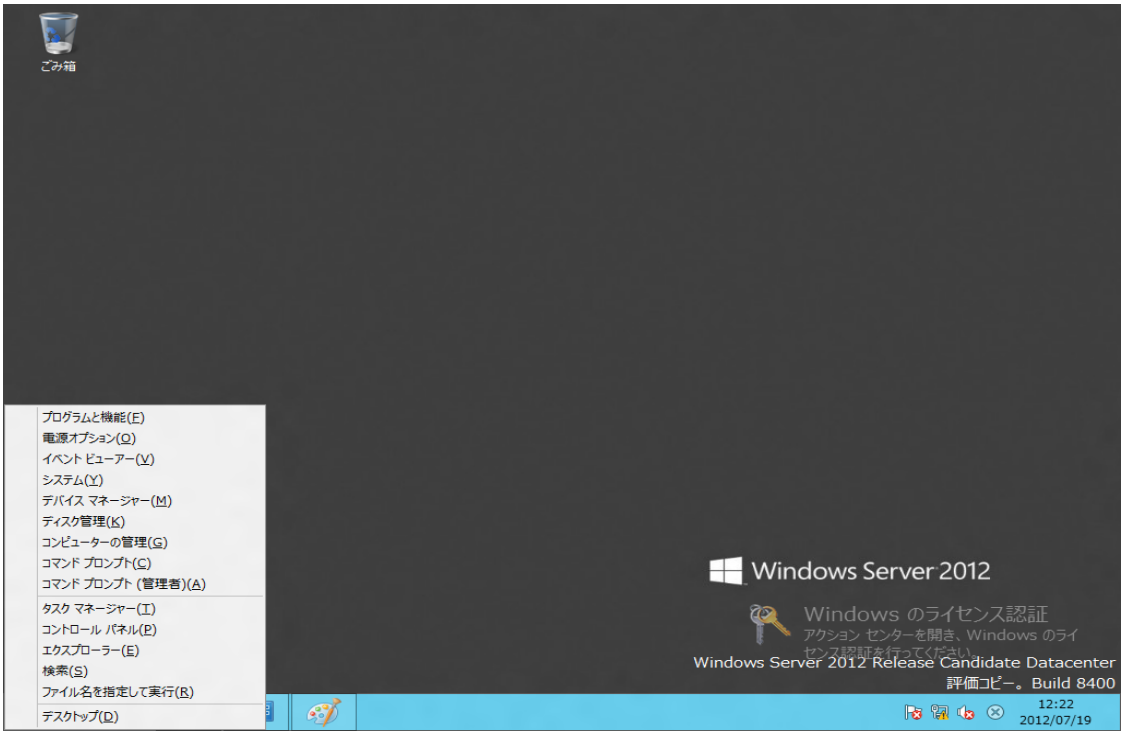
#	利用者が実施する内容	この章での参照先
1	システム情報を採取したい	4．3 システム情報の採取方法
2	IT Report Utility で採取したシステム情報を参照したい	4．4 採取資料の参照方法
3	systoru コマンドの機能詳細を知りたい	4．5 systoru コマンドの機能

この章で説明している手順は，すべて Administrator 権限のユーザで実施してください。

Windows 2008 以降の場合，では，特権を維持したままコマンドプロンプトを起動します。Windows 2008 の場合，次の図のようにコンテキストメニューの「管理者として実行」を選択してください。



Windows 2012 の場合，キーボードで「Windows+X」を押下し，次の図のようにクイックアクセスメニューの「コマンド プロンプト（管理者）」を選択してください。



なお，使用する画面は，特に断りがない限り，Windows 2003 のものになります。

４．２ IT Report Utilityを実行する前に

ここでは，IT Report Utility を実行する前に知っておく必要があることについて説明します。

（１）systoru コマンドが採取する資料の一部には，採取に伴いシステム負荷が高騰する可能性のあるものが含まれます。KAIS307-Q への入力キーおよび-m オプションの指定は，システムの稼働状況に応じて適宜選択してください。システム負荷が高騰する可能性のある資料は次のとおりです。

・msinfo32 コマンド実行結果（OS 用資料）
・Get_filever.exe 実行結果（OS 用資料）※
・!810_JP1SC_dpm_dma_common.bat 実行結果（IT Report Utility for ServerConductor 用資料）

注※　IT Report Utility 付属のコマンド Get_filever.exe で採取する資料は次の 4 つです。

- System32 情報（OS 用資料）
- クラスタファイル情報（OS 用資料）
- システムルート情報（OS 用資料）
- Internet Explorer モジュール情報（OS 用資料）

これらはシステムの構成確認および障害の一次切り分けや調査／解析に必要な資料です。KAIS307-Q への N キー入力，または-m safe オプション指定での systoru コマンド実行によって採取対象から除外した場合，その後なるべく早い段階でこれらの資料を採取してください。採取するには，KAIS307-Q への Y キー入力，または-m all オプション指定ありで systoru コマンドを実行してください。

システムによっては，-m safe オプション指定ありで systoru コマンドを実行してもシステム負荷が高騰することがあります。システム稼働中に資料を採取する場合には必ず事前に検証してから採取するようにしてください。

（2）systoru コマンドで採取できる資料には大きく分けて 2 種類あります。指定するオプションを確認の上,状況に応じて必要な資料を採取するようにしてください。指定するオプションについては,「４．５　systoru コマンドの機能」を参照してください。

（3）IT Report Utility を実行する前に，中間ファイルおよび採取資料が格納されるデータディレクトリに，十分な空き容量があることを確認してください。

（4）IT Report Utility で出力されるファイルの容量は，「付録 A. 採取資料一覧」および「付録 C. 実行時間，ファイルサイズ，CPU 使用率とメモリ使用量の目安」を参考に見積もりをしてください。

（5）IT Report Utility は，既定値として消費するディスク容量の上限値を 500MB に設定しています。ディスクの空き容量を考慮し，必要に応じて設定を変更してください。ディスク容量の上限値の設定方法については，「５．３．４　資料採取で消費するディスク容量の上限値を設定する方法」を参照してください。

４．３ システム情報の採取方法

IT Report Utilityでは，次の2種類のシステム情報を採取できます。

- システムの構成を把握するための情報
- 障害の初期切り分けのための情報

４．３．１ システムの構成を把握するための情報

システムの構成を把握するための情報を採取する場合の手順を次に示します。

①　Administrator権限を持つ任意のユーザでログオンします。

②　「スタート」メニューから「コマンドプロンプト」を起動します。

③　コマンドプロンプトでsystoru.exeファイルがあるディレクトリに移動します。

```
cd /D %ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin
```

④　-t オプションに「config」を指定して，systoru コマンドを実行します。

```
systoru –t config
```

このコマンドを実行すると，既定（デフォルト）の出力先に次に示すファイル名で採取資料が出力されます。

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data¥**<コンピュータ名>※1_<YYMMDDhhmmss>※2.cab**

注※1　<コンピュータ名＞には，使用中のシステムのコンピュータ名が入ります。

注※2　<YYMMDDhhmmss>には，systoruコマンドを実行した西暦（下2桁），月，日，時，分，秒を連結した文字列が入ります。

⑤　出力ファイル（採取資料）を確認します。

systoruコマンドを実行した場合の画面表示の例を次に示します。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin>systoru -t config

cleanup   :**********************************************************************
```

```
KAIS214-I:Output file = C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥data¥hostname_070914210215.cab. size = 936192 bytes.
```

この例では，「Output file = 」以降に表示されている次のファイルがsystoruコマンドの出力ファイルです。

ファイル名：%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data¥hostname_070914210215.cab

サイズ：936,192バイト

４．３．２ 障害の初期切り分けのための情報

障害の初期切り分けのための情報を採取する場合の手順を次に示します。

① Administrator権限を持つ任意のユーザでログオンします。

② 「スタート」メニューから「コマンドプロンプト」を起動します。

③ コマンドプロンプトでsystoru.exeファイルがあるディレクトリに移動します。

```
cd /D %ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin
```

④ -tオプションに「failure」を指定して，systoruコマンドを実行します。

```
systoru –t failure
```

このコマンドを実行すると，既定（デフォルト）の出力先に次に示すファイル名で採取資料が出力されます。

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data¥**<コンピュータ名>_<YYMMDDhhmmss>.cab**

注※1 <コンピュータ名>には，使用中のシステムのコンピュータ名が入ります。

注※2 <YYMMDDhhmmss>には，systoruコマンドを実行した西暦（下2桁），月，日，時，分，秒を連結した文字列が入ります。

⑥ 出力ファイル（採取資料）を確認します。

systoruコマンドを実行した場合の画面表示の例を次に示します。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin>systoru -t failure
cleanup   :**********************************************************************
KAIS214-I:Output file = C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥data¥hostname_070914210215.cab. size = 936192 bytes.
```

この例では，「Output file = 」以降に表示されている次のファイルがsystoruコマンドの出力ファイルです。

ファイル名：%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data¥hostname_070914210215.cab

サイズ：936,192バイト

注意

- ここで説明した例では，-m オプションの指定を省略しています。-m オプションの指定が省略された場合，採取に伴いシステム負荷が高騰する可能性のある資料を採取対象とするか採取対象外

とするか，問い合わせるメッセージが表示されます。次のメッセージが表示されたら，「４．５．１　systoru コマンドの構文」の-m オプションの説明を参照して，「Y」，「N」，「Q」のどれかのキーを入力してください。キー入力がない状態で 60 秒間経過した場合，N が入力されたものとして動作が継続されます。

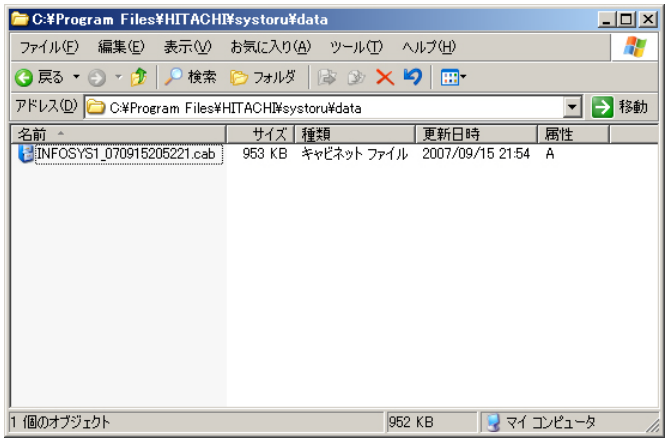
```
KAIS307-Q:systoru command may cause high load of system.
Is high load of system allowed?(defaults to No in 60 seconds)
You choose:
[Y]es to collect all reports.
[N]o to collect reports which can be collected with low load.
[Q]uit to terminate this command without collecting reports.
(Yes, No or Quit?)[Y,N,Q]
```

４．４ 採取資料の参照方法

IT Report Utilityで採取した資料を参照する手順を，Windows 2003を例にして説明します。Windows 2008以降の固有の部分については各手順に個別に示します。

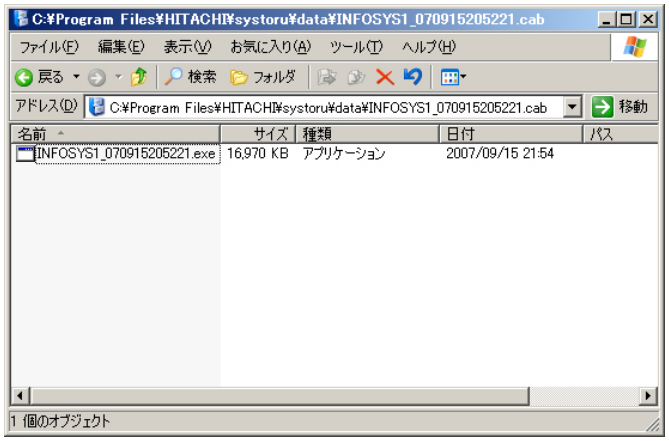
① Administrator 権限を持つ任意のユーザでログオンします。

② エクスプローラで IT Report Utility の出力ファイルを表示して解凍，展開します。
IT Report Utility の出力ファイル名が hostname_070914210215.cab，自己解凍形式ファイルおよび採取資料の展開先を C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥data としたの場合の採取資料の解凍，展開手順を次に示します。



cab ファイルをダブルクリックします。

▽



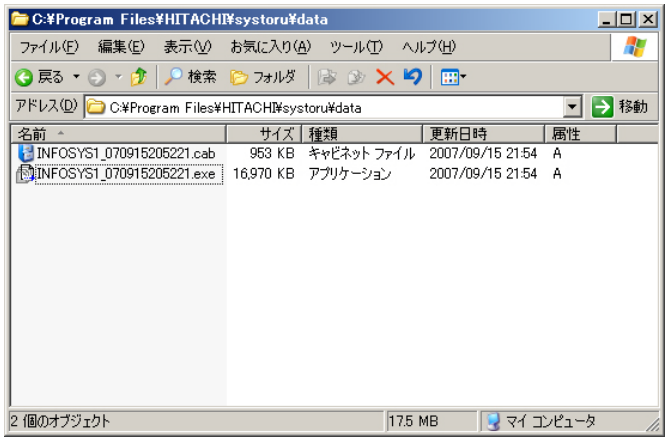
exe ファイルをダブルクリックします。

▽

自己解凍形式ファイルの展開先を選択して［展開］を選択します。

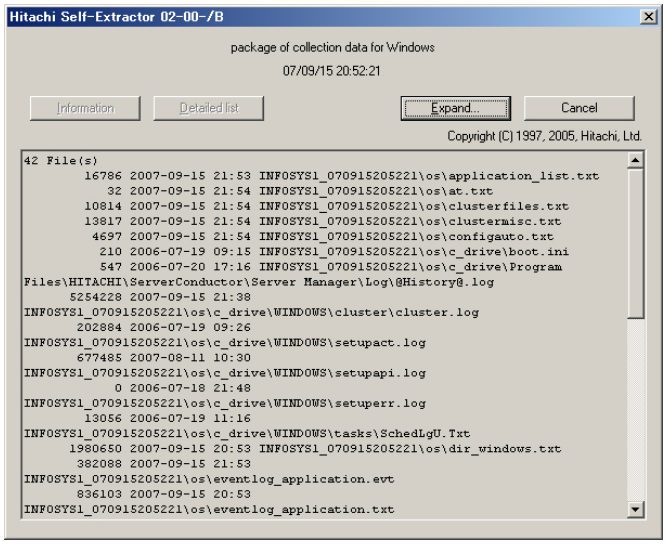
[Windows 2008 以降の場合]
展開先は一般権限のユーザがアクセスできる場所（デスクトップなど）を指定してください。

▽



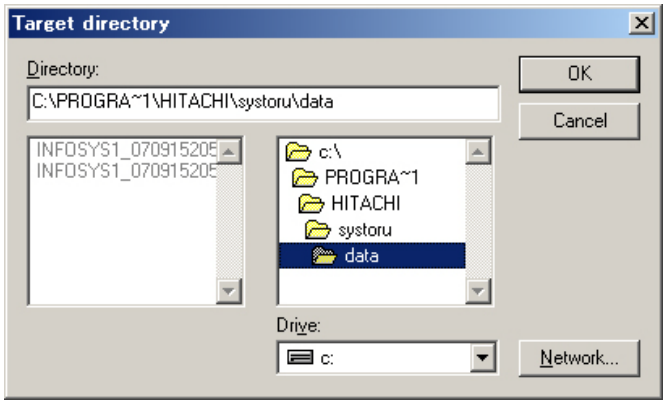
自己解凍形式ファイルをダブルクリックします。

▽



［Expand］を選択します。

▽



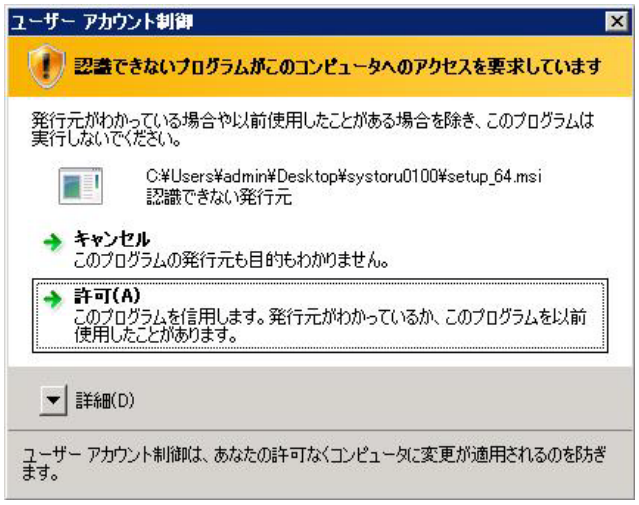
採取資料の展開先を指定して［OK］を選択します。
［Windows 2008 以降の場合］
展開先は一般権限のユーザがアクセスできる場所（デスクトップなど）を指定してください。

▽

展開が完了すると成功した旨のメッセージが表示されるので［OK］をクリックします。

注意

- Windows 2008 以降の場合，操作中に次のようなダイアログが表示されることがあります。この場合には「許可(A)」を選択して続行させてください。



- Windows 2008 以降で，一般権限のユーザがアクセスできない場所（例えば C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥data）を自己解凍形式ファイルの出力先とした場合，出力先に資料が展開されないことがあります。この場合，ファイルのアイコンを右クリックして[管理者として実行(A)]で解凍するか，または c:¥users¥[ユーザー名]¥AppData¥Local¥VirtualStore¥配下（例えば C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥data にした場合は c:¥users¥[ユーザー名]¥AppData¥Local¥VirtualStore¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥data）に作成されますのでそのフォルダを参照してください。
- 採取資料を参照した際に，意図しないファイルまたはディレクトリがデータディレクトリの下に残っている場合があります。以前実行した資料採取で，中断操作や採取ツールのタイムアウトによって，クリーンアップ処理が正常に実施できなくて，採取資料または中間ファイルが残ってしまった可能性が考えられます。このような場合は，出力ファイル（採取資料）の内容を確認頂き，必要に応じて削除してください。
- Windows 2012 以降で自己解凍形式ファイルを解凍する場合，Server Core インストール オプションを選択したサーバではなく，フル インストール オプションを選択したサーバで解凍してください。

４．５ systoruコマンドの機能

ここでは，systoruコマンドの機能について説明します。

４．５．１ systoruコマンドの構文

```
systoru {-g pp_group | -t target } ...  [-c configfile] [-d directory] [-m mode] [-o output_file]

systoru -h
```

注意

- この構文には，次に示す表記規約を使用しています。
  [ ]　省略できるオプションまたは引数であることを示します。
  「|」で区切られている場合はその中の１つを選択することを示します。
  { }　指定が必須のオプションまたは引数であることを示します。
  「|」で区切られている場合はその中の１つを選択することを示します。
  ...　前にある要素を任意の回数指定できることを示します。
- コマンドオプションの大文字／小文字は区別されません。
- -g オプションおよび-t オプションの引数に指定する値は，大文字／小文字が区別されます。例えば，グループ名「*PP_GROUP*」と「*pp_group*」は別の収集条件として扱われます。
- -g または-t のどちらかのオプションを必ず指定してください。-g と-t を同時に指定することもできます。
- -g オプションおよび-t オプションに指定する引数に合致する資料だけが採取されます。
- -m オプションの引数には，all または safe のどちらかを指定してください。

４．５．２ 各種オプションとその機能

(1)資料採取条件オプション

-g *pp_group*

指定された製品グループの資料を採取します。*pp_group* に指定できる引数と採取される資料を次の表に示します。定義されていない値を *pp_group* に指定した場合，定義されていない製品グループの資料は採取されません。

表 ４－２　-g オプションに指定できる引数と採取される資料

#	-g オプションに指定できる引数	採取される資料
1	common	OS やミドルウェアなどソフトウェアの種類に関係なくシステム共通で必要な資料
2	os	OS および OS ベンダのミドルウェアや OS 付属ソフトウェアで必要な資料

注　採取される資料の詳細については，「付録 A. 採取資料一覧」を参照してください。

-t *target*

指定された種類の資料を採取します。*target* に指定できる引数と採取される資料を次の表に示します。定義されていない値を *target* に指定した場合，定義

されていない種類の資料は採取されません。

表 4－3 -t オプションに指定できる引数と採取される資料

#	-t オプションに指定できる引数	採取される資料
1	config	システム構成の管理に必要な資料
2	failure	障害調査（初期切り分け）に必要な資料

注 採取される資料の詳細については，「付録 A. 採取資料一覧」を参照してください。

-g および-t のオプションは，それぞれ複数回指定できます。また，-g オプションおよび-t オプションを組み合わせて指定できます。オプションを複数指定した場合，同一のオプション間は OR 条件（図 4－1），異なるオプション間は AND 条件（図 4－2）で一致する資料を採取します。

（例１）-g を複数指定した場合

```
C:¥> "C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin¥systoru" -g common -g os
```

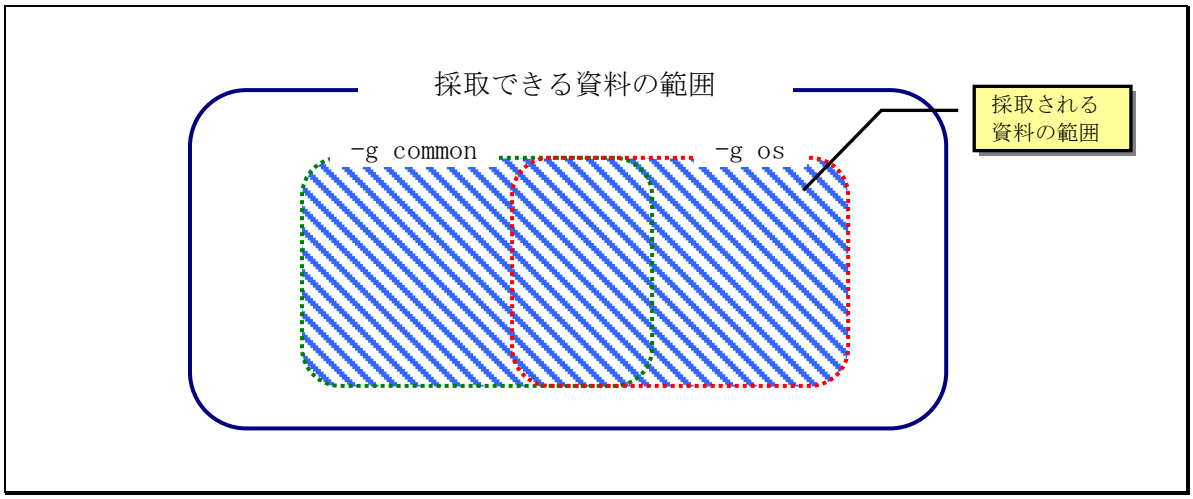


図 4－1 -g を複数指定した場合に採取される資料の範囲

（例２）-g と-t を同時に指定した場合

```
C:¥> "C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin¥systoru" -g common -t config
```

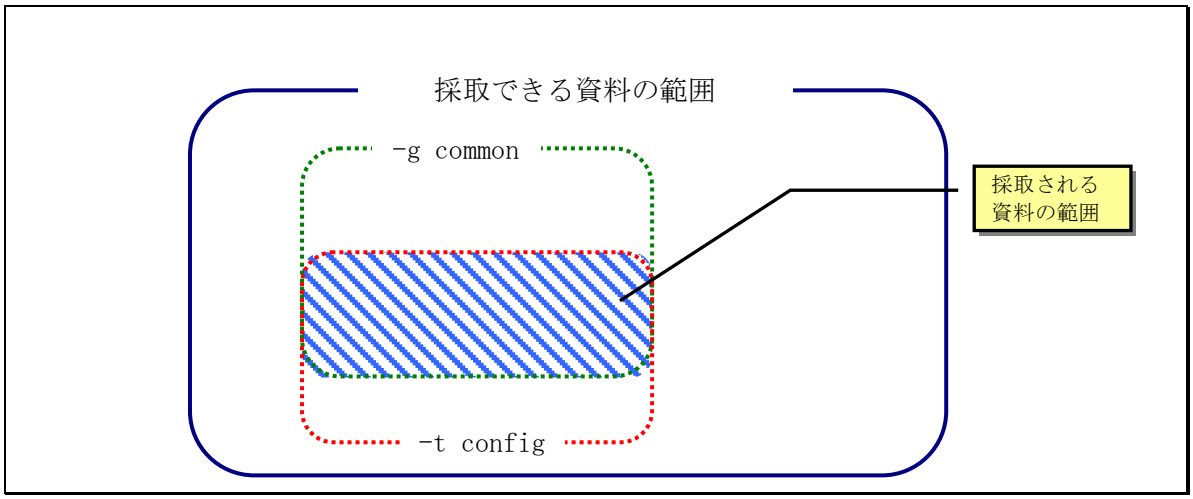


図 4-2 -g と-t を同時に指定した場合に採取される資料の範囲

注意

- システム情報採取ツールの実行時，OR 条件となる引数を複数指定した場合，指定できる引数に合致する資料だけが採取されます。「指定できる引数(定義済みの引数)」と「指定できない引数(未定義の引数)」を同時に指定した場合，「指定できる引数」に該当する資料だけが採取されます。このとき，警告などのメッセージは表示されません。
- このバージョンで-g オプションで指定できる common と os では，採取する資料の範囲は同じです。したがって，次のオプションの指定（組み合わせ）は同じ意味です。

```
C:¥> "C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin¥systoru"  -t config -g common
C:¥> "C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin¥systoru" -t config -g os
C:¥> "C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin¥systoru" -t config -g common -g os
```

(2) システム負荷条件オプション

-m *mode*

採取に伴いシステム負荷が高騰する可能性のある資料を，採取対象とするか採取対象外とするかを指定します。-m all と-m safe は両方同時に指定できません。指定できる値を次の表に示します。

表 4-4 -m オプションに指定できる引数

#	引数	指定時の動作
1	all	システム負荷が高騰する可能性のある資料を採取対象とする。
2	safe	システム負荷が高騰する可能性のある資料を採取対象外とする。

例えば，システム負荷の監視や制御が必要ない状況（日中業務終了後など）では all を指定します。システム負荷の監視や制御が必要な状況では safe を指定します。

なお，systoru コマンド実行時に-m オプションが指定されなかった場合は，システム負荷が高騰する可能性のある資料を採取対象とするか採取対象外とするかの応答待ちとなります。次のメッセージが表示されたら，「Y」，「N」，または「Q」のどれかのキーを入力してください。キー入力がない状態で 60 秒間経過した場合，N が入力されたものとして動作を継続します。

```
KAIS307-Q:systoru command may cause high load of system.
Is high load of system allowed?(defaults to No in 60 seconds)
You choose:
[Y]es to collect all reports.
[N]o to collect reports which can be collected with low load.
[Q]uit to terminate this command without collecting reports.
(Yes, No or Quit?)[Y,N,Q]
```

入力できるキーと入力時の動作を次に示します。

表 4-5　入力できるキーと入力時の動作

#	入力キー	入力時の動作
1	Y	システム負荷が高騰する可能性のある資料を採取対象とします。 -m all オプション指定時と同じ動作になります。
2	N	システム負荷が高騰する可能性のある資料を採取対象外とします。-m safe オプション指定時と同じ動作になります。
3	Q	資料採取を中止し systoru コマンドの実行を終了します。
4	上記以外	再度 KAIS307-Q を表示し，キー入力を 60 秒間待機します。

入力キーを判断する基準の一例としで，システム負荷の監視や制御が必要ない状況（日中業務終了後など）では Y を入力し，システム負荷の監視や制御が必要な状況では N を入力します。

-m safeオプションが指定された場合，またはKAIS307-Qに対してNが入力された場合，採取対象外の資料ごとに次のメッセージが表示されます。

```
KAIS127-I:An information collecting tool(資料採取用プログラム名) was not executed because the tool may cause high load of system.
```

注意

- -m safe を指定した場合，または KAIS307-Q に対して N キーを入力した場合，その後なるべく早い段階で，システム負荷が高騰する可能性のある資料も含めた資料採取を実施してください。
- KAIS307-Q に対して Esc キーや PF キーなどの特殊キーを入力した場合，そのキー入力が受け付けられず，かつ 60 秒間経過後もキー入力の受け付け状態のままとなることがあります。これは OS の動作によるものです。この場合，再度「Y」，「N」，または「Q」のどれかのキーを入力してください。

(3)その他のオプション

-o *output_file*

採取資料として出力されるファイル名を絶対パスで指定します。拡張子は systoru コマンドが自動的に付加します。systoru コマンドが付加する拡張子は「.cab」です。

注意

- -o オプションでは，ファイル名を絶対パスで指定してください。相対パスによる指定はできません。
- -o オプションの指定を省略した場合，構成定義ファイルの SYSTORU_DATA_DIRECTORY に設定したディレクトリに，採取資料が出力されます。ファイル名は次のようになります。

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data¥*〈コンピュータ名〉_YYMMDDhhmmss*.cab

〈ホスト名〉・・・systoru コマンドを実行したサーバのホスト名

YYMMDD ・・・systoru コマンドを実行した年月日

hhmmss ・・・systoru コマンドを実行した時分秒

構成定義ファイルの SYSTORU_DATA_DIRECTORY 部分が既定（デフォルト）の状態では，次のディレクトリに採取資料が出力されます。

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data¥*<ホスト名>_YYMMDDhhmmss*.cab

-c *configfile*

ユーザが作成した構成定義ファイルを使用する場合，そのファイル名を絶対パスまたはカレントディレクトリからの相対パスで指定します。
構成定義ファイルの詳細については，「５．２　構成定義ファイル」を参照してください。

注意

- -c オプションの指定がない場合，次の構成定義ファイルが使用されます。
  ・%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config¥systoru_conf

-d *directory*

systoru コマンドのデータディレクトリ（採取資料を一時的に一か所に収集するための作業場所）を指定します。
データディレクトリには，既存のディレクトリを絶対パスまたはカレントディレクトリからの相対パスで指定します。指定する絶対パスの最大長は 70 文字です。相対パスを指定する場合は，その相対パスを絶対パスに変換したときの文字列長を 70 文字以下にしてください。
-d オプションを省略した場合，構成定義ファイルの制御変数 SYSTORU_DATA_DIRECTORY に指定されているディレクトリを systoru コマンドのデータディレクトリとして使用します。データディレクトリの詳細については，「５．３．１　データディレクトリを設定，変更する方法」を参照してください。

-h

systoru コマンドのバージョンと使用方法を標準出力に表示します。-h オプションが指定された場合，一緒に指定されたほかのオプションはすべて無視されます。

４．５．３ 実行状況の画面表示

IT Report Utilityでは，進捗状況が次に示す4つのフェーズに分けて，プログレスバーで画面に表示されます。

表 ４-６　プログレスバーで進捗を表す４つのフェーズ

#	フェーズ名	systoru コマンドの処理内容
1	initialize	コマンドオプション解析，構成定義ファイル読み込み，採取資料の選択など
2	collect	採取ツールの実行，ファイルおよびディレクトリの採取など
3	archive	採取資料のアーカイブおよび圧縮処理
4	cleanup	systoru コマンドが生成した一時ファイルや中間ファイルの削除など

プログレスバーの表示例を次の図に示します。

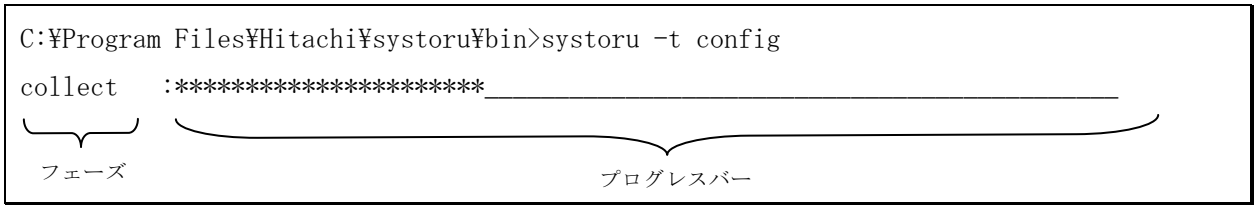


図 4-3 systoru コマンドが画面に表示するプログレスバー

４．５．４ 終了コード（戻り値）

systoru コマンドの終了コードは，採取資料（出力ファイル）の最終形態によって変わります。systoru コマンドが返却する終了コードを次の表に示します。

表 4-7 systoru コマンドの終了コード

#	systoru コマンドの終了状態	採取資料の最終形態	終了コード（戻り値）
1	アーカイブ，圧縮に成功	圧縮ファイル	0
2	圧縮に失敗（アーカイブ成功）	アーカイブファイル	10
3	アーカイブ，圧縮に失敗 （資料収集成功）	データディレクトリ配下のファイル群	20
4	上記以外	この項の「注意」を参照してください。	255

注 終了コードを確認するには，systoru コマンドを実行直後にコマンドプロンプトで「echo %errorlevel%」と実行してください。

注意

- systoruコマンドの終了コードが255の場合，採取資料の形態は構成定義ファイルで定義するSYSTORU_CLEANUPの設定に依存します。SYSTORU_CLEANUPの設定がOFFの場合は，終了した時点での資料が残る場合があります。SYSTORU_CLEANUPの設定がONの場合は，終了した時点での資料が削除されます。クリーンアップ方針の設定方法については，「５．３．３ クリーンアップ方針を設定，変更する方法」を参照してください。

４．５．５ systoruコマンドの出力ファイル（採取資料）

IT Report Utility の資料採取が正常に終了すると,採取した複数の資料を 1 ファイルにアーカイブし，さらに圧縮したファイルがシステム上に出力されます。アーカイブされる資料を次の図に示します。

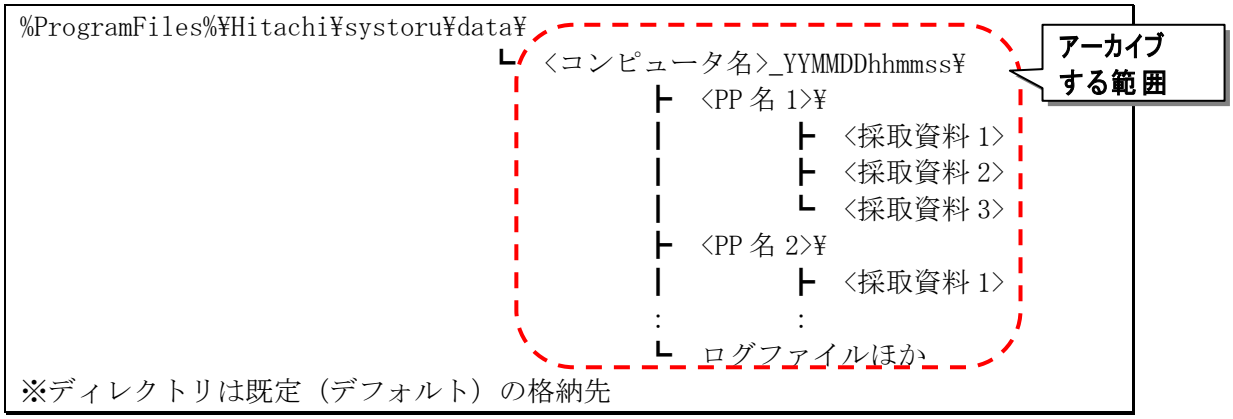


図 4-4 systoru コマンドがアーカイブするファイルおよびディレクトリ

IT Report Utility が実施するアーカイブおよび圧縮の方法を次に示します。

- アーカイブの方法：同梱されている日立自己展開型アーカイバでアーカイブ
- 圧縮の方法：OSのmakecabコマンドで圧縮
- 出力ファイルの拡張子：cab

最終的にファイルが生成されると，次の図に示すように出力ファイル名が画面に表示されます。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin>systoru -t config
cleanup    :**********************************************************************
KAIS214-I:Output file = C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥data¥hostname_070914210215.cab. size = 936192 bytes
```

systoru コマンドが生成したファイル名（アーカイブ＋圧縮）　ファイルのサイズ

図 4-5 systoru コマンド終了時に画面に表示される生成ファイル名の例

なお，圧縮やアーカイブに失敗した場合，次の表に示すように，出力ファイルが残された状態で，出力ファイルの格納場所が表示されます。表示されたファイル，またはディレクトリを採取資料として取得してください。

表 4-8 圧縮またはアーカイブ失敗時の生成ファイル

#	エラーの内容	出力ファイルの形態	採取資料の場所
1	圧縮に失敗	アーカイブファイル	データディレクトリの下または-o オプションで指定したファイル
2	アーカイブに失敗	ファイルおよびディレクトリ	データディレクトリの下

圧縮が失敗した場合の表示例を次の図に示します。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin>systoru -t config
archive    :************************************************************_______
KAIS135-W:An error occurred while a compression was being executed.          ← 圧縮に失敗したことを示すメッセージ
KAIS306-I:The archive file has not been compressed. Use a following file as is.
KAIS211-I:Archive file = C:¥Program Files%¥Hitachi¥systoru¥data¥hostname_070911202031.exe. size = 983040 bytes.
                         systoru コマンドが生成したファイル名（アーカイブファイル）          ファイルのサイズ
```

図 4-6　圧縮が失敗した場合の表示例

アーカイブが失敗した場合の表示例を次の図に示します。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin>systoru -t config
archive    :************************************************************___________
KAIS132-W:An error occurred while an archiver was being executed.      ← アーカイブに失敗したことを
                                                                          示すメッセージ
KAIS215-I:Output = C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥datahostname_070911202352.
   systoru コマンドが生成したファイルおよびディレクトリの存在するディレクトリ名(データディレクトリ下のサブディレクトリ)
```

図 4-7　アーカイブが失敗した場合の表示例

４．５．６ systoruコマンド実行中の注意事項

（１）コマンド実行中のダイアログ表示に関する注意事項

- Windows 2008 版以降では systoru コマンド実行中に次のようなダイアログ画面が表示される場合があります。自動的にクローズしますので，［キャンセル］ボタンを押下しないでください。［キャンセル］ボタンを押下すると，IT Report Utility で採取される資料（msinfo32.txt）が正常に作成されません。

- Windows 2008 版以降では UAC 機能による権限のチェックが表示されることがあります。この場合には「許可(A)」または「続行(C)」を選択して続行してください。

（２）採取資料（出力ファイル）に関する注意事項

- systoru コマンド実行時に Error や Warning が表示されても，最終的にファイルの出力先が画面に表示されれば，そのシステム環境で採取できる資料は採取できています。画面に表示される出力ファイルを取得してください。

systoru コマンドの実行で消費するディスクの容量の上限に達したため，一部の資料が採取できなかったが，採取できる範囲で資料採取が完了した場合の表示例を次に示します。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin>systoru -t config
cleanup   :**********************************************************************
KAIS131-W:The size of the output data exceeded a limit size.
KAIS214-I:Output file = C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥data¥hostname_070914210215.cab. size = 936192
bytes
```

図 4-8 systoru コマンドを実行した時の表示例（ディスク容量が上限に達した場合）

- IT Report Utility では，圧縮処理に OS が提供する makecab.exe コマンドを使用します。makecab.exe でエラーが発生した場合，systoru コマンドは圧縮エラーとなって終了します。また，何らかの要因で makecab.exe コマンドの処理が完了しないと，次に示す画面の状態が続きます。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin>systoru -t config
  archive   :******************************************************_________
```

図 4-9 systoru コマンドを実行した時の表示例（makecab.exe コマンドの処理が完了しない場合）

このような状況になった場合には，「タスクマネージャ」を起動し，「makecab.exe」プロセスを選択して「プロセスの終了」または「タスクの終了」を実行してください。アーカイブや圧縮に失敗した場合の出力ファイルについては，「４．５．５ systoru コマンドの出力ファイル（採取資料）」を参照してください。

- 資料が採取できているかどうかを確認するには，解凍および展開した採取資料と「付録 A. 採取資料一覧」を比較してください。もし採取されていない資料がある場合は，解凍および展開した採取資料の中に含まれる実行ログファイル（systoru.log）に，資料が採取できない理由が記録されている場合があります。
- 資料の参照時，Windows 2008 版以降では UAC 機能による権限のチェックが表示されることがあります。この場合，「許可(A)」を選択して続行してください。
- IT Report Utility で起動する採取ツールは，運用環境によってエラーメッセージ（標準エラー出力）を記録することがあります。エラーメッセージは，コマンドが通常時に出力する情報（標準出力）と同一のファイルに記録されますが，端末（コマンドライン）からコマンドを実行した場合と比較して，標準出力・標準エラー出力の順序が入れ替わることがあります。エラーメッセージを確認する場合は，順序性が必ずしも一致しない場合があることを考慮に入れて解析してください。もし，解析できない場合には，IT Report Utility の入手元から提示された連絡先にご相談ください。

（3）中断操作に関する注意事項

- systoru コマンド実行中，何らかの理由で systoru コマンドの処理を中断したい場合は，キーボードで「Ctrl+break」または「Ctrl+C」を押下し，中断操作を実施してください。
  ただし，終了処理に最大 10 秒程度の時間が掛かる場合があります。

- 中断操作で systoru コマンドが終了しなくて，しかたなく強制終了を行う場合は，「タスクマネージャ」を起動し，「systoru.exe」プロセスを選択して「プロセスツリーの終了」を実行してください。
  誤ってタスクマネージャの「プロセスの終了」または「タスクの終了」で「systoru.exe」を終了すると，systoru コマンドが起動したプロセスがシステムに残り，一時的に systoru コマンドを再実行できなくなる場合があります。systoru コマンドが起動したプロセスの処理が完了するまで，2 分程度待ち，再度 systoru コマンドを実行してください。

（4）トラブル時の対処に関する注意事項

- 構成情報の資料採取で，期待した資料が採取できない場合は，「６．トラブルの対処方法」に記載された対処を行ったあと，IT Report Utility による資料採取，または「付録 A. 採取資料一覧」を参考に別の手段で資料採取を行ってください。
- 障害時の資料採取で，期待した資料が採取できない場合は，「付録 A. 採取資料一覧」を参考に別の手段で資料採取を行うなど，先に発生している障害の解決を最優先としてください。先に発生している障害の原因究明および対策が完了次第，IT Report Utility の問題解決を実施してください。

５．既定（デフォルト）動作の設定，変更方法

５．１ 既定（デフォルト）動作を設定，変更する方法

IT Report Utility では，次の 2 種類の方法で既定（デフォルト）動作を設定（変更）できます。

- 構成定義ファイルに動作を設定する
- systoru コマンド実行時にオプションを指定する

設定（変更）できる systoru コマンドの動作には，どちらか 1 つの方法でだけ実施できる設定と，どちらの方法でも実施できる設定とがあります。systoru コマンドの動作および設定，変更方法を次の表に示します。

表 ５-１ systoru コマンドの動作と設定，変更方法

#	systoru コマンドの動作	設定，変更方法		参照先
		構成定義ファイル	オプション指定	
1	データディレクトリの場所※	○	○	５．３．１
2	出力ファイル（圧縮ファイル）の出力先と名前	×	○	５．３．２
3	中断時または処理続行不可時のクリーンアップ方針	○	×	５．３．３
4	採取資料の出力サイズの上限値	○	×	５．３．４
5	構成定義ファイルの場所と名前	×	○	５．３．５

注※ 構成定義ファイルとオプションの両方で指定された場合，オプション指定の方が優先されます。

以降，５．２節で構成定義ファイルについて説明し，５．３節で具体的な systoru コマンドの既定動作の設定および変更方法を示します。５．４節では systoru コマンドの動作の設定する際の考え方について説明します。

５．２ 構成定義ファイル

構成定義ファイル systoru_conf は，systoru コマンドの動作を設定するためのファイルです。systoru コマンドでは，-c オプションでの指定がない場合，次の場所の構成定義ファイルが使用されます。

```
%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config¥systoru_conf
```

構成定義ファイルは利用者がカスタマイズできるだけでなく，利用者がファイル名および格納先ディレクトリを変更できます。その場合，systoru コマンド実行時に-c オプションで構成定義ファイルを指定してください。

なお，構成定義ファイルのテンプレート（初期設定）ファイルは次の場所にあります。

```
%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥template¥systoru_conf
```

５．２．１ 構成定義ファイルの既定値（デフォルト値）と動作内容

構成定義ファイルの既定値（デフォルト値）を次の図に示します。

```
SYSTORU_DATA_DIRECTORY=%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data ・・・①
SYSTORU_CLEANUP=OFF                                        ・・・②
SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE=512000                        ・・・③
```

図 ５−１ 構成定義ファイルの既定値（デフォルト値）

構成定義ファイルで systoru コマンドの既定(デフォルト)動作を設定できる項目を次の表に示します。

表 ５−２ 構成定義ファイルで設定できる項目と既定値（デフォルト値）の設定

#	制御変数名	設定内容	既定（デフォルト）値
①	SYSTORU_DATA_DIRECTORY	systoru コマンドのデータディレクトリ	データディレクトリの既定値は %ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data です。ただし，systoru コマンドで-d オプションでデータディレクトリを指定した場合はそちらが優先されます。
②	SYSTORU_CLEANUP	systoru コマンドが中断もしくはエラー終了した場合に，データディレクトリに採取した資料を残すか，残さないかの設定	既定値は OFF（残す）です。採取処理が中断した場合でも，それまで採取した資料はデータディレクトリ上に残ります。
③	SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE	中間ファイルも含め，1 回の systoru コマンドの実行で消費するディスク容量の上限値を設定。単位は KB。	既定値は 512000（500MB）です。

５．２．２ 構成定義ファイルに設定できる値

各項目で設定できる値を次の表に示します。

表 ５−３ 構成定義ファイルで設定できる値

#	制御変数名	設定できる値
①	SYSTORU_DATA_DIRECTORY	・既存のディレクトリの絶対パスを半角英数字 70 文字以内で指定します。日本語を含むディレクトリを指定できません。 ・パス名の途中に空白文字が入る場合でもそのまま記述します。前後を「″」（ダブルクォーテーション）で囲む必要はありません。 ・Windows の場合は，システムの環境変数が設定できます。環

		境変数名の前後を%で囲って指定してください。 ・設定できるのは，ローカルファイルシステムだけです。ネットワークファイルシステムやリムーバブルディスクなどはサポートしていません。
②	SYSTORU_CLEANUP	・systoru コマンドが中断またはエラー終了した際に，データディレクトリに採取した資料を残す場合は OFF，残さない場合は ON※を指定します。 ・ON または OFF は，必ず大文字で指定してください。
③	SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE	・1 回の systoru コマンドの実行で消費するディスク容量の上限値を KB 単位(1KB=1,024 バイト)で指定します。 ・上限値を設定したくない場合は，0 または-1 を設定してください。

注※　クリーンアップ方針を「ON(削除する)」に設定しても，採取した資料がデータディレクトリ上に残ることがあります。この場合，「４．５．５　systoru コマンドの出力ファイル（採取資料）」を参照して採取資料の確認および削除を実施してください。次のどれかの操作を実施した場合に発生するおそれがあります。

・systoru コマンドを実行しているウインドウを閉じた
・Ctrl＋C キーまたは Ctrl+Break キーの押下で systoru コマンドを中断した
・採取ツールがタイムアウトした

各制御変数の共通する注意事項を次に示します。

- 各制御変数は 2 行以上にわたって記述することはできません。
- 変数や値の前後および「=」の前後に空白文字を入れることはできません。
- 各制御変数は値（右辺）だけを省略できません。

表 ５-３に示す以外の不正な値を設定した場合，次の図に示すメッセージが出力され資料採取は実行されません。このようなメッセージが出力された場合は，構成定義ファイルを編集し直すか，構成定義ファイルのテンプレートをコピーして編集してください。

```
KAIS119-E:A syntax error occurred.
KAIS120-E:filename = C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥config¥systoru_conf, line no = 1.
```

図 ５-２　構成定義ファイルの書式が不正だった場合の例

５．３ 既定動作の設定例

ここでは，具体的な systoru コマンドの動作を設定，変更する方法について説明します。

５．３．１ データディレクトリを設定，変更する方法

データディレクトリを設定，変更するには，構成定義ファイルで指定する方法と，systoru コマンドのオプションで指定する方法の 2 つの方法が使用できます。両方で指定された場合，systoru コマンドのオプションで指定された方が優先されます。

（1）構成定義ファイルで指定する

構成定義ファイルで定義する SYSTORU_DATA_DIRECTORY で，データディレクトリのパス名を指定できます。ただし，定義するデータディレクトリはシステム上に存在している必要があります。SYSTORU_DATA_DIRECTORY の詳細については，「５．２　構成定義ファイル」を参照してください。構成定義ファイルで，データディレクトリのパス名を c:¥tmp に設定する例を次の図に示します。

```
SYSTORU_DATA_DIRECTORY= C:¥tmp
SYSTORU_CLEANUP=OFF
SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE=512000
```

図　5-3　データディレクトリに C:¥tmp を設定する例（構成定義ファイル）

（2）systoru コマンドのオプションで指定する

systoru コマンドの-d オプションにデータディレクトリのパス名を，絶対パスまたはカレントディレクトリからの相対パスで指定します。systoru コマンドで，データディレクトリのパス名を C:¥tmp に設定する例を次の図に示します。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin>systoru -t config -d C:¥tmp
```

図　5-4　データディレクトリとして C:¥tmp を設定する例（systoru コマンド）

５．３．２ 採取資料の出力先およびファイル名を設定，変更する方法

（1）systoru コマンドのオプションで指定する

採取資料の出力先と出力ファイルの名前は，systoru コマンドの-o オプションで指定できます。-o オプションに続けて出力ファイル名を絶対パス名で指定します。相対パスは指定できません。systoru コマンドで，採取資料の出力先を C:¥tmp¥systoru070918 に設定する例を次の図に示します。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin>systoru -t config -o C:¥tmp¥systoru070918
```

図　5-5　オプションに出力ファイル名 C:¥tmp¥systoru070918 を指定した例

なお，資料採取で使用するディレクトリはデータディレクトリになります。データディレクトリを設定，変更する方法については，「５．３．１　データディレクトリを設定，変更する方法」を参照してください。

５．３．３ クリーンアップ方針を設定，変更する方法

（1）構成定義ファイルで指定する

構成定義ファイルで定義する SYSTORU_CLEANUP で，systoru コマンドを中断した場合や続行できないエラーが発生した場合に，systoru コマンドがそれまで採取した資料をシステム上に残すか残さないかを選択できます。採取資料を残す場合は OFF（既定値），残さない場合は ON を設定します。クリーンアップ方針は構成定義ファイルでだけ設定できます。構成定義ファイルで設定する

SYSTORU_CLEANUP の詳細については，「５．２　構成定義ファイル」を参照してください。構成定義ファイルで，資料をシステム上に残さない設定をする場合の例を次の図に示します。

```
SYSTORU_DATA_DIRECTORY=%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data
SYSTORU_CLEANUP=ON
SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE=512000
```

図　５-６　資料をシステム上に残さない設定をする場合の例（構成定義ファイル）

５．３．４ 資料採取で消費するディスク容量の上限値を設定する方法

（１）構成定義ファイルで指定する

構成定義ファイルで定義する SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE で，systoru コマンドが 1 回の実行で消費するディスク容量の上限値を設定できます。消費するディスク容量には，最終的な出力ファイルだけでなく，資料採取中に一時的に作成される中間ファイルのサイズも含みます。消費するディスク容量の上限値は構成定義ファイルでだけ設定できます。構成定義ファイルで設定する SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE の詳細については，「５．２　構成定義ファイル」を参照してください。構成定義ファイルで消費するディスク容量を 20MB（20480KB）に設定する例を次の図に示します。

```
SYSTORU_DATA_DIRECTORY=%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data
SYSTORU_CLEANUP=OFF
SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE=20480
```

図　５-７　消費するディスクの上限値を 20MB（20480KB）に設定した場合の例（構成定義ファイル）

５．３．５ 利用者が作成した構成定義ファイルを利用する方法

（１）systoru コマンドのオプションで指定する

systoru コマンド実行時にインストールされたの構成定義ファイルではなく，利用者が作成した構成ファイルを利用する場合は，systoru コマンドの-c オプションで，使用する構成定義ファイルを指定します。構成定義ファイルは絶対パスまたはカレントディレクトリからの相対パスで指定します。構成定義ファイルを指定した systoru コマンドの実行例を次の図に示します。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥systoru¥bin>systoru -t config -c C:¥tmp¥systoru.conf
```

図　５-８　構成定義ファイル C:¥tmp¥systoru.conf を指定した例（systoru コマンド）

５．４ 既定値設定の考え方

ここでは，systoru コマンドの動作を設定する際の，各設定項目の考え方について説明します。

５．４．１ データディレクトリ（SYSTORU_DATA_DIRECTORY）

データディレクトリは，IT Report Utility が資料採取に使用するディレクトリです。インストール直後の構成定義ファイルでは，次の場所に設定されています。

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data

出力ファイル（採取資料）は，システムリソースの１つであるディスクを消費するため，システムの動作に影響を与えるおそれがあります。あらかじめディスクの空きが十分ある場所を，IT Report Utility のデータディレクトリとして設定することを推奨します。ただし，データディレクトリとして設定できるのは，ローカルファイルシステムだけです。ネットワークファイルシステムやリムーバブルディスクなどはサポートしていません。

５．４．２ クリーンアップ方針（SYSTORU_CLEANUP）

クリーンアップ方針は，IT Report Utility が中断したり，異常終了したりした際に，それまで採取した資料をシステム上に残すかどうかを決定する設定です。インストール直後の構成定義ファイルでは，OFF（採取した資料はシステム上に残す）に設定されています。

「採取できたものだけでも活用する」という考え方や，「不完全な資料は必要ない」「ゴミとして残したくない」という考え方があり，どちらがよいかは一長一短です。システムの管理方針に基づき個々に設定をご検討ください。

参考：既定値の設定が OFF の理由

IT Report Utility の活用目的の１つに「障害調査」があります。既定値の設定が OFF（採取した資料はシステム上に残す）であるのは，コマンドを実行したその瞬間しか採取できない資料が採取できているケースがあるため，消さないで残しておいた方がよい，という考えに基づくものです。

５．４．３ 資料採取で消費するディスク容量の上限値（SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE）

資料採取で消費するディスク容量の上限値には，資料採取の処理の中で一時的に生成される中間ファイルを含め，これ以上ディスクを消費させたくない値を設定します。

この設定は，ディスクの空き容量確保を保証するものではありません。上限値の設定に当たっては事前に十分な検証を行い，システム環境に合った上限値を設定するようにしてください。インストール直後の構成定義ファイルでは，512000（500MB）に設定されています。

なお，この値は systoru コマンド１回の実行で消費するディスク容量の上限値です。複数回実行するとディスク圧迫の原因になります。systoru コマンドを複数回実行する場合は，資料採取で消費するディスク容量の上限値の設定に加えて，次のような対処をしてください。

- 採取資料を別のディレクトリや媒体に退避させる
- 不要になった採取資料を削除する

６．トラブルの対処方法

６．１ トラブル対処時の留意点

障害時の資料採取で，IT Report Utility で期待した資料が採取できない場合は，「付録 A. 採取資料一覧」を参考に別の手段で採取を行うなど，**発生している障害の解決を最優先**としてください。発生している障害の原因究明および対策が完了次第，IT Report Utility の問題解決を実施します。

６．２ ログファイルの種類と場所

IT Report Utility は，systoru コマンド実行時にトラブルシュートを目的したログファイルを出力します。ログファイルには，systoru コマンド 1 回分のログを記録する実行ログファイルと，systoru コマンド 1 回分の簡易ログを累積して記録する実行履歴ログファイルがあります。

６．２．１ 実行ログファイル

実行ログファイルには次に示す情報が出力されます。

- systoru コマンド実行時のトレース情報
- systoru コマンドによる資料の採取状況

出力形式はテキストファイルで，2 世代分のログファイルがシステム上に管理され，systoru コマンドが実行されるたびに世代間でファイルが置き換わります。実行ログファイルのファイル名を次の表に示します。

表 ６－１ systoru コマンドの実行ログファイルのファイル名

#	世代	ファイル名
1	現行	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥systoru.log
2	1 世代前	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥systoru_old.log

注 初回起動時は systoru_old.log は存在しません。

６．２．２ 実行履歴ログファイル

実行履歴ログファイルは，systoru コマンドの開始終了時間，systoru コマンドの終了コード，採取資料の出力ファイル名が 1 行ごとに記録されます。出力形式はテキストファイルで，2 世代分のログファイルがシステム上に管理されます。10,240 バイトを上限とし，これを超えると世代間でファイルが置き換わります。実行履歴ログファイルのファイル名を次の表に示します。

表 ６－２ systoru コマンドの実行履歴ログファイルのファイル名

#	世代	ファイル名
1	現行	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥systoru_hist.log
2	1 世代前	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥systoru_hist_old.log

注 初回起動時は systoru_hist_old.log は存在しません。現行のログが 10,240 バイトを最初に超えた時に作成されます。

６．３ トラブルシュートに必要な資料

systoru コマンド自身で発生した「実行不可」や「ハングアップ」のような問題の初期切り分けを行うために必要な資料を次に示します。なお，**資料の取得には Administrator 権限のユーザであることが必要**です。

- 実行ログファイル，実行履歴ログファイルなど（%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥以下のファイルすべて）
- 使用している構成定義ファイル（-c オプションで明示的に指定していない場合は%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config）
- systoru コマンドの出力ファイル（採取資料が存在する場合）
- トラブル発生時の詳細なプロセス一覧

  コマンドプロンプトから，次のコマンドを実行した結果(filename.txt)

  wmic path win32_process get /value > filename.txt

６．４ インストール，アンインストール時のトラブルシューティング

ここでは，IT Report Utility のインストール，アンインストールに関するトラブルの対処方法について説明します。

（１）setup.bat 実行時に「このバージョンの Windows にはインストールできません」というダイアログが表示されてインストールに失敗する。

原因

Windows Server® 2003 以外の OS， Windows Server® 2008 以外の OS，または Windows Server® 2012 以外の OS にインストールしようとしています。

対処

前提 OS を確認の上，サポート対象の OS が稼働するシステムにインストールしてください。

（２）setup.bat 実行時に「This OS is not supported.」というメッセージが表示されてインストールに失敗する。

原因

Windows Server® 2003 以外の OS， Windows Server® 2008 以外の OS，または Windows Server® 2012 以外の OS にインストールしようとしています。

対処

前提 OS を確認の上，サポート対象の OS が稼働するシステムにインストールしてください。

（３）インストール，または，アンインストール実行時に「システム管理者によって，ポリシーはこのインストールを実行できないように設定されています。」というダイアログが表示されてインストールに失敗する。

原因

Administrator 権限のユーザ以外でインストールまたはアンインストールしようとしています。

対処

Administrator 権限のユーザでログオンし，再度インストールまたはアンインストールを実施してください。

（４）インストール，またはアンインストール実行時に「認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています」というダイアログが表示される。

原因

Administrator 権限のユーザ以外でまたはアンインストールしようとしています。

対処

次のどちらかの対処を実施してください。

・Administrator 権限のユーザでログオンし，再度インストールまたはアンインストールを実施してください。

・Administrator 権限のパスワードを入力して，インストールまたはアンインストールを続行してください。

（５）インストール実行時に「別のインストールが現在行われています。新たにインストールを行うには，既に実行中のインストールを完了しなければなりません。」というダイアログが表示されてインストールに失敗する。

原因

IT Report Utility のインストール中に，再度インストールを実行しています。

対処

2 回目以降のインストール処理を中止してください。

（６）インストール，またはアンインストール実行時に「ディスクに十分な空き領域がありません。」というダイアログが表示されてインストールに失敗する。

原因

Windows Installer の実行に必要なディスク容量がない状態でインストールしようとしています。

対処

ディスクの空き容量を確保した上で，再度インストールまたはアンインストールを実行してください。

（７）setup.bat 実行時に「ディスクがいっぱいです: ディスク領域が足りません -- ボリューム: 'x:'; 必要な領域: y KB; 利用可能な領域: z KB。ディスク領域を解放してから，再試行してください。」というダイアログが表示されてインストールに失敗する。（"x":ドライブ文字／"y":systoru のインストールに必要な空き領域サイズ／"z":現在の空き領域サイズ）

原因

インストール先ドライブの空き領域が不足した状態でインストールしようとしています。

対処

ディスクの空き容量を確保した上で，再度インストールを実施してください。

（８）setup.bat 実行時に「インストール情報をディスクに書き込み中にエラーが発生しました。」というダイアログが表示されてインストールに失敗する。

原因

インストール中にファイルの展開に失敗しました。

対処

インストール先のディレクトリ(%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru)が書き込み可能な状態，かつ，インストール先のディスクに空き容量が十分あることを確認したあと，再度インストールを実施してください。

（９）インストール処理を中断させ，再度インストールを実施したところ，「ファイルにアクセスするための特権が不足していてインストールが続行できません」，「Administrator 権限のユーザでログオンするかシステム管理者に問い合わせてください」といった内容のダイアログが表示され，インストールに失敗する。また，再インストールする前に systoru ディレクトリを手動で削除しようとした場合，Administrator 権限のユーザでもアクセスが拒否されてしまう。

原因

Windows Installer によるインストール処理が途中で異常終了したため，残存したプロセスが特定のディレクトリをロックしているおそれがあります。

対処

次のどちらかの対処を実施してください。

・残存したプロセスをタスクマネージャから停止してください。

・プロセスが特定できない場合はいったんログオフし，Administrator 権限のユーザでログオン後に再度インストールを実施してください。

（１０）setup.bat 実行時にインストールのエラーが発生した。エラーの要因を調べたいがどの資料（ログ）を参照すればよいか。

対処

次のログファイルを参照して対処してください。

%TEMP%¥systoru_setup.log

%Temp%は，Windows 上のシステム環境変数を示します。

（１１）誤って構成定義ファイルを消してしまった。

対処

次のファイルをコピーして使用してください。

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥template¥systoru_conf

（１２）誤って構成定義ファイル以外のファイルを消してしまった。

対処

修復インストールを実施してください。

（１３）構成定義ファイル以外のファイルが壊れてしまった（削除されていない）。

対処

データディレクトリ以下のファイルと構成定義ファイル（カスタマイズしていた場合）をいったん退避後，アンインストール，インストールを実施し，退避したファイルを元に戻してください。

６．５ systoruコマンド実行時のトラブルシューティング

ここでは，systoru コマンド実行に関するトラブルの対処方法について説明します。

６．５．１ systoruコマンド起動直後のトラブル

（１）一般ユーザで systoru コマンドが実行できない。

原因

systoru コマンドは，Administrator 権限のユーザ以外では実行できません。

対処

Administrator 権限のユーザでログインし，再度 systoru コマンドを実行してください。

（２）systoru コマンド起動時に「KAIS116-E:Another systoru is already running. Please try later.」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。

原因

ほかの systoru コマンドが実行中です。

対処

実行中の systoru コマンドの終了を待って，再度 systoru コマンドを実行してください。

（３）systoru コマンド起動時に「KAIS101-E:The specified option(%1) is invalid.」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。（%1：systoru コマンドに指定されたオプション）

原因

systoru コマンドに不正なオプションが指定されました。

対処

systoru コマンドに指定するオプションを確認し,正しいオプションを指定して再度 systoru コマンドを実行してください。

（４）systoru コマンド起動時に「KAIS102-E:The specified option(%1) requires an argument.」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。（%1：systoru コマンドに指定されたオプション）

原因

systoru コマンドに引数を必要とするオプションを指定しましたが，引数が指定されていません。

対処

systoru コマンドに指定するオプションの引数を確認し，引数を指定して再度 systoru コマンドを実行してください。

（５）systoru コマンド起動時に「KAIS104-E:The specified directory(%1) does not exist.」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。（%1：-d オプションの引数に指定されたデータディレクトリのパス名）

原因

-d オプションの引数に指定したデータディレクトリがシステム上に存在しません。

対処

-d オプションの引数に指定するデータディレクトリがシステム上に存在するかどうかを確認し，存在するディレクトリを指定して再度 systoru コマンドを実行してください。

（６）systoru コマンド起動時に「KAIS105-E:You do not have write permissions for the specified directory(%1).」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。（%1：-d オプションの引数に指定されたディレクトリ名）

原因

-d オプションの引数に指定したデータディレクトリに書き込み権限がありません。

対処

-d オプションの引数に指定するデータディレクトリに書き込み権限があるかどうかを確認し,書き込み権限があるディレクトリを指定して再度 systoru コマンドを実行してください。

（７）systoru コマンド起動時に「KAIS106-E:The specified configuration file(%1) does not exist.」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。（%1：ファイル名）

原因

systoru コマンドのオプションの引数に指定したファイルがシステム上に存在しません。

対処

systoru コマンドのオプションの引数に指定したファイルがシステム上に存在するかどうかを確認し，存在するファイルを指定して，再度 systoru コマンドを実行してください。

（８）systoru コマンド起動時に「KAIS109-E:The specified file(%1) already exists.」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。（%1：ファイル名）

原因

systoru コマンドのオプションの引数に指定したファイルがシステム上に存在します。

対処

systoru コマンドのオプションの引数に指定したファイルがシステム上に存在するかどうかを確認し，ファイルが存在した場合は，存在しないファイルを指定して再度 systoru コマンドを実行してください。

（９）systoru コマンド起動時に「KAIS112-E:You do not have access permissions for the specified file(%1).」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。（%1：ファイル名）

原因

systoru コマンドのオプションの引数に指定したファイルにアクセスできませんでした。

対処

systoru コマンドのオプションの引数に指定したファイルのアクセス権限を確認し，適切なアクセス権限を設定したあと，再度 systoru コマンドを実行してください。

（１０）systoru コマンド起動時に「KAIS113-E:An error occurred during the following system call. system call name = rename, error code = 13, msg = Permission denied. KAIS151-E:Additional information, path = %1.」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。(%1：ファイル名)

原因

ほかのプロセスがファイルを開いているため，systoru コマンドの実行に必要なファイルにアクセスできませんでした。

対処

ほかのプロセスの処理が終了するまで最大 2 分程度待ち，再度 systoru コマンドを実行してください。ファイルを開いているプロセスが終了しなくて，再度同じ現象が発生する場合は，サポートへお問い合わせください。

（１１）systoru コマンド起動時に「KAIS115-E:A required option is not specified.」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。

原因

systoru コマンドの実行に必須のオプションが指定されませんでした。

対処

-t オプションまたは-g オプションを指定して，再度 systoru コマンドを実行してください。

（１２）systoru コマンド起動時に「KAIS144-E:The specified output file(%1) must be absolute path name.」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。（%1：出力ファイルのファイル名）

原因

-o オプションの引数で指定した出力ファイル名が絶対パス名ではありません。

対処

-o オプションの引数に絶対パス名を指定し，再度 systoru コマンドを実行してください。

６．５．２ systoruコマンド実行中のトラブル

（１）systoru コマンド実行中に次のどちらかのメッセージが画面に表示されて systoru コマンドが終了する。（%1：ディレクトリ名）

KAIS113-E:An error occurred during the following system call. system call name = CreateDirectory, error code = 206, msg = The filename or extension is too long.

```
KAIS151-E:Additional information, path = %1.
```

```
KAIS113-E:An error occurred during the following system call.  system call name =
CreateDirectory, error code = 3, msg = The system cannot find the path specified.
KAIS151-E:Additional information, path = %1.
```

原因

データディレクトリに指定する絶対パスの長さが 70 文字を超えていたため，systoru コマンドの実行に必要なディレクトリを作成できませんでした。

対処

データディレクトリに指定する絶対パスの長さを 70 文字以内にして,再度 systoru コマンドを実行してください。

（２）systoru コマンド実行中に「KAIS113-E:An error occurred during the following system call. system call name = %1, error code = 28, msg = No space left on device.」というメッセージが画面に表示され，systoru コマンドが終了する。（%1：システムコール名）

原因

ディスクの空き容量がなくなったため，処理を継続できませんでした。

対処

ディスクの空き容量を確保した上で，再度 systoru コマンドを実行してください。

（３）systoru コマンド実行中に「KAIS118-E:A configuration file(%1) does not exist.」というメッセージが画面に表示されて systoru コマンドが終了する。（%1：構成定義ファイルのファイル名）

原因

構成定義ファイルが存在しません。

対処

構成定義ファイルが存在するかどうかを確認してください。構成定義ファイルがない場合は，構成定義ファイルを作成し，再度 systoru コマンドを実行してください。

（４）systoru コマンド実行中に「KAIS119-E:A syntax error occurred.」「KAIS120-E:filename = %1, line no = %2.」というメッセージが画面に表示されて systoru コマンドが終了する。（%1：構成定義ファイルのファイル名，%2：行番号）

原因

構成定義ファイルに構文エラーがあります。

対処

該当する行の構文エラーを解決し，再度 systoru コマンドを実行してください。

（５）systoru コマンド実行中に「KAIS121-E:There is not system information to be collected under

the specified options.」というメッセージが画面に表示されて，systoru コマンドの実行ログファイルだけがアーカイブ，圧縮されたファイルが採取資料として出力される。

原因

次のどちらかの原因が考えられます。

・-g または-t の引数に指定した文字列のスペルが間違っている。

・-g または-t で指定した範囲に，一致する採取資料がない。

対処

-g または-t に指定した引数を確認し,適切な引数を指定して再度 systoru コマンドを実行してください。

（６）systoru コマンド実行中に「KAIS104-E:The specified directory(%1) does not exist.」というメッセージが画面に表示されて systoru コマンドが終了した。（%1：ディレクトリ名）

原因

systoru コマンド実行中に，データディレクトリがシステム上から削除されました。

対処

オプションまたは構成定義ファイルで指定したデータディレクトリが存在するかどうかを確認してください。指定したデータディレクトリが存在しない場合は，データディレクトリを再作成するか，別のデータディレクトリを指定した上で，再度 systoru コマンドを実行してください。

（７）systoru コマンド実行中に「KAIS131-W:The size of the output data exceeded a limit size.」というメッセージが画面に表示された。また，最終的にファイルを出力するもすべての採取資料が取得できていない。

原因

systoru コマンドが資料採取の処理中に生成する中間ファイルの合計サイズが，構成定義ファイルの SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE で指定した値の 50%を超えました。

対処

次のどちらかの対処を実行した上で，再度 systoru コマンドを実行してください。

・データディレクトリを含むディスクの空き容量を十分に確保する。

・SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE の設定値を変更するか,または無効(0 または-1 を指定)にする。

（８）systoru コマンドを実行したが，予想以上に時間が掛かっている。実行中の systoru を途中で止めたい。

対処

Ctrl+C で systoru コマンドを停止（中断）させてください。

（９）本番業務が動作しているが，systoru コマンドが CPU を消費して本番業務に影響が発生している。

対処

タスクマネージャで，systoru コマンドおよびその子プロセスの優先度を低く変更してくだ

さい。

（１０）systoru コマンドが原因不明のエラーで実行できない。

対処

ほかの方法で個別に資料を採取してください。障害が発生している場合は，障害の復旧および原因究明を優先し，systoru コマンドのエラーに関する原因究明はあとで実施することを推奨します。ただし，systoru コマンドがシステムに重大な影響を与えているおそれがあるときは，systoru コマンドのエラーに関する調査も同時に実施する必要があります。

（１１）systoru コマンド実行中に「KAIS158-W: A process(%1) may remain because system call error occurred. PID = %2.」というメッセージが画面に表示された。（%1：プロセス名，%2：プロセス ID）

原因

systoru コマンドが起動した採取ツールの強制終了に失敗したおそれがあります。

対処

タスクマネージャを起動し，プロセス名，プロセス ID とも一致するプロセスが動作していないか確認してください。プロセスが動作している場合，タスクマネージャからプロセスを終了させてください。

（１２）Windows 2003 環境で，systoru コマンドの実行完了直後にログオフをしたところ，次のイベントがイベントビューアのアプリケーションログに記録された。

種類	警告
ソース	Userenv
分類	なし
イベント ID	1517
説明	ログオフ時にアプリケーションまたはサービスがレジストリをまだ使用している間に、Windows はユーザー ComputerName¥UserName のレジストリを保存しました。ユーザーのレジストリによって使用されたメモリは解放されていません。レジストリは使用されなくなったときにアンロードされます。 ユーザーアカウントとしてサービスを実行していることが原因と考えられます。LocalService または NetworkService アカウントでサービスを構成してみてください。

種類	警告
ソース	Userenv
分類	なし
イベント ID	1524

説明	クラスレジストリファイルをアンロードできません。ほかのアプリケーションまたはサービスによって使用されています。ファイルが使用されなくなった後にアンロードされます。

発生条件

次の条件にすべて該当する場合に発生します。

(1) Windows 2003 版の IT Report Utility で systoru コマンドを実行する。

(2) systoru コマンド実行で新たに起動されるユーザー名「NETWORK SERVICE」の wmiprvse.exe プロセスが，systoru コマンド終了後も存在し続けている状態でログオフを実施する。

回避策 1

systoru コマンド実行後，しばらくしてからログオフしてください。手順を次に示します。

1. Windows タスクマネージャ（taskmgr）を起動して[プロセス]タブをクリックし，プロセス一覧を表示させます。
2. systoru コマンドを実行します。systoru コマンドを実行したことで，Windows タスクマネージャのプロセス一覧に，新たに「wmiprvse.exe」（ユーザー名は「NETWORK SERVICE」）というプロセスが表示されます。
3. systoru コマンドの実行が完了後，Windows タスクマネージャのプロセス一覧に，ユーザー名「NETWORK SERVICE」の「wmiprvse.exe」が存在していることを確認してください。「wmiprvse.exe」が存在している場合，ユーザー名「NETWORK SERVICE」の「wmiprvse.exe」が終了するまでログオフしないでください。
4. Windows タスクマネージャのプロセス一覧からユーザー名「NETWORK SERVICE」の「wmiprvse.exe」が表示されなくなったことを確認し，ログオフを実施してください。

回避策 2

systoru コマンドを実行する前に，マイクロソフト社提供のツールである UPHClean（Microsoft User Profile Hive Cleanup Service）をインストールすることで現象を回避できます。UPHClean は常にコンピュータを監視し，OS がユーザープロファイルをアンロードするとき，リソースをロックしているプロセスから強制的にリソースを解放します。

UPHClean のダウンロード,およびこの回避策の詳細については,次のマイクロソフト社の Web サイトを参照してください。

・UPHClean のダウンロード：
http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyId=1B286E6D-8912-4E18-B570-42470E2F3582

・プロファイルのアンロードに関する問題のトラブルシューティング：
http://support.microsoft.com/kb/837115/ja

対処

この現象は Windows の既定の動作のため，システムへの影響はありません。現象を解消するには，OS を再起動してください。

６．５．３ 出力ファイル（採取資料）に関するトラブル

（１）「KAIS132-W:An error occurred while an archiver was being executed.」というメッセージが表示された。

原因

採取した資料のアーカイブ処理に失敗したため，アーカイブ前のファイルが採取資料として出力されました。

ファイルの出力先を-o オプションで指定していた場合は，指定したファイル名や出力先ディレクトリなどに誤りがあり，アーカイブ処理に失敗している可能性があります。

対処

次のどちらかの対処を実施してください。

・画面に表示されたディレクトリ以下のファイルを採取資料として取得してください。

・指定したファイル名（+.exe）が，指定したディレクトリに作成できるどうかを確認し，再度 systoru コマンドを実行してください。

（２）「KAIS133-W:An attempt to copy the logfile (%1) has failed.」というメッセージが表示された。（%1：ファイル名）

原因

systoru コマンドの実行ログファイルを採取資料として収集するときのコピー処理に失敗しました。

対処

出力ファイル（採取資料）と一緒に，次の実行ログファイルを取得してください。

%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥systoru.log

（３）「KAIS134-W:An error occurred while Hitachi Self-Extractor was being executed.error code = %1」というメッセージが表示された。（%1：エラーコード（10 進形式））

原因

日立自己展開型アーカイバでエラーが発生したため，アーカイブ前のファイルが採取資料として出力されました。

対処

画面に表示されたディレクトリ以下のファイルを採取資料として取得してください。

（４）「KAIS135-W:An error occurred while an compression was being executed.」というメッセージが表示された。

原因

アーカイブファイルの圧縮処理が失敗したため，圧縮前のファイルが採取資料として出力されました。

ファイルの出力先を-o オプションで指定していた場合は，指定したファイル名や出力先ディレクトリなどに誤りがあり，圧縮処理に失敗している可能性があります。

対処

次のどちらかの対処を実施してください。

・画面に表示されたアーカイブファイルを採取資料として取得してください。

・指定した圧縮ファイル名（+.cab）が，指定したディレクトリで作成できるかどうかを確認し，再度 systoru コマンドを実行してください。

（５）systoru コマンドによるアーカイブおよび圧縮処理中に「KAIS104-E:The specified directory(%1) does not exist.」というメッセージが画面に表示されて systoru コマンドが終了した。（%1：ディレクトリ名）

原因

アーカイブ処理および圧縮処理の途中で，データディレクトリがシステム上から削除されました。

対処

コマンドのオプションまたは構成定義ファイルで指定されたデータディレクトリを確認してください。

データディレクトリが存在しない場合は，再度ディレクトリを作成するか，ほかのデータディレクトリを指定するかして，再度 systoru コマンドを実行してください。

（６）「KAIS146-W:An attempt to delete a %1 has failed.」というメッセージが画面に表示された。(%1：削除できなかったファイル名)

原因

圧縮処理終了後にアーカイブファイルの削除に失敗しました。

対処

削除できなかったアーカイブファイルが使用中ではないことを確認してから，ファイルを手動で削除してください。

（７）データディレクトリの下に意図しないファイルまたはディレクトリが残っている。

原因

以前実行した資料採取で，中断操作や採取ツールのタイムアウトによって，クリーンアップ処理が正常に実施できなかったため,採取資料または中間ファイルが残ってしまっています。

対処

出力ファイル（採取資料）の内容を確認し，必要に応じて削除してください。

６．６ その他のトラブルシューティング

ここでは，systoru コマンドに関するそのほかのトラブルの対処方法について説明します。

（１）systoru コマンド実行時または実行中に「KAIS122-E:Memory is insufficient.」というメッセージが画面に表示されて systoru コマンドが終了する。

原因

メモリが（一時的に）不足していたために，systoru コマンドの処理を続行できませんでした。

対処

メモリの空き容量を確認してから，再度 systoru コマンドを実行してください。

（２）systoru コマンドを中断した際に「KAIS136-E:systoru was interrupted. signal no = %1」というメッセージが表示された。（%1：割り込みイベント番号）

原因

systoru コマンドの処理が中断されました。

対処

次のどちらかの対処をしてください。

・SYSTORU_CLEANUP が OFF の場合は，データディレクトリ下の systoru 実行時の日時を名前としたサブディレクトリに，それまで採取したシステム情報が格納されています。必要に応じてこの資料を取得し，不要な場合は削除してください。

・新たにシステム情報を採取したい場合は，再度 systoru コマンドを実行してください。

－以上－

付録A. 採取資料一覧

IT Report Utility が採取する資料を，次の表に示します。

表中に使用されている記号の意味は次のとおりです。

- 「採取方法」欄の「採取ツール/コマンド」欄が「○」の場合，OS 標準のコマンドまたは IT Report Utility に付属する IT Report Utility 専用コマンドによって「出力ファイル，ディレクトリ名」に資料が出力されることを意味します。
- 「レジストリ」欄が「○」の場合は，「採取ツール，コマンド名，レジストリ名またはファイル，ディレクトリ名」に記載されたレジストリの情報が資料に出力されることを意味します。
- 「ファイル/ディレクトリ」欄が「○」の場合は，システム上のファイル，またはディレクトリが「出力ファイル，ディレクトリ名」の場所にコピーされることを意味します。

- 「採取方法」欄の「○」の横に「x86」または「x64」の記載があるものは，それぞれ「Windows Server x86 版」，「Windows Server x64 版」の環境でだけ資料が採取されることを意味します。
- 「出力ファイル，ディレクトリ名」欄のパス名に使用されている「%d%」は，採取資料を展開したときに作成されるディレクトリ（<コンピュータ名>_<YYMMDDhhmmss>¥os）を示します。ディレクトリの詳細については，「４．４ 採取資料の参照方法」を参照してください。

なお，表 A-1 に示す資料はシステム環境によっては存在しない場合があります。

表 A-1　IT Report Utility（Windows 版）採取資料一覧

項番	分類	資料名	採取方法			対応 OS			採取ツール，コマンド名， レジストリ名 または ファイル，ディレクトリ名	出力ファイル， ディレクトリ名	systoruｺﾏﾝﾄﾞの条件オプション			
											-g		-t	
			採取ﾂｰﾙ/ｺﾏﾝﾄﾞ	ﾚｼﾞｽﾄﾘ	ﾌｧｲﾙ/ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ	Windows 2003	Windows 2008	Windows 2012			common	os	config	failure
1	システム情報	システム情報	○			○			HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Shared Tools¥MSInfo¥Path msinfo32.exe /report %d%¥msinfo32.txt	%d%¥msinfo32.txt※1	○	○	○	○
2			○				○	○	%SystemRoot%¥system32¥msinfo32.exe /report %d%¥msinfo32.txt		○	○	○	○
3			○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥systeminfo.exe	%d%¥systeminfo.txt	○	○	○	○
4		ハードウェアモデル（JP1/ServerConductor/Agent のログファイル）			○	○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥System Manager¥Version¥PathName¥Path00¥Log¥@History@.log （32 ビット版） HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI¥System Manager¥Version¥PathName¥Path00¥Log¥@History@.log （64 ビット版）	%d%¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥System Manager¥Version¥PathName¥Path00¥Log¥@History@.log （32 ビット版） %d%HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI¥System Manager¥Version¥PathName¥Path00¥Log¥@History@.log （64 ビット版）	○	○	○	○
5		ブートデバイス情報			○	○			C:¥boot.ini	%d%¥c_drive¥boot.ini	○	○	○	○
6			○			○			%SystemRoot%¥system32¥bootcfg.exe /query	%d%¥bootcfg_query.txt	○	○	○	○
7			○				○	○	%SystemRoot%¥system32¥bcdedit.exe	%d%¥bcdedit.txt	○	○	○	○
8		スタートアップ情報	○			○x86	○x86		type %SystemRoot%¥system32¥config.nt	%d%¥configauto.txt	○	○	○	○
9			○			○x86	○x86		type %SystemRoot%¥system32¥autoexec.nt		○	○	○	○
10		セットアップログ			○	○	○	○	%SystemRoot%¥setupact.log	%d%¥%SystemRoot%¥setupact.log	○	○	○	○
11					○		○	○	%SystemRoot%¥Panther¥setupact.log	%d%¥%SystemRoot%¥Panther¥setupact.log	○	○	○	○
12					○	○			%SystemRoot%¥setupapi.log	%d%¥%SystemRoot%¥setupapi.log	○	○	○	○
13					○		○	○	%SystemRoot%¥INF¥setupapi.app.log	%d%¥%SystemRoot%¥INF¥setupapi.app.log	○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法			対応 OS			採取ツール，コマンド名， レジストリ名 または ファイル，ディレクトリ名	出力ファイル， ディレクトリ名	systoruｺﾏﾝﾄﾞの条件オプション			
											-g		-t	
			採取ﾂｰﾙ/ｺﾏﾝﾄﾞ	ﾚｼﾞｽﾄﾘ	ﾌｧｲﾙ/ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ	Windows 2003	Windows 2008	Windows 2012			common	os	config	failure
14	システム情報 （続き）	セットアップログ （続き）			○		○	○	%SystemRoot%¥INF¥setupapi.dev.log	%d%¥%SystemRoot%¥INF¥setupapi.dev.log	○	○	○	○
15					○	○	○	○	%SystemRoot%¥setuperr.log	%d%¥%SystemRoot%¥setuperr.log	○	○	○	○
16					○		○	○	%SystemRoot%¥Panther¥setuperr.log	%d%¥%SystemRoot%¥Panther¥setuperr.log	○	○	○	○
17		システムルート情報	○			○	○	○	IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥systemroot.txt※1	○	○	○	○
18		Internet Explorer モジュール情報	○			○x86	○x86		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥iefiles.txt※1	○	○	○	○
19			○			○x64	○x64	○	IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥iefiles_x86.txt※1	○	○	○	○
20			○			○x64	○x64	○	IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥iefiles_x64.txt※1	○	○	○	○
21		System32 情報	○			○	○	○	IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥system32.txt※1	○	○	○	○
22		Windows ディレクトリ以下のファイル一覧	○			○	○	○	dir /S %SystemRoot%	%d%¥dir_windows.txt	○	○	○	○
23		サーバ役割確認	○				○		%SystemRoot%¥system32¥ServerManagerCmd.exe -query	%d%¥ServerManagerCmd_query.txt	○	○	○	○
24			○					○	GET-WindowsFeature(PowerShell コマンドレット)	%d%¥WindowsFeature.txt	○	○	○	○
25		ボリュームシャドウコピー	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥vssadmin.exe List Writers	%d%¥vssadmin_List_Writers.txt	○	○	○	○
26			○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥vssadmin.exe List Providers	%d%¥vssadmin_List_Providers.txt	○	○	○	○
27			○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥vssadmin.exe List ShadowStorage	%d%¥vssadmin_List_ShadowStorage.txt	○	○	○	○
28			○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥vssadmin.exe List Shadows	%d%¥vssadmin_List_Shadows.txt	○	○	○	○
29			○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥vssadmin.exe List Volumes	%d%¥vssadmin_List_Volumes.txt	○	○	○	○
30		共有フォルダ	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥net.exe use	%d%¥net_use.txt	○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法			対応 OS			採取ツール，コマンド名， レジストリ名 または ファイル，ディレクトリ名	出力ファイル， ディレクトリ名	systoruｺﾏﾝﾄﾞの条件オプション			
											-g		-t	
			採取ﾂｰﾙ/ｺﾏﾝﾄﾞ	ﾚｼﾞｽﾄﾘ	ﾌｧｲﾙ/ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ	Windows 2003	Windows 2008	Windows 2012			common	os	config	failure
31	システム情報 （続き）	ボリューム情報	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥mountvol.exe	%d%¥mountvol.txt	○	○	○	○
32		電源設定	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥powercfg.exe -Q	%d%¥powercfg_Q.txt	○	○	○	○
33			○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥powercfg.exe -A	%d%¥powercfg_A.txt	○	○	○	○
34			○				○		%SystemRoot%¥system32¥powercfg.exe -DEVICEQUERY all_devices_verbose	%d%¥powercfg_all_devices_verbose.txt	○	○	○	○
35			○					○	IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥device_powerstate.txt	○	○	○	○
36		ページファイル レジストリ情報		○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥Memory Management 以下のすべてのサブキーと値※2	%d%¥pagefile_reg.txt	○	○	○	○
37		コントロールパネル レジストリ情報		○		○	○	○	HKEY_CURRENT_USER¥Control Panel 以下のすべてのサブキーと値※2	%d%¥ControlPanel_reg.txt	○	○	○	○
38	イベントログ情報	アプリケーション イベントログ （テキスト形式）	○			○			IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥eventlog_application.txt	○	○	－	○
39			○				○	○	%SystemRoot%¥system32¥Wevtutil.exe qe application /f:text /c:1000 /rd:true	%d%¥eventlog_1000L_application.txt	○	○	－	○
40		アプリケーション イベントログ （バイナリ形式）	○			○			IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥eventlog_application.evt %d%¥cscript_application_evt.log	○	○	－	○
41			○				○	○	%SystemRoot%¥system32¥Wevtutil.exe epl application ¥%d%¥eventlog_application.evtx	%d%¥eventlog_application.evtx	○	○	－	○
42		システム イベントログ （テキスト形式）	○			○			IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥eventlog_system.txt	○	○	－	○
43			○				○	○	%SystemRoot%¥system32¥Wevtutil.exe qe system /f:text /c:1000 /rd:true	%d%¥eventlog_1000L_system.txt	○	○	－	○
44		システム イベントログ （バイナリ形式）	○			○			IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥eventlog_system.evt %d%¥cscript_system_evt.log	○	○	－	○
45			○				○	○	%SystemRoot%¥system32¥Wevtutil.exe epl system ¥%d%¥eventlog_system.evtx	%d%¥eventlog_system.evtx	○	○	－	○
46	ネットワーク情報	ネットワーク 詳細設定情報	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥ipconfig.exe /all	%d%¥ipconfig_all.txt	○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法			対応 OS			採取ツール，コマンド名， レジストリ名 または ファイル，ディレクトリ名	出力ファイル， ディレクトリ名	systoruｺﾏﾝﾄﾞの 条件オプション			
											-g		-t	
			採取ﾂｰﾙ/ｺﾏﾝﾄﾞ	ﾚｼﾞｽﾄﾘ	ﾌｧｲﾙ/ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ	Windows 2003	Windows 2008	Windows 2012			common	os	config	failure
47	ネットワーク情報 （続き）	リゾルバの キャッシュ情報	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥ipconfig.exe /displaydns	%d%¥ipconfig_dns.txt	○	○	○	○
48		ネットワーク 接続情報	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥netstat.exe -a -o -n	%d%¥netstat_a_o_n.txt	○	○	○	○
49		ルーティング情報	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥netstat.exe -e -s -v -r	%d%¥netstat_e_s_v_r.txt	○	○	○	○
50		arp テーブル情報	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥arp.exe -a	%d%¥arp_a.txt	○	○	○	○
51		NetBIOS 情報	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥nbtstat.exe -r	%d%¥nbtstat_r.txt	○	○	○	○
52			○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥nbtstat.exe -c -n	%d%¥nbtstat_c_n.txt	○	○	○	○
53			○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥nbtstat.exe -S	%d%¥nbtstat_s.txt	○	○	○	○
54		TCP/IP レジストリ 情報		○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥ Services¥Tcpip¥Parameters 以下のすべてのサブキーと値※2	%d%¥tcpip_reg.txt	○	○	○	○
55				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥ Services¥Tcpip6¥Parameters 以下のすべてのサブキーと値※2	%d%¥tcpipv6_reg.txt	○	○	○	○
56		ホスト名と IP アドレスの一覧			○	○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥hosts	%d%¥%SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥hosts	○	○	○	○
57	ソフトウェア情報	インストール ソフトウェア一覧		○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall レジストリキー一覧※3	%d%¥application_list.txt	○	○	○	○
58				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall 以下のすべてのサブキーの displayname 値※4		○	○	○	○
59				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall 以下のすべてのサブキーの displayversion 値※4		○	○	○	○
60				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall 以下のすべてのサブキーの UninstallString 値※4		○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法			対応 OS			採取ツール，コマンド名， レジストリ名 または ファイル，ディレクトリ名	出力ファイル， ディレクトリ名	systoruｺﾏﾝﾄﾞの 条件オプション			
											-g		-t	
			採取ﾂｰﾙ/ｺﾏﾝﾄﾞ	ﾚｼﾞｽﾄﾘ	ﾌｧｲﾙ/ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ	Windows 2003	Windows 2008	Windows 2012			common	os	config	failure
61	ソフトウェア情報 （続き）	インストール ソフトウェア一覧 （続き）		○		○x64	○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall レジストリキー一覧※3	%d%¥application_list.txt	○	○	○	○
62				○		○x64	○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall 以下のすべてのサブキーの displayname 値※4		○	○	○	○
63				○		○x64	○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall 以下のすべてのサブキーの displayversion 値※4		○	○	○	○
64				○		○x64	○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall 以下のすべてのサブキーの UninstallString 値※4		○	○	○	○
65		インストール 日立 PP 一覧		○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Hitachi レジストリキー一覧※3	%d%¥hitachi_pp_list.txt	○	○	○	○
66				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Hitachi 以下のすべてのサブキーの ProgramName 値※4		○	○	○	○
67				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Hitachi 以下のすべてのサブキーの ProductID 値※4		○	○	○	○
68				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Hitachi 以下のすべてのサブキーの CurrentVersion 値※4		○	○	○	○
69				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Hitachi 以下のすべてのサブキーの EXCurrentVersion 値※4		○	○	○	○
70				○		○x64	○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hitachi レジストリキー一覧※3		○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法			対応 OS			採取ツール，コマンド名， レジストリ名 または ファイル，ディレクトリ名	出力ファイル， ディレクトリ名	systoruｺﾏﾝﾄﾞの条件オプション			
											-g		-t	
			採取ﾂｰﾙ/ｺﾏﾝﾄﾞ	ﾚｼﾞｽﾄﾘ	ﾌｧｲﾙ/ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ	Windows 2003	Windows 2008	Windows 2012			common	os	config	failure
71	ソフトウェア情報 （続き）	インストール日立 PP 一覧 （続き）		○		○x64	○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hitachi 以下のすべてのサブキーの ProgramName 値※4	%d%¥hitachi_pp_list.txt	○	○	○	○
72				○		○x64	○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hitachi 以下のすべてのサブキーの ProductID 値※4		○	○	○	○
73				○		○x64	○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hitachi 以下のすべてのサブキーの CurrentVersion 値※4		○	○	○	○
74				○		○x64	○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hitachi 以下のすべてのサブキーの EXCurrentVersion 値※4		○	○	○	○
75		HotFix 情報	○			○			dir /a "%SystemRoot%¥$*.*"	%d%¥hotfix.txt	○	○	○	○
76				○		○			HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Hotfix 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
77				○		○			HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Updates 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
78			○				○	○	%SystemRoot%¥system32¥wbem¥wmic.exe qfe get /value	%d%¥wmic_qfe.txt	○	○	○	○
79	サービス情報	IPSec Service Key 情報		○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥IPSEC 以下のすべてのサブキーと値※2	%d%¥ipsec.txt	○	○	○	○
80				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥PolicyAgent 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
81				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Policies¥Microsoft¥Windows¥IPSec 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法			対応 OS			採取ツール，コマンド名， レジストリ名 または ファイル，ディレクトリ名	出力ファイル， ディレクトリ名	systoruｺﾏﾝﾄﾞの 条件オプション			
											-g		-t	
			採取ﾂｰﾙ/ｺﾏﾝﾄﾞ	ﾚｼﾞｽﾄﾘ	ﾌｧｲﾙ/ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ	Windows 2003	Windows 2008	Windows 2012			common	os	config	failure
82	サービス 情報 （続き）	Print レジストリ情報		○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Control¥Print 以下のすべてのサブキーと値※2	%d%¥printkey.txt	○	○	○	○
83		Recovery 情報		○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥AeDebug 以下のすべてのサブキーと値※2	%d%¥recovery.txt	○	○	○	○
84				○		○			HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥DrWatson 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
85				○			○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Windows¥Windows Error Reporting 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
86				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥i8042prt¥Parameters 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
87				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Control¥CrashControl 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
88				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
89				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Image File Execution Options 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
90			○			○			dir "%USERPROFILE%¥Local Settings¥Application Data¥Microsoft¥Dr Watson¥*.dmp"		○	○	○	○
91			○				○	○	dir "%LOCALAPPDATA%¥CrashDumps"		○	○	○	○
92			○			○			dir "%USERPROFILE%¥Local Settings¥Application Data¥Microsoft¥Dr Watson¥drwtsn32.log"		○	○	○	○
93			○			○	○	○	dir "%SystemRoot%¥*.dmp"		○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法			対応 OS			採取ツール，コマンド名， レジストリ名 または ファイル，ディレクトリ名	出力ファイル， ディレクトリ名	systoruｺﾏﾝﾄﾞの条件オプション			
											-g		-t	
			採取ﾂｰﾙ/ｺﾏﾝﾄﾞ	ﾚｼﾞｽﾄﾘ	ﾌｧｲﾙ/ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ	Windows 2003	Windows 2008	Windows 2012			common	os	config	failure
94	サービス情報（続き）	Recovery 情報（続き）	○			○	○	○	dir ″%SystemRoot%¥Minidump¥*.dmp″	%d%¥recovery.txt	○	○	○	○
95		Terminal Service 情報	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥qwinsta.exe	%d%¥qwinsta.txt	○	○	○	○
96			○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥quser.exe	%d%¥quser.txt	○	○	○	○
97				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Terminal Server 以下のすべてのサブキーと値※2	%d%¥termservice.txt	○	○	○	○
98	プロセス情報	プロセス情報	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥qprocess.exe *	%d%¥qprocess_all.txt	○	○	○	○
99	タスク情報	タスク情報	○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥tasklist /v	%d%¥tasklist_v.txt	○	○	○	○
100			○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥tasklist /svc	%d%¥tasklist_svc.txt	○	○	○	○
101			○			○	○	○	%SystemRoot%¥system32¥tasklist /m	%d%¥tasklist_m.txt	○	○	○	○
102		スケジューリングされたタスクのログ			○	○	○		%SystemRoot%¥tasks¥schedlgu.txt	%d%¥%SystemRoot%¥tasks¥schedlgu.txt	○	○	○	○
103		スケジュール情報	○			○	○		%SystemRoot%¥system32¥at.exe	%d%¥at.txt	○	○	○	○
104			○					○	%SystemRoot%¥system32¥schtasks.exe	%d%¥schtasks.txt	○	○	○	○
105	クラスタ情報	クラスタ情報		○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥Cluster 以下のすべてのサブキーと値※2	%d%¥clustermisc.txt	○	○	○	○
106				○		○	○	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥CurrentControlSet¥Services¥Disk 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
107			○			○	○	○	IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥cluster_list.txt	○	○	○	○
108		クラスタファイル情報	○			○	○	○	IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥clusterfiles.txt※1	○	○	○	○
109		クラスタログ			○	○			%SystemRoot%¥cluster¥cluster.log	%d%¥%SystemRoot%¥cluster¥cluster.log	○	○	○	○
110			○				○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%¥*Cluster.log %d%¥cluster_log_gen.log	○	○	○	○
111			○					○		%d%¥*Cluster.log %d%¥GET-ClusterLog.log	○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法			対応 OS			採取ツール，コマンド名， レジストリ名 または ファイル，ディレクトリ名	出力ファイル， ディレクトリ名	systoruｺﾏﾝﾄﾞの条件オプション			
											-g		-t	
			採取ﾂｰﾙ/ｺﾏﾝﾄﾞ	ﾚｼﾞｽﾄﾘ	ﾌｧｲﾙ/ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ	Windows 2003	Windows 2008	Windows 2012			common	os	config	failure
112	Exchange レジストリ 情報	Exchange レジストリ情報		○		○x86	○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Exchange 以下のすべてのサブキーと値※2	%d%¥exchng.txt	○	○	○	○
113				○		○x86			HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥msexchangeis 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
114				○		○x86			HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥msexchangemta 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
115				○		○x86			HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥msexchangesa 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
116				○			○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥MSExchange ADAccess 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
117				○			○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥MSExchange Common 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
118				○			○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥MSExchange EdgeSync 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
119				○			○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥MSExchange Extensibility 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
120				○			○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥MSExchange Management Application 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
121				○			○x64	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥MSExchange Process Manager 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法			対応 OS			採取ツール，コマンド名， レジストリ名 または ファイル，ディレクトリ名	出力ファイル， ディレクトリ名	systoruｺﾏﾝﾄﾞの条件オプション			
											-g		-t	
			採取ﾂｰﾙ/ｺﾏﾝﾄﾞ	ﾚｼﾞｽﾄﾘ	ﾌｧｲﾙ/ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ	Windows 2003	Windows 2008	Windows 2012			common	os	config	failure
122	Exchange レジストリ情報 （続き）	Exchange レジストリ情報 （続き）		○			○[x64]	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥MSExchange System Attendant Mailbox 以下のすべてのサブキーと値※2	%d%¥exchng.txt	○	○	○	○
123				○			○[x64]	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥MSExchange Topology 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○
124				○			○[x64]	○	HKEY_LOCAL_MACHINE¥system¥currentcontrolset¥services¥MSExchangeServiceHost 以下のすべてのサブキーと値※2		○	○	○	○

注※1　KAIS307-Q への Y キー入力，または-m all オプション指定ありでの systoru コマンド実行時にだけ採取される資料です。
注※2　ある「レジストリキー以下のすべてのサブキーと値」を採取する場合は「reg.exe query［対象とするレジストリキー］/s」
　例)項番76の例，reg.exe query "HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Hotfix" /s
注※3　「レジストリキー一覧」を採取する場合は「reg.exe query［対象とするレジストリキー］」とします。
　例)項番57の例，reg.exe query "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall"
注※4　ある「レジストリキー以下のすべてのサブキーの特定の値」を採取する場合は「reg.exe query［対象とするレジストリキー］/s /v "特定の値"」
　例)項番58の例，reg.exe query "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall" /s /v "displayname"

付録B. メッセージ一覧

IT Report Utility から出力されるメッセージを次の表に示します。

表 B-1　systoru コマンドが出力するメッセージ一覧

ﾒｯｾｰｼﾞ ID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS101-E	The specified option(%1) is invalid. %1:オプションに指定した引数		○	○	systoru コマンドに不正なオプションが指定されています。	コマンドラインを見直して再実行してください。
KAIS102-E	The specified option(%1) requires an argument. %1:引数が指定されなかったオプション		○	○	systoru コマンドのオプションに引数が指定されていません。	コマンドラインを見直して再実行してください。
KAIS104-E	The specified directory(%1) does not exist. %1:データディレクトリ名		○	○	指定されたデータディレクトリが存在しません。	存在するデータディレクトリを指定して再実行してください。
KAIS105-E	You do not have write permissions for the specified directory(%1). %1:データディレクトリ名		○	○	指定されたデータディレクトリに書き込み権限がありません。	書き込み権限があるディレクトリを指定して再実行してください。
KAIS106-E	The specified configuration file(%1) does not exist. %1:ファイル名		○	○	指定された構成定義ファイルが存在しません。	存在する構成定義ファイルを指定して再実行してください。
KAIS107-W	The specified option(%1) cannot be specified twice or more. %1:指定されたオプション		○	○	複数指定できないオプションが複数回指定されています。	なし(最後に指定されたオプションが有効となります)。
KAIS108-E	The specified argument of the option(%1) is too long. %1:オプションに指定した引数		○	○	オプションの引数に指定できる文字列長を超えて指定されています。	オプションに指定する引数を見直して再実行してください。
KAIS109-E	The specified file(%1) already exists. %1: ファイル名		○	○	存在するファイル名が指定されました。	存在しないファイル名を指定して再実行してください。
KAIS110-E	The specified mode(%1) is invalid. %1: -m オプションの引数文字列		○	○	-m オプションに all, または safe 以外が指定されています。	オプションの指定内容を見直し,再実行してください。
KAIS111-E	Mode(%1) and mode(%2) cannot be specified concurrently. %1:同時に指定できないモード %2:同時に指定できないモード		○	○	同時に指定できないモードが指定されています。	オプションの指定内容を見直し,再実行してください。

ﾒｯｾｰｼﾞ ID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS112-E	You do not have access permissions for the specified file(%1). %1:ファイル名		○	○	指定されたファイルにアクセスできませんでした。	ファイルのアクセス権を変更するか,別のファイルを指定して再実行してください。
KAIS113-E	An error occurred during the following system call. system call name = %1, error code = %2, msg = %3. %1:システムコール名 %2:エラー番号（10 進形式） %3:メッセージ		○	○	システムコールエラーが発生しました。	次のどちらかの対処を実行してください。 ①データディレクトリに指定する絶対パスの長さが 70 文字を越えている場合は 70 文字以下にして再実行します。 ②「６．３　トラブルシュートに必要な資料」の資料を手動で採取し，サポートに問い合わせます。
KAIS114-E	source = %1, line no = %2. %1:ソースファイル名 %2:行番号（10 進形式）			○	メッセージ ID KAIS113-E に関する内部情報です。	―
KAIS115-E	A required option is not specified.		○	○	-t または-g オプションが一つも指定されませんでした。	-t オプションまたは-g オプションを指定して，再実行してください。
KAIS116-E	Another systoru is already running. Please try later.		○	○	別の systoru コマンドが実行中です。	実行中の systoru コマンドの終了を待って再実行してください。
KAIS117-E	This cannot be executed because the user is not a super user.		○		Administrator 権限のユーザ以外のユーザで実行しました。	Administrator 権限のユーザで再実行してください。
KAIS118-E	A configuration file(%1) does not exist. %1:ファイル名		○	○	構成定義ファイルが存在しません。	構成定義ファイルの存在を確認して再実行してください。
KAIS119-E	A syntax error occurred.		○	○	構成定義ファイルに構文エラーがあります。	KAI120-E が示す個所を見直して再実行してください。

ﾒｯｾｰｼﾞID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS120-E	filename = %1, line no = %2. %1:ファイル名 %2:行番号（10進形式）		○	○	構文エラーがある構成定義ファイル名と行番号です。	該当する構成定義ファイルの行番号を見直して再実行してください。
KAIS121-E	There is not system information to be collected under the specified options.		○	○	採取する資料が一つもありません。	引数が次のどちらかになっていることを確認して再実行してください。 -g：common または os -t ： config または failure
KAIS122-E	Memory is insufficient.		○	○	メモリ不足が発生しました。	メモリが空くのを待って再実行してください。
KAIS125-W	An information collecting tool(%1) that collects system information does not exist. %1:採取ツール名			○	採取ツールが存在しません。	表示された採取ツールの存在を確認してください。
KAIS126-W	A timeout occurred while information collecting tool(%1) was being executed. %1:採取ツール名			○	実行中の採取ツールでタイムアウトが発生しました。	次のどちらかの対処を実行してください。 ①採取ツールがOSコマンドの場合，単独で実行して問題を切り分けます。 ②採取ツールがIT Report Utility提供のツールの場合，サポートに問い合わせます。
KAIS127-I	An information collecting tool(%1) was not executed because the tool may cause high load of system. %1: 資料採取用プログラム名	○		○	システム負荷が高騰する可能性のある採取ツールを実行しませんでした。	次のどれかの対処を実行してください。 ①KAIS307-Qに対してYキーを入力します。 ②-m all オプション指定ありで systoru コマンドを再度実行します。

ﾒｯｾｰｼﾞID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS129-W	A system information(%1) is not found. %1:ファイル名またはディレクトリ名			○	採取する資料が存在しません。	表示されたファイルまたはディレクトリがシステム上に存在するか確認してください。
KAIS130-W	An attempt to collect the system information has failed.			○	採取資料の収集に失敗しました。	ディスクに空きがあるか,書き込み権限があるか確認してください。
KAIS131-W	The size of the output data exceeded a limit size.		○		資料採取の処理で生成される中間ファイルの合計サイズがSYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZEの設定値の50%を超えました。	次のどちらかの対処を実行してください。 ①採取できた資料を取得します。 ②ディスクの空き容量を確認（または確保）して再実行します。 ③SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZEの値を見直して再実行します。
KAIS132-W	An error occurred while an archiver was being executed.		○	○	アーカイブ処理でエラーが発生しました。	アーカイブ前の出力ファイル（採取資料）を取得してください。
KAIS133-W	An attempt to copy the logfile (%1) has failed. %1:ファイル名		○	○	実行ログファイルのコピーに失敗しました。	出力ファイル（採取資料）とは別に,実行ログファイルを個別に採取してください。
KAIS134-W	An error occurred while Hitachi Self-Extractor was being executed. error code = %1. %1:エラーコード（10進形式）		○	○	日立自己展開型アーカイバでエラーが発生しました。	アーカイブ前の出力ファイル（採取資料）を取得してください。
KAIS135-W	An error occurred while a compression was being executed.		○	○	圧縮処理でエラーが発生しました。	アーカイブファイルを採取資料として取得してください。

ﾒｯｾｰｼﾞID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS136-E	systoru was interrupted. signal no = %1. %1:受信したシグナル番号（10進形式）		○	○	systoru コマンドが中断されました。	次のどちらかの対処を実行してください。 ①SYSTORU_CLEANUP=OFFで，かつ，それまで採取した資料を必要とする場合は，データディレクトリ下に出力されているアーカイブ前のファイルを取得します。不要な場合は手動で削除します。 ②改めて資料を採取する場合は systoru コマンドを再実行します。
KAIS137-W	Internal error occurred.			○	採取パターン定義ファイルが不正です。	「６．３　トラブルシュートに必要な資料」の資料を手動で採取し，サポートに問い合わせてください。
KAIS138-W	filename = %1, line no = %2. %1:ファイル名 %2:行番号（10進形式）			○	メッセージ ID KAIS137-W の付加情報です。	－
KAIS139-W	Invalid format number (%1). %1:ファイル名			○	採取パターン定義ファイルのフォーマットバージョンが不正です。	「６．３　トラブルシュートに必要な資料」の資料を手動で採取し，サポートに問い合わせます。

ﾒｯｾｰｼﾞ ID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS140-W	An error occurred during the following system call. system call name = %1, error code = %2, msg = %3. %1:システムコール名 %2:エラー番号（10進形式） %3:メッセージ		○	○	システムコールエラーが発生しました。	次のどちらかの対処を実行してください。 ①データディレクトリに指定する絶対パスの長さが 70 文字を超えている場合，70 文字以下にして再実行します。 ②「６．３　トラブルシュートに必要な資料」の資料を手動で採取し，サポートに問い合わせます。
KAIS141-W	source = %1, line no = %2. %1:ソースファイル名 %2:行番号（10進形式）			○	メッセージ ID KAIS140-E に関する内部情報です。	－
KAIS142-W	An attempt to copy the logfile (%1) has failed. %1:ファイル名			○	実行履歴ログファイルのコピーに失敗しました。	次のどちらかの対処を実行してください。 ①ログファイルを格納するディレクトリに書き込み権限があるか確認します。 ②実行履歴ログファイルを手動で削除します。
KAIS143-W	Memory is insufficient.		○	○	メモリ不足が発生しました。	メモリが空くのを待って再実行してください。
KAIS144-E	The specified output file(%1) must be absolute path name. %1:ファイル名		○	○	指定された出力ファイル名が絶対パス形式ではありません。	-o オプションで指定する出力ファイル名を絶対パス形式にして再実行してください。
KAIS145-W	There is not system information because an error occurred during reading of all collection pattern definition files.		○	○	すべての採取パターン定義ファイルで読み込み中にエラーが発生したため，採取する資料がありません。	採取パターン定義ファイルが読み取り可能かどうかを確認してください。

ﾒｯｾｰｼﾞ ID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS146-W	An attempt to delete a %1 has failed. %1:ファイル名		○	○	圧縮処理後にアーカイブファイルが削除できませんでした。	アーカイブファイルが使用中でないか確認して削除してください。使用中の場合は使用しているプロセスを停止してから削除してください。
KAIS151-E	Additional information, path = %1. %1:ファイル名		○		メッセージ ID KAIS113-E に関する付加情報（エラーの対象となったファイル名）です。	―
KAIS152-W	Additional information, path = %1. %1:ファイル名		○	○	メッセージ ID KAIS140-W に関する付加情報（エラーの対象となったファイル名）です。	―
KAIS153-W	The size of the output data exceeded a limit size. filename = %1. size = %2 bytes. %1:収集するファイル名 %2:収集するファイルのサイズ（10 進形式）			○	資料の収集中に，それまで収集した資料の合計サイズが SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE の設定値の 50%を超えました。	次のどれかの対処を実行してください。 ①採取できた資料を取得します。 ②ディスクの空き容量を確認（または確保）して再実行します。 ③ SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE の値を見直して再実行します。

ﾒｯｾｰｼﾞ ID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS154-W	Retrying to stop a process(%1). PID = %2, COUNT = %3. %1:プロセス名 %2:プロセスID %3:リトライ回数			○	IT Report Utility が起動したプロセスを停止するための処理のリトライをします。	資料の採取が完了していないため,状況に応じて次のどちらかの対処を実行してください。 ①「Ctrl+break」または「Ctrl＋C」押下で中断した場合，資料が必要であればsystoru コマンドを再実行します。 ②上記以外の場合は,サポートに問い合わせます。
KAIS155-W	A process(%1) was stopped. PID = %2. %1:プロセス名 %2:プロセス ID			○	IT Report Utility が起動したプロセスの処理を停止しました。	資料の採取が完了していないため,状況に応じて次のどちらかの対処を実行してください。 ①「Ctrl+break」または「Ctrl＋C」押下で中断した場合，資料が必要であればsystoru コマンドを再実行します。 ②上記以外の場合は,サポートに問い合わせます。

ﾒｯｾｰｼﾞ ID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS156-W	Trying to terminate a process(%1). PID = %2. %1:プロセス名 %2:プロセス ID			○	IT Report Utility が起動したプロセスを強制終了します。	資料の採取が完了していないため,状況に応じて次のどちらかの対処を実行してください。 ①「Ctrl+break」または「Ctrl＋C」押下で中断した場合，資料が必要であればsystoru コマンドを再実行します。 ②上記以外の場合は,サポートに問い合わせます。
KAIS157-W	A process(%1) was forced to terminate. PID = %2. %1:プロセス名 %2:プロセス ID			○	IT Report Utility が起動したプロセスの強制終了をしました。	資料の採取が完了していないため,状況に応じて次のどちらかの対処を実行してください。 ①「Ctrl+break」または「Ctrl＋C」押下で中断した場合，資料が必要であればsystoru コマンドを再実行します。 ②上記以外の場合は,サポートに問い合わせます。
KAIS158-W	A process(%1) may remain because system call error occurred. PID = %2. %1:プロセス名 %2:プロセス ID		○	○	IT Report Utility が起動したプロセスを停止するための処理，または強制終了をするための処理に失敗しました。	タスクマネージャでプロセスの一覧を確認してください。 該当する「プロセス名」「プロセス ID」のプロセスが存在した場合,タスクマネージャでプロセスを選択して,プロセスを停止します。

ﾒｯｾｰｼﾞID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS159-W	systoru command is older than the collection pattern file. skip the file %1. %1:ファイル名		○	○	IT Report Utility が未対応の採取パターン定義ファイルを読み込んだため，スキップしました。	最新の IT Report Utility を入手し，更新インストールしてください。
KAIS211-I	Archive file = %1. size = %2 bytes. %1:アーカイブファイル名 %2:ファイルサイズ	○		○	（圧縮前の）アーカイファイルを採取資料として出力しました。	アーカイブファイルを採取資料として取得してください。
KAIS214-I	Output file = %1. size = %2 bytes. %1:圧縮ファイル名 %2:ファイルサイズ	○		○	圧縮ファイルを採取資料として出力しました。	圧縮ファイルを採取資料として取得してください。
KAIS215-I	Output = %1. %1:ディレクトリ名	○		○	（アーカイブ前の）ディレクトリ以下に採取資料を出力しました。	ディレクトリ以下のファイルを採取資料として取得してください。
KAIS306-I	The archive file has not been compressed. Use a following files as is.		○	○	アーカイブファイルが圧縮されませんでした。	アーカイブファイルを採取資料として取得してください。
KAIS307-Q	systoru command may cause high load of system. Is high load of system allowed?(defaults to No in 60 seconds) You choose: [Y]es to collect all reports. [N]o to collect reports which can be collected with low load. [Q]uit to terminate this command without collecting reports. (Yes, No or Quit?)[Y,N,Q]	○			systoru コマンドによってシステムの負荷が上がっても問題ないかを問い合わせるメッセージです。応答がなければ，60 秒後にデフォルトとして No を選択します。	システム負荷の監視や制御が必要ない状況(日中業務終了後など)では Y を入力してください。システム負荷の監視や制御が必要な状況では N を入力してください。
KAIS308-I	KAIS308-I:systoru was terminated by choosing 'Quit'.		○	○	Quit が選択されたため systoruコマンドの実行を中断します（Windows 版 02-00以降だけ）。	systoru コマンドを再度実行してください。
KAIS402-I	KAIS402-I:In choice, '%1' key was input. %1:入力キー名			○	%1 キーが入力されました（Windows 版 02-00 以降だけ）。	―

ﾒｯｾｰｼﾞID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS403-I	KAIS403-I:'No' was chosen by default.	○		○	デフォルトとしてNoが選択されました（Windows 版 02-00 以降だけ）。	KAIS307-Q へのYキー入力，または-m all オプション指定ありで systoru コマンドを再度実行してください。

（凡例）

標：標準出力に出力されます。

エ：標準エラーログに出力されます。

ロ：実行ログファイルまたは実行履歴ログファイルに出力されます。

付録C. 実行時間，ファイルサイズ，CPU使用率とメモリ使用量の目安

IT Report Utility で資料を採取した場合の実行時間および出力ファイル（採取資料）のサイズの目安を，次に示すモデルケースを例に説明します。なお，表 C-1 と表 C-2 の数値はシステム構成，設定，インストールされているソフトウェアやシステムの稼働時間などによって異なります。IT Report Utility を適用するシステムで事前に検証してください。

C.1 システム構成（モデルケース）

（1）サーバスペック

・Windows 2003 で使用するサーバ

モデル　：日立アドバンストサーバ HA8000/TS20BH モデル
CPU　　：Intel(R) Xeon(R)プロセッサ (E5450@3.0GHz) ×1
メモリ　：4GB

・Windows 2008 および Windows 2012 で使用するサーバ

モデル　：日立アドバンストサーバ HA8000/TS20AM モデル
CPU　　：Intel(R) Xeon(R)プロセッサ (E5-2470@2.3GHz) ×2
メモリ　：32GB

（2）OS

Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition, SP2 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Enterprise 日本語版
Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter 日本語版

（3）ログサイズ※

システムイベントログ：20MB
アプリケーションイベントログ：20MB
クラスタログ：20MB
注※　ログのサイズによって，実行時間，採取資料のサイズが変わります。

（4）その他システム構成

次のコンポーネントを追加しています。
Active Directory®
Microsoft® Failover Cluster

C.2　実行時間と出力ファイルのサイズ

モデルケースについて実行時間と採取資料のサイズを示します。なお，お客様のシステム構成や設定によって，実行時間が長くなるおそれがあります。IT Report Utility を適用するシステムで事前に検証してください。

表 C-1　実行時間と採取資料（出力ファイル）のサイズ

OS	オプション指定	実行時間	出力ファイル（圧縮ファイル）	展開後のファイル（ファイル群）
Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition, SP2	-t config -m all	約 200 秒	約 2.5MB	約 30MB
	-t failure -m all	約 220 秒	約 3.0MB	約 95MB
Windows Server 2008 R2 SP1 Enterprise	-t config -m all	約 280 秒	約 5.0MB	約 55MB
	-t failure -m all	約 300 秒	約 6.5MB	約 100MB
Windows Server 2012 Datacenter	-t config -m all	約 200 秒	約 4.0MB	約 45MB
	-t failure -m all	約 220 秒	約 5.5MB	約 85MB

C.3　CPU 使用率とメモリ使用量

モデルケースについて CPU 使用率の平均値と最大値，メモリ使用量の最大値を示します。なお，お客様のシステム構成や設定によって，CPU 使用率が高くなるおそれがあります。IT Report Utility を適用するシステムで事前に検証してください。

表 C-2　CPU 使用率とメモリ使用量

OS	オプション指定	CPU 使用率（平均値）	CPU 使用率（最大値）	メモリ使用量（最大値）
Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition, SP2	-t config -m all	約 15%	約 50%	約 15MB
	-t failure -m all	約 15%	約 50%	約 15MB
Windows Server 2008 R2 SP1 Enterprise	-t config -m all	約 10%	約 55%	約 30MB
	-t failure -m all	約 10%	約 55%	約 30MB
Windows Server 2012 Datacenter	-t config -m all	約 5%	約 25%	約 60MB
	-t failure -m all	約 5%	約 25%	約 60MB

付録D. ファイル一覧

D.1 インストールファイル一覧

IT Report Utility でインストールされるファイルの一覧を，次の表に示します。

「容量」の列に 2 つの数値が記載されている場合は，32 ビット版，64 ビット版でそれぞれ容量が異なることを示します。また，表 D-1 の項番 7 から項番 20，表 D-2 の項番 7 から項番 18，表 D-3 の項番 7 から項番 17 は IT Report Utility が使用する専用のコマンドです。これらの編集や直接実行は行わないでください。

表 D-1 インストールファイル一覧 (Windows 2003)

項番	ディレクトリ／ファイル名	容量(x86/x64)
1	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin	－
2	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥systoru.exe	175KB/297KB
3	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥arcfile.exe	32.5KB/32.5KB
4	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥expfile.$$$	20.0KB/20.0KB
5	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥expfile.$$E	20.5KB/20.5KB
6	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool	－
7	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_application_list.bat	2.94KB/5.63KB
8	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_cluster.bat	1.35KB/1.35KB
9	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_cluster_list.bat	986byte/986byte
10	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_configauto.bat	1.17KB/なし
11	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_exchng.bat	2.61KB/なし
12	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_hitachi_pp_list.bat	3.04KB/5.91KB
13	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_hotfix.bat	1.85KB/1.85KB
14	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_ipsec.bat	2.03KB/2.03KB
15	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_recovery.bat	5.69KB/5.69KB
16	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_termservice.bat	953byte/953byte
17	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_eventlog_evt.vbs	2.00KB/2.00KB
18	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_eventlog_txt.exe	91.1KB/91.1KB
19	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_filever.exe	95.1KB/95.1KB
20	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥om_getinstpaths.exe	48.0KB/48.0KB
21	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥Y　　(隠しファイル)	3byte/3byte
22	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥template	－
23	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥template¥systoru_conf	118byte/118byte
24	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config	－
25	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config¥systoru_conf	118byte /118byte
26	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥pattern	－
27	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥pattern¥!100_os_common	20.8KB/20.7KB
28	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥pattern¥!300_sras200	1.43KB/1.43KB
29	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data	－

項番	ディレクトリ／ファイル名	容量(x86/x64)
30	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log	－

(凡例)

－：ディレクトリです。

表 D-2　インストールファイル一覧 (Windows 2008)

項番	ディレクトリ／ファイル名	容量(x86/x64)
1	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin	－
2	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥systoru.exe	175KB/297KB
3	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥arcfile2.exe	41.5KB/41.5KB
4	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥expfile.$$$	28KB/28KB
5	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥expfile.$$E	22.5KB/22.5KB
6	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool	－
7	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_application_list.bat	2.94KB/5.63KB
8	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_cluster.bat	1.35KB/1.35KB
9	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_cluster_list.bat	986byte/986byte
10	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_cluster_log.bat	1.91KB/1.91KB
11	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_configauto.bat	1.17KB/なし
12	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_exchng.bat	なし/6.57KB
13	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_hitachi_pp_list.bat	3.04KB/5.91KB
14	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_ipsec.bat	2.03KB/2.03KB
15	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_recovery.bat	5.20KB/5.20KB
16	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_termservice.bat	953byte/953byte
17	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_filever.exe	95.1KB/95.1KB
18	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥om_getinstpaths.exe	48.0KB/48.0KB
19	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥Y　　(隠しファイル)	3byte/3byte
20	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥template	－
21	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥template¥systoru_conf	118byte/118byte
22	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config	－
23	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config¥systoru_conf	118byte /118byte
24	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥pattern	－
25	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥pattern¥!100_os_common	21.2KB/21.7KB
26	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥pattern¥!300_sras200	1.43KB/1.43KB
27	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data	－
28	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log	－

(凡例)

－：ディレクトリです。

表 D-3　インストールファイル一覧（Windows 2012）

項番	ディレクトリ／ファイル名	容量
1	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin	－
2	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥systoru.exe	297KB
3	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥arcfile2.exe	41.5KB
4	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥expfile.$$$	28KB
5	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥expfile.$$E	22.5KB
6	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool	－
7	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_application_list.bat	5.63KB
8	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_cluster.bat	1.35KB
9	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_cluster_list.bat	1.06KB
10	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_cluster_log.bat	1.95KB
11	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_exchng.bat	6.57KB
12	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_hitachi_pp_list.bat	5.91KB
13	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_ipsec.bat	2.03KB
14	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_recovery.bat	5.20KB
15	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_termservice.bat	953byte
16	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_device_powerstate.exe	91.1KB
17	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥GET_filever.exe	95.1KB
18	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥om_getinstpaths.exe	48.0KB
19	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥tool¥Y　　（隠しファイル）	3byte
20	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥template	－
21	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥template¥systoru_conf	118byte
22	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config	－
23	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥config¥systoru_conf	118byte
24	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥pattern	－
25	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥pattern¥!100_os_common	21.4KB
26	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data	－
27	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log	－

（凡例）

－：ディレクトリです。

D.2　systoruコマンド実行時に作成されるファイル

IT Report Utility 実行時に作成されるファイルの一覧を次の表に示します。

表 D-4　systoru コマンド実行時に作成するファイル一覧

#	ファイル名	容量	備考
1	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥arcfile.ini	1KB未満	日立自己展開型アーカイバ用ファイルです。(Windows 2003だけ)
2	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥bin¥arcfile2.ini	1KB未満	日立自己展開型アーカイバ用ファイルです。(Windows 2008以降)
3	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data¥*<コンピュータ名>_YYMMDDhhmmss.cab*	可変※	systoruコマンドが出力する採取資料です（デフォルト）。
4	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data¥*<コンピュータ名>_YYMMDDhhmmss.exe*	可変※	圧縮前の採取資料のアーカイブファイルです（デフォルト）。圧縮完了後に削除されます。
5	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥data¥*<コンピュータ名>_YYMMDDhhmmss*	可変※	アーカイブ前の採取資料が格納されるディレクトリです（デフォルト）。アーカイブ完了後に削除されます。
6	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥systoru.log	約20KB～200KB	systoruコマンドの実行時トレース情報(1回分)です。ファイルのサイズは採取資料の数やエラーの発生状況によって異なります。
7	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥systoru_old.log	約20KB～200KB	#5の1世代前のファイルです。
8	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥systoru_hist.log	最大10KB	systoruコマンドの簡易ログを累積して記録します。
9	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥systoru_hist_old.log	最大10KB	#7の1世代前のファイルです。#7が10KBを超えたタイミングで切り替わります。
10	%ProgramFiles%¥Hitachi¥systoru¥log¥systoru_stderr.log	約10KB	systoruコマンド実行中にエラーメッセージを一時的に保存します。ファイルのサイズはエラーの発生状況によって異なります。systoruコマンド終了時には0バイトになります。

注※　該当する資料の容量は，systoru コマンド実行時の環境により変化します。ただし，構成定義ファイルの設定値 SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE を超えてディスクを使用することはありません。

付録E. 01-02から01-03の間で追加／変更になった資料

IT Report Utility のバージョン 01-02 からバージョン 01-03 の間で追加／変更になった採取資料を次の表に示します。なお，表の項番は表 A-1 の項番と一致します。

表 E-1　01-02 から 01-03 の間で追加／変更になった採取資料

項番	分類	資料名	採取情報（変更後）	変更種別	採取情報（変更前）
3	システム情報	システム情報※1	%SystemRoot%¥system32¥systeminfo.exe	追加	－
6		ブートデバイス情報	%SystemRoot%¥system32¥bootcfg.exe /query	追加	－
19		Internet Explorer モジュール情報※2	IT Report Utility 付属のコマンド	追加	－
20			IT Report Utility 付属のコマンド	変更	IT Report Utility 付属のコマンド
25		ボリュームシャドウコピー	%SystemRoot%¥system32¥vssadmin.exe List Writers	追加	－
26			%SystemRoot%¥system32¥vssadmin.exe List Providers	追加	－
27			%SystemRoot%¥system32¥vssadmin.exe List ShadowStorage	追加	－
28			%SystemRoot%¥system32¥vssadmin.exe List Shadows	追加	－
29			%SystemRoot%¥system32¥vssadmin.exe List Volumes	追加	－
30		共用フォルダ	%SystemRoot%¥system32¥net.exe use	追加	－
31		ボリューム情報	%SystemRoot%¥system32¥mountvol.exe	追加	－
32		電源設定	%SystemRoot%¥system32¥powercfg.exe -Q	追加	－
33			%SystemRoot%¥system32¥powercfg.exe -A	追加	－
34			%SystemRoot%¥system32¥powercfg.exe -DEVICEQUERY all_devices_verbose	追加	－
36		ページファイルレジストリ情報	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥Memory Management 以下のすべてのサブキーと値	追加	－
37		コントロールパネルレジストリ情報	HKEY_CURRENT_USER¥Control Panel 以下のすべてのサブキーと値	追加	－
54	ネットワーク情報	TCP/IP レジストリ情報	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters /s 以下のすべてのサブキーと値	追加	－
55			HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip6¥Parameters /s 以下のすべてのサブキーと値	追加	－
56		ホスト名と IP アドレスの一覧	%SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥hosts	追加	－

注※1　Windows 2003 版の環境で採取する資料として追加しました。

注※2　項番19は Windows x64 版の環境で採取する資料「iefiles_x86.txt」を追加しました。また，項番20は Windows x64 版の環境で採取する資料「iefiles.txt」を「iefiles_x64.txt」に変更しました。

付録F. 02-00から02-00-/Aの間で追加になった資料

IT Report Utility のバージョン 02-00 からバージョン 02-00-/A の間で追加になった採取資料を次の表に示します。なお，表の項番は表 A-1 の項番と一致します。

表 F-1　02-00 から 02-00-/A の間で追加になった採取資料

項番	分類	資料名	採取情報（変更後）	変更種別	採取情報（変更前）
78	ソフトウェア情報	Hotfix 情報	%SystemRoot%¥system32¥wbem¥wmic.exe qfe get /value※	追加	－

注※　Windows 2008 版の環境で採取する資料として追加しました。

付録G. 02-00-/Aから02-01の間で追加／変更になった資料

IT Report Utility のバージョン 02-00-/A からバージョン 02-01 の間で追加／変更になった採取資料を次の表に示します。なお，表の項番は表 A-1 の項番と一致します。

表 G-1　02-00-/A から 02-01 の間で追加になった採取資料

項番	分類	資料名	採取情報（変更後）	変更種別	採取情報（変更前）
24	システム情報	サーバ役割管理	GET-WindowsFeature（PowerShell コマンドレット）※	追加	－
35		電源設定	IT Report Utility 付属のコマンド※	変更	%SystemRoot%¥system32¥powercfg.exe -DEVICEQUERY all_devices_verbose
104	タスク情報	スケジュール情報	%SystemRoot%¥system32¥schtasks.exe※	追加	－

注※　Windows 2012 版の環境で採取する資料として追加／変更しました。